

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心
科目責任者	野口 芳宏
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

DVDの視聴や様々な社会的・道徳的・福祉を題材とした資料を通して、福祉や社会に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。

学生の達成目標

1. 自分の目標に向かって、将来の目標を持つことができる。
2. 各分野の専門家(含 福祉)の生き方にふれ、自分のこれからの人生と重ね合わせる。
3. 新聞や雑誌の掲載された社会事象に関心を高める。
4. 今後の自分の生活や将来に向けた展望を持つことができる。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション「現在の自分とこれからの自分の生き方」について小論文を書く。
第2回 植草学園短期大学の歴史「社会の変遷とともに見つめてきた教育」
第3回 建学の理念を語る「植草学園短期大学が目指すもの」
第4回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第5回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |
|-----|---|

	第6回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第7回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第8回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第9回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第10回 福祉に関する新聞記事を読み，意見文を書き，発表する。 第11回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。 第12回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。 第13回 高齢者福祉に関する情報に関心を持つ。 第14回 DVについて話し合い，考えを深める。 第15回 まとめ 次年度への課題	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	さまざまな資料・文献の社会事象を通して自分の考えを持ち，自分の考えを相手に伝えることができる。自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。レポート（70%），振り返り（20%），授業中の意見文（10%）
	評価の方法	レポート意見文，振り返りカード，授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜資料配布（要整理・要保存）	
推薦図書等	書籍名	授業中に紹介する予定
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コンピュータ概論 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論 地域
科目責任者	緒方 佐紀子
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	12000501

教室

単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	テキストを参考に練習問題に取り組み、その後プリントによる演習問題を自由に作成する。
-----------	---

学生の達成目標	1. Windowsの基本操作方法を習得し、Word、Excelの実習により文章作成、表計算、統計の理解を学ぶ。アプリケーションソフト間のデータ受け渡しにより、ファイル知識を習得する。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識 第2回 メモ帳, Wordによる入力, 保存, ファイル管理 第3回 Wordの基本操作1 (文字, 文章入力, 文書保存) 第4回 Wordの基本操作2 (編集機能) 第5回 Wordの基本操作3 (表, 罫線) 第6回 Wordの基本操作4 (ビジュアルな文書, 図形) 第7回~第8回 総合的な文章の作成 第9回 Excelの基本操作1 (ワークシート, セル, 表) 第10回 Excelの基本操作2 (計算式を用いた表の作成, 挿入/削除など) 第11回 Excelの基本操作3 (グラフの作成) 第12回 Excelの基本操作4 (グラフの変更, 装飾など) 第13回 Excelの基本操作5 (関数の使い方) 第14回 Excelで基本操作6 (データベース機能) 第15回 まとめ (総合問題の提出)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	演習レポート, 授業出席, 授業参加態度を考慮して行う。
	評価の方法	演習レポート, 授業出席, 授業参加態度を考慮して行う。
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word&Excel2010』
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

書籍名	『よくわかる Word 2010 基礎, 応用』
著者名	
出版社	FOM出版
価格	2,000円
ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	『よくわかる Excel 2010 基礎, 応用』
著者名	
出版社	FOM出版
価格	2,000円
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

キャリアガイダンスⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅠ

科目責任者 川村 博子

担当教員
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

1. 自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。
2. 将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回	情報収集（キャリア支援室の利用）
	第3回	自己理解を深める
	第4回	キャリアプラン
	第5回	グループワーク
	第6回	マナー講座
	第7回	卒業生の話を聞く会
	第8回	アサーティブ講座
	第9回	作文添削
	第10回	講演会
	第11回	ストレスマネジメント講座
	第12回	職場の話を聞く会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等
	評価の方法	提出レポート、授業参加態度等、総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンスⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅡ

科目責任者 川村 博子

担当教員
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

1. 自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける。
2. 将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容

第1回	第1回 オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について
第2回	第2回 進路について考える（キャリアについて・職場定着について）
第3回	第3回 情報収集
第4回～第5回	第4回～第5回 グループワーク
第6回	第6回 アサーティブ講座
第7回	第7回 卒業生のお話を聞く会
第8回	第8回 講演会
第9回	第9回 ストレスマネジメント講座
第10回	第10回 ライフプラン（保険）講座
第11回	第11回 職場定着のための労働・社会保障関係法の知識

第12回	ハラスメント講座
第13回～第14回	グループ面談（進路希望）
第15回	現場の話を聞く会

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等
	評価の方法	提出レポート、授業参加態度等、総合的に評価する

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

推薦図書等

参考URL

備考

環境と人間

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（自然系）

授業科目名 環境と人間

科目責任者 村上 公信

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限
12000901
12000902

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「地球環境を考える」に関する講義が中心になるが、DVD視聴や新聞記事による探究学習なども組み込んで授業を行う。＊健康管理士一般指導員資格を取得する場合は選択必修となる。

学生の達成目標

- 身近な自然環境や環境問題から、地球規模で抱える環境問題までを、人間社会や健康との関わりから学ぶとともに、人間を始め多くの生物がこの地球で生き続けるための基盤となる必要な情報について探究学習を通して考える。
- 地域介護福祉専攻では、健康管理士一般指導員受験の内容に対応する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 環境とは何か・環境問題とは何か
 - 第2回 環境を形づくるもの－生態系
 - 第3回 自然界の物質循環
 - 第4回 体内環境の調節
 - 第5回 大気の汚染・原子力発電所事故による放射線汚染
 - 第6回 オゾン層の破壊と地球温暖化問題
 - 第7回 水の汚染と水質浄化
 - 第8回 酸性雨
 - 第9回 土壌の汚染
 - 第10回 環境ホルモンとダイオキシン

- 第11回 騒音・振動・悪臭と健康
- 第12回 環境と食の問題
- 第13回 環境汚染に対する行政上の対応
- 第14回 環境問題のための新技術
- 第15回 「環境と人間」のまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	試験の成績に，出席状況・学習意欲や学習他愛度，毎授業時に提出する小レポートなどを加味して総合的に評価する
	評価の方法	試験の成績に，出席状況・学習意欲や学習他愛度，毎授業時に提出する小レポートなどを加味して総合的に評価する

教科書	書籍名	地球環境がわかる
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	特になし。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

総合英語

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（外国語）

授業科目名 総合英語

科目責任者 北條 洋子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 14000001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護士として、英語で簡単なコミュニケーションができるようになる。

- 学生の達成目標
1. 各回のテーマに従い、原則として、次の内容に関する授業を行う。
英語圏諸国の特色ある場面について聞き取り練習や表現練習を行う。
 2. 日常のあいさつや話題を取り入れながらのコミュニケーション活動を練習し、発表する。
 3. マザーテレサの生涯を読み、心の葛藤を知る。
将来、介護に携わる機会を考え、英語を使ってコミュニケーションしようとする態度の育成を考えて授業を行う。

授業内容

- 第1回 第1回 授業目標と進め方 共通語としての英語／外国人が多くなっている日本
第2回 名前について 個人情報／初対面の人とのコミュニケーション／「健康な生活とは」
第3回 外国の祭 自己紹介しあう／身体の部位の英語／「私たちの体内では」
第4回 外国と日本の違い① 英会話の話題／栄養素の英語／「良い食べ物とは」
第5回 外国と日本の違い② 英会話の5つのコツ／「世界中の食

	べ物の特徴」 第6回 世界の朝食 話す時のポイント／食事の英語／「食前になぜ手を洗うか」 第7回 気温や年号の英語 聞き手のマナー／症状の聞き方／「昼食を考える」 第8回 病気やけがの症状や気遣う会話 健康な生活の助言／「パラリンピック」 第9回 外国のおやつ 紅茶の話／「マザーグース」内の健康習慣としつけ 第10回 人間と動物 子どもと動物／補助犬等／「身体を守るには」 第11回 英語圏の学校 非言語コミュニケーション／「あなたの身体と運動」 第12回 外国の福祉意識 バリアフリーとユニバーサルデザイン／地域福祉の具体例 第13回 街づくりと集団意識づくり 道案内の会話／「アウトドア活動の重要性」 第14回 障害を克服されている方ー諸外国と日本から 「休養と睡眠」 第15回 レポート発表批評会 まとめ	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	①提出物（40%） ②筆記テスト（30%） ③参加態度（30%） を総合して評価する。
	評価の方法	①は本授業で学習したことに関する調査報告レポート ②は英語や英語圏の生活や文化についての筆記テスト ③は積極的な発表等の参加態度を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 Julie Penn: How to Stay Healty (Oxford University Press) を主要な教材とし、プリントも配布する。	
推薦図書等	書籍名	Word by Word イラスト英和辞典
	著者名	Pearson Longman
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（体育）

授業科目名 スポーツ・レクリエーション 地域

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 15000101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し，福祉領域で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し，現場でも役立つような資料作りをする。

学生の達成目標

1. スポーツやレクリエーションは福祉領域における生きがいづくりや健康づくり,リハビリテーションなどとも密接に関連する重要な要素となっている。
2. 本授業では各種スポーツやレクリエーション活動を享受しつつ,地域のコミュニティ及び高齢者や障害者におけるレクリエーション援助法の基本的な部分について学習する。
3. さらに,組織体のあり方,対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習をする。

授業内容

第1回 ガイダンス
第2回 アイスブレイキング
第3回～第5回 フライング・ディスク(ドッジビー)
第6回～第8回 バドミントン
第9回～第11回 ソフトバレーボール
第12回 インディアカ

第13回～第14回 ペタンク
第15回 前期まとめ
第16回 スポーツとレクリエーション
第17回～第26回 集団レクリエーション援助実習①～⑩
第27回 援助実習振り返り
第28回 ホスピタリティトレーニング
第29回 チャレンジ・ザ・ゲーム
第30回 まとめ、評価

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
	評価の方法	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を配付	
推薦図書等	書籍名	やさしいレクリエーション実践
	著者名	(財) 日本レクリエーション協会編
	出版社	
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	レクリエーション・インストラクター養成テキスト
	著者名	
	出版社	(財) 日本レクリエーション協会編
	価格	2,100円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

人間の尊厳と自立

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 人間の尊厳と自立

科目責任者 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

人間の尊厳と自立が基本的な人権であることを理解する。事例を通して、自分の問題として理解できるようにする。

学生の達成目標

1. 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持を自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。
2. 人間の尊厳、社会参加と自立の理念を理解し、介護・支援する場面で対応できる倫理観と実践力を養う。

授業内容

- 第1回 第1回 介護福祉における人間の尊厳の意義
第2回 介護福祉における自立の意義
第3回 人間の尊厳と介護の関係（マズローの欲求段階説）
第4回 介護における自立の持つ意義（自律と自立）
第5回 介護における自立の持つ意義（ICF、リハビリテーション、自己実現の視点）
第6回 人権思想に基づいた人間の尊厳と自立
第7回 理念価値としての人間の尊厳と自立、生活支援における倫理
第8回 法制度からみた人間の尊厳と自立
第9回 ライフステージに応じた自立の課題
第10回 介護における尊厳の保持と自立支援
第11回 介護における尊厳の保持と自立支援：事例研究
第12回 人間の尊厳と自立と介護福祉士養成体系
第13回 権利擁護(高齢者、障害者、児童)

第14回 同上
第15回 災害時の人間と尊厳と自立とは、まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験70%、レポート・受講態度30%
	評価の方法	試験、レポート、受講態度により評価する。
教科書	書籍名	「人間の尊厳と自立」
	著者名	黒澤貞夫
	出版社	建帛社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

人間関係の形成とコミュニケーション

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 人間関係の形成とコミュニケーション

科目責任者 川村 博子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 自己理解、他者理解、コミュニケーション能力を高めるために演習を中心に行う。

学生の達成目標 1. 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養う。

授業内容	第1回	第 1 回	人間関係の形成：紹介しあう
		第 2 回	人間関係の形成：メッセージの共有する意欲をたかめる
		第 3 回～第 4 回	人間関係の形成：自己理解（キャリアデザインノート使用）
		第 5 回	人間関係の形成：他者理解（多様な価値観を知る）
		第 6 回	人間関係の形成：協力
		第 7 回	自分の話し方を知る（逐語記録）
		第 8 回	コミュニケーションの基礎（意義と概要）
		第 9 回	コミュニケーションの技法（非言語的コミュニケーション）
		第10回～第11回	コミュニケーションの技法（言語的コミュニケーション）
		第12回	職場における人間関係とコミュニケーション
		第13回	利用者・家族との人間関係とコミュニケーション
		第14回	道具を用いた言語的コミュニケーション
		第15回	災害時の人間関係とコミュニケーション、まとめ
予習・復習の内容	予習		
	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準	試験80%、レポート、受講態度20%	
	評価の方法	試験、レポート、受講態度により評価する。	
教科書	書籍名	「人間関係とコミュニケーション」	
	著者名	諏訪茂樹	
	出版社	建帛社	
	価格	2310円	
	ISBN・ISSN		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

生活と福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活と福祉

科目責任者 根本 曜子

担当教員 中西 正人

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

社会の中での介護福祉士を意識しつつ、福祉の側面から、家族、地域、社会、日本全体へ視野を広げ、自分の生活と社会がどうつながっているのかを捉える。なぜ、個人的な生活の問題が社会で支援されているのかを考え、そのための社会保障制度と福祉のしくみと成り立ちについての必要な知識を習得する。

学生の達成目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単二で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する
2. 自分と自分の家族がどのように社会とつながっているのかを考え、ライフスタイル変化、社会構造の変容を捉えた上で、高齢者、障害者を含めたすべての人の生活と地域、社会の関わりを理解する。
3. それを実現するために我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷の仕組みについて個人と社会の視点から理解する。

授業内容

第1回

第1回 オリエンテーション

第2回 家庭の基本的機能を学び、家族の概念、変容、構造や形態、さまざまな家族の機能や役割と家族の結びつきについて討議し、多様化する家族を捉える視点を養う。

第3回 地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会・過疎化と地域社会などを学び、自分の家族がどのように地域につながっているか地域社会の集団・組織を考える。

第4回 専門職と教育・職業の関わりを学ぶ。少子化は高齢化とどのような関係があるのかを学ぶ。生涯学習とまちづくりへの参加を

学ぶ

第5回 わが国における社会福祉と社会保障のそれぞれの役割について学ぶ。

社会福祉の基本的な理念や役割について、地域福祉の視点から学ぶ。

社会福祉の実施体制や公私の役割分担など、制度の運用の基礎について学ぶ。

第6回 社会保障の定義、その目的や機能について学ぶ。社会保障制度にはどのような再度があるのか理解する。私たちの生活や人生のなかでの社会保障の位置づけについて学ぶ

第7回 社会保障や社会福祉に対する考え方はどのように変化してきたのかについて学ぶ

第8回 社会保障制度の見直し期 社会保障改革

第9回 社会保障制度の発達の時代を知る

第10回 社会保障制度の仕組み

第11回 社会保障制度の実際①（年金保険）

第12回 社会保障制度の実際②（医療保険、後期高齢者医療制度、労働者関連の社会保険、各種社会扶助の概要）

第13回 現代社会と社会保障制度

第14回 自分たちが生きて生活することとそれを支える福祉と社会保障がどのようにに関わり、いかに必要であるかを考える

第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、自分の考えを相手に伝えることができる。 自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。 テスト（70%） レポート（20%） リアクションペーパー（10%）
	評価の方法	テスト及びレポート、リアクションペーパーにより評価する。

教科書

書籍名	「新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解」
著者名	
出版社	中央法規出版
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	「社会福祉小六法」
著者名	
出版社	ミネルヴァ書房
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	「介護福祉用語辞典」
著者名	
出版社	ミネルヴァ書房
価格	
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護保険制度とその他の諸制度 福祉学科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護保険制度とその他の諸制度 福祉学科

科目責任者 松井 奈美

担当教員 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

各制度の背景や仕組みを講義で学習した後、介護福祉実践における制度活用の在り方を具体的に説明できることを目指したグループ学習を行う。

学生の達成目標

1. 高齢者福祉の要「介護保険制度」、障害者福祉の要「障害者総合支援法」、関連する諸制度を概観した上で、介護福祉実践に必要な制度理解を深める。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション、社会保障制度の概要を確認（復習）する。 |
| | 第2回 我が国の介護保険制度創設の背景と目的、変遷について理解する。 |
| | 第3回 介護保険制度の仕組みを理解する。 |
| | 第4回 介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類について学ぶ。 |
| | 第5回 日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。 |
| | 第6回 介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割を理解する。 |
| | 第7回 障害者総合支援法創設の背景と目的、動向について学ぶ。 |
| | 第8回 障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負 |

担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ)
第9回 障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容，組織・団体の役割について学ぶ）
第10回 介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等についてグループ学習したことを発表する）
第11回 介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度についてグループ学習したことを発表する）
第12回 介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度についてグループ学習したことを発表する）
第13回 介護福祉実践に関連する諸制度④（医療関係者に関する制度・法律，医療関係施設に関する制度についてグループ学習したことを発表する）
第14回 介護福祉実践に関連する諸制度⑤（生活保護法・老人福祉法・諸外国の社会保障制度についてグループ学習したことを発表する）
第15回 介護福祉専門職としての諸制度理解の必要性を確認する（まとめ）
第16回 試験
第7回～第9回…川村担当，その他…松井担当

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テスト，レポート，グループ学習への取り組み：30%，期末試験：70%（松井50%，川村20%）で評価する。
	評価の方法	小テスト，レポート，グループ学習への取り組み：30%，期末試験：70%（松井50%，川村20%）で評価する。
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』
	著者名	
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	必要に応じて紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	☐ 上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

介護福祉特論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護福祉特論

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩
松井 奈美

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 国家試験の合格に相応する内容に準じた卒業時共通試験に合格できる実力を養う。2. 初回に模擬試験を行い、その解答と解説を各授業回で学びながら主体的な学習につなげていく。3. 本試験の直前に再度模擬試験を行い、学習によって養われた自己の実力を確かめる。

学生の達成目標 1. 介護福祉教育の総仕上げとして関連する専門知識を統合し身につける。

授業内容

第1回	第1回 模擬試験 ①
	第2回 人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション
	第3回 社会の理解
	第4回 発達と老化の理解
	第5回 認知症の理解
	第6回 障害の理解
	第7回 コミュニケーション技術
	第8回 介護の基本
	第9回 こころとからだのしくみ
	第10回 生活支援技術 その1
	第11回 生活支援技術 その2

第12回 介護過程 その1
第13回 介護過程 その2
第14回 模擬試験 ②
第15回 卒業時共通試験

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	共通試験において60%以上正答できた者を合格とし、出席状況と得点に応じて成績評価する。
	評価の方法	共通試験において60%以上正答できた者を合格とし、出席状況と得点に応じて成績評価する。
教科書	書籍名	目で見て覚える！介護福祉士国試ナビ
	著者名	いとう総研資格取得支援センター編
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	授業の中で必要に応じて示す。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

災害・緊急時の介護

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 災害・緊急時の介護

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人
松井 奈美

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実際の事例等を通し、状況に応じた災害時の介護実践力をたかめるようにする。

学生の達成目標 1. 災害や緊急時によって生じる直後・中期・長期的な介護の問題を理解し、介護福祉士としての行動がとれるように基礎的知識と技術を養う。

授業内容
第1回 第1回 災害介護の必要性
第2回 災害・緊急時の種類と災害サイクル、トリアージの存在
第3回 人・生活に及ぼす影響
事例に見る生活保障
第4回 災害時のコミュニケーション支援
第5回 災害時支援の視点 からだところ
1) 災害の種類別にみた健康や生活の問題、災害時期別・避難生活別に見た健康問題、日常生活問題、生活問題
第6回 災害時の生活支援技術 1) 「環境」
第7回 災害時の生活支援技術 2) 「食」

- 第8回 災害時の生活支援技術 3)「排泄」
第9回 災害時の生活支援技術 4)「睡眠」
第10回 災害時の生活支援技術 5)「清潔」
第11回 災害時の生活不活発病の予防
第12回 社会福祉施設における災害時の対応と防災計画
第13回 災害時の地域住民らとの防災計画（ハザードマップ含む）
第14回 災害時の働く障害者への支援と災害後の就労・継続支援
第15回 まとめ、災害時の介護福祉士としての役割

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	授業参加度とレポート、テストの総合評価

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

推薦図書等

参考URL

備考

地域共生論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	地域共生論
科目責任者	五十嵐 正人

担当教員	宮下 裕一 清宮 宏臣
------	----------------

授業形態	演習
------	----

開講時期	通期
------	----

単位数	1
-----	---

配当年次・対象学生	1年次
-----------	-----

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	地域共生論という科目名の通り、「地域で生きる」とは何かということについて、実際の活動を通しながら考え、学ぶことを目的とする。
-----------	--

学生の達成目標	1. 短大周辺や学生自身が暮らす地域への活動参加を促し、社会資源の理解や多様な文化・価値観に触れながら地域社会のありようについて理解する。
	2. 障害のある方が地域で生活することについて、その支援の在り方や共生のあり方について理解する。
	3. 人が自立した生活を営むことについて、個人、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、日々の生活と社会とのかかわりについて理解する。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（科目の内容、授業の進め方など） 第2回 地域生活支援の歴史 第3回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（1） 第4回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（2） 第5回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（3） 第6回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（4） 第7回 障害をもつ人の暮らし方と共生について（5） 第8回 グループワーク（1）（中間まとめ；学外活動の振り返り） 第9回 グループワーク（2）（身近な社会資源を知る；社会福祉
------	-----	--

協議会ほか)
第10回 障がいのある子の保護者の方からの話
第11回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（１）知的障がい、発達障がいについて
第12回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（２）重症心身障がいについて
第13回 社会資源（制度や施設など）と支援の現状（３）精神障がい、触法障がいについて
第14回 福祉実践者からの話
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）や毎講義後のレポート（30%） 学外活動の時間数、活動後レポートの内容やファイル整理など（70%） などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）や毎講義後のレポート（30%） 学外活動の時間数、活動後レポートの内容やファイル整理など（70%） などを総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		特になし。適宜資料等を用意する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 I（介護福祉論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。
2. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
3. 介護におけるチームケア等について、理解する。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス 介護福祉士を取り巻く状況、介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化
第2回	現代社会と介護—介護問題の背景①—日本の高齢化の特徴、 家族形態、家族機能
第3回	現代社会と介護—介護問題の背景②—老老介護、孤独死、 高齢者虐待、認知介護
第4回	尊厳を支える介護 福祉の主要理念（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援個別ケア、ICF）
第5回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護 福祉士法 ①定義、倫理、養成制度、プライバシーの保護
第6回	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ社会福祉士及び介護 福祉士法 ②専門職能団体の活動、職業倫理
第7回	介護実践における連携①多職種連携—チームの種類と機能、

		連携の意義と目的	
	第 8 回	介護実践における連携②	—他の福祉職の機能と連携
	第 9 回	介護実践における連携③ 医療行為	—保健医療職との連携、
	第10回	介護実践における連携④地域連携	—地域連携の意義と目的
	第11回	介護実践における連携⑤	—インフォーマルな社会
		資源の重要性	
	第12回	介護実践における連携⑥	—地域包括支援センター
		の機能と役割、行政	
	第13回	海外における介護福祉の動向	
	第14回	今後の介護福祉の課題	
	第15回	まとめ	
予習・復習の内容	予習		
	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準		
	評価の方法	試験70%、レポート30%	
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻	
	著者名		
	出版社	メヂカルフレンド社	
	価格		
	ISBN・ISSN		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

介護の基本 II（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 II（介護対象論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知り、その人への介護（特に尊厳を支える介護）について考えていく。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス VTR
	第2回 介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）
	第3回 介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）
	第4回 介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）
	第5回 介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）
	第6回 介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）
	第7回 介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らし（生活を支える基盤）
	第8回 介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在
	第9回 介護を必要とする人の理解 II－VTR「声を取り戻した2年間」
	第10回 介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴

第11回 介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴
第12回 介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I
第13回 介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II
第14回 介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）
科目責任者	今井 訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。
-----------	--

学生の達成目標	1. リスクマネージメントの目的を理解する。 2. 介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。 3. 施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス、リスクマネージメントの考え方 第2回 セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保） 第3回 リスクコントロール・リスクファイナンス 第4回 介護における安全確保とリスクマネジメント ①ヒヤリハット事例の分析 第5回 介護における安全確保とリスクマネジメント ②施設内の事故の特徴と対策 第6回 介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策 第7回 介護における安全確保とリスクマネジメント ④医療対応時（受療、服薬、医療行為） 第8回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防 第9回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時の対応 第10回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク
------	-----	---

第11回 認知症高齢者の事故対策
第12回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理）①心の健康管理（スーパービジョンの存在）
第13回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理）②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用）
第14回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理）③感染予防の対策と労働安全（関係法規）
第15回 まとめ（セーフティマネジメントとの関連）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	テスト、課題レポート、授業態度により評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）福祉学科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）福祉学科

科目責任者 宮崎 陽夫

担当教員 山崎 敦

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 リハビリテーション医学から考える介護論

学生の達成目標

1. 高齢者の肢体不自由をきたす疾患の概略を例示しながら障害について述べ、同時にリハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を総論的に述べる。それによって、介護に客観的、科学的な思考ができるようにする。

授業内容

第1回

第1回 リハビリテーション医学と介護（オリエンテーション、リハビリテーション概論）
第2回 リハビリテーション医学と介護（リハビリテーション概論）
第3回 障害の医学的基礎知識（神経・生理学）
第4回 障害の医学的基礎知識（骨・筋肉解剖）
第5回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（進行性疾患）
第6回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（脳血管疾病）
第7回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション（骨折）

第8回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション
(運動麻痺)
第9回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション
(言語・排尿・嚥下障害)
第10回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション
(脊髄損傷・切断)
第11回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション
(廃用症候群)
第12回 認知症のリハビリテーション
第13回 シーティングについて
第14回 終末期のリハビリテーション
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末試験，出席状況
	評価の方法	期末試験，出席状況
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	介護福祉士養成講座（4） リハビリテーション論
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅴ（レクリエーション） 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅴ（レクリエーション） 地域

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論と集団コミュニケーションの指導体験

学生の達成目標 1. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるために、生活の一部であるレクリエーション援助の実践力の育成をねらいとする。

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）
第2回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①
第3回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②
第4回 講義：レクリエーションの活動領域と意義①
第5回 講義：レクリエーションの活動領域と意義②
第6回 講義：レクリエーション活動の主体
第7回 講義：レクリエーション計画作成及び実施
第8回 講義：レクリエーション指導者の配慮
第9回 講義：レクリエーション活動の実践
第10回 講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際
第11回 講義：レクリエーションワークの指導法
第12回 集団レク援助実習 1

第13回 集団レク援助実習 2
第14回 集団レク援助実習 3
第15回 まとめと評価

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
	評価の方法	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
教科書	書籍名	新版・介護福祉士養成講座⑥レクリエーション活動援助法
	著者名	
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	遊びでリハビリ
	著者名	
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護の基本VI（介護サービス事務） 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本VI（介護サービス事務） 地域

科目責任者 福岡 浩

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護保険制度の仕組みを理解したい上で、介護報酬の算定の実務知識を理解する。

学生の達成目標 1. 介護保険制度全般を学ぶと共に、介護給付費に関わる請求事務に精通し、実務全般に習熟して、即戦力として実務に従事できる実力を養う。

授業内容	第1回	第1回 テキスト第一章 共通事項 1. サービス全般にわたる共通事項 第2回 テキスト第一章 共通事項 2. 通則 第3回 テキスト第二章 居宅サービス 1.訪問介護 2.訪問入浴介護 第4回 テキスト第二章 居宅サービス 3.訪問看護 4.訪問リハビリテーション 第5回 テキスト第二章 居宅サービス 5.居宅療養管理指導 6.通所介護 第6回 テキスト第二章 居宅サービス 7.通所リハビリテーション 8.福祉用具貸与 第7回 テキスト第二章 居宅サービス 9.短期入所生活介護 10.短期入所療養介護 第8回 テキスト第二章 居宅サービス 11.特定施設入居者介護 12.居宅介護支援 第9回 テキスト第三章 地域密着型サービス 第10回 テキスト第四章 施設サービス
------	-----	--

		第11回 テキスト第五章 公費請求方法 第12回 練習問題 様式第二, 様式第八の事例問題の解答, 解説 第13回 練習問題 様式第二, 様式第八の事例問題の解答, 解説 第14回 模擬試験 (90分) 第15回 練習問題 様式第二, 様式第八の事例問題の解答, 解説 及び振り返り
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況, 受講態度により総合的に評価し, 認定試験60点以上
	評価の方法	出席状況, 受講態度により総合的に評価し, 認定試験60点以上
教科書	書籍名	介護保険事務士養成テキスト (実務編)
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	介護給付費単位数等サービスコード表
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	必要に応じて随時資料配布
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅰ 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅰ 地域

科目責任者 古川 繁子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20001101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義形式ではあるが、全体的に事例と演習を豊富に交えながら、介護の場面に即応したコミュニケーション技術が習得できる。

学生の達成目標

1. 介護と必要とする者の理解や援助的関係・援助的コミュニケーションについて理解する。
2. また、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働する際のコミュニケーション能力を身につける。

授業内容

- 第1回 第1回 介護コミュニケーションの基本：介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を知る。
- 第2回 利用者・家族との関係づくり（波長合わせ・ラポールの取り方）
- 第3回 介護の場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実際（話を聞く技法、利用者の感情表現を察する技法－気づき、洞察力、その他）
- 第4回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（非言語的コミュニケーション）
- 第5回 利用者・家族とのコミュニケーションの実際（納得と同意を得る方法。相談・助言・指導。意欲を引き出す技法。利用者本人と家族の意向の調整。その他）
- 第6回 利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際（感覚機

	能が低下している人とのコミュニケーション。運動機能の低下している人とのコミュニケーション。認知・知覚機能の低下している人とのコミュニケーション。その他) 第7回 記録による情報の共有化（介護における記録の意義・目的・介護に関する記録の種類記録の技法－方法，留意点） 第8回 記録による情報の共有化（記録の方法・留意点。記録の管理。介護記録の共有化） 第9回 情報通信機器を活用した記録の意義と実際。活用の留意点。個人情報の保護。活用 第10回 介護におけるチームコミュニケーション報告の意義・目的（報告・通知・相談の方法・留意点） 第11回 会議の意義と目的（会議の種類・方法・留意点。その他） 第12回 話を聞く技法②（傾聴とカウンセリングマインド・個別的な価値に気付く） 第13回 話を聞く技法③（家族とのコミュニケーションの実際） 第14回 記録の技法②（マッピング：ジェノグラム・ソシオグラム） 第15回 記録の技法③（評価：アセスメント・エバリュエーション・モニタリング）	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	提出物・演習レポート・定期試験により評価
	評価の方法	提出物・演習レポート・定期試験により評価
教科書	書籍名	新介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会＝編集
	出版社	中央法規出版
	価格	2,310(税込)
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-8058-3769-6
推薦図書等	書籍名	コミュニケーション技術－人間関係の形成と実践技術
	著者名	黒澤他編著
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅱ 手話 福祉学科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ 手話 福祉学科

科目責任者 根本 匡文

担当教員 高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20001201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

手話 (根本 匡文)

授業のねらい・概要

聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につけ、さらに、聴覚補償やさまざまな視覚情報を活用してコミュニケーションを充実させる方法を習得する。あわせて、聴覚障害全般について理解を深める。

学生の達成目標

1. 授業方法については、基礎的な手話の習得を図るために手話実技の演習を行うとともに、聴覚補償や視覚情報を活用してコミュニケーションを充実させる方法について講義を行う。演習や講義を進める中で、聴覚障害全般に関する理解が深まるように留意する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|---|
| 第1回 | 第1回 | 手話実技：あいさつ，自己紹介，家族の表現
講義：聴覚障害の原因と二次・三次障害の表れ方 |
| | 第2回 | 手話実技：天気／季節，動作，好き／嫌いの表現
講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法 |
| | 第3回 | 手話実技：質問，数／年齢，時間の表現
講義：手話の種類，構造，特徴 |
| | 第4回 | 手話実技：月日／曜日，時制，形容の表現
講義：聴覚補償の実際 |

		第5回 手話実技：可能／必要，する／される，交通機関の表現 講義：文字や視覚情報の活用 第6回 手話実技：比較，違う／同じ，医療の表現 講義：聴覚障害者の社会生活 第7回 手話実技：強い／弱い，目的／目標，食事の表現 講義：聾重複障害者，盲聾者の支援 第8回 手話実技：復習とまとめ 講義：聴覚障害者の生活の質の向上
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験，レポート，受講態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	試験，レポート，受講態度等により総合的に評価する。
教科書	書籍名	N H Kテレビテキスト「みんなの手話」
	著者名	
	出版社	N H K出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	全日本聾啞連盟日本手話研究所編集「新・日本語－手話辞典」
	著者名	
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅱ 点字 福祉学科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ 点字 福祉学科

科目責任者 根本 匡文

担当教員 高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20001201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

点字 (高橋 恵子)

授業のねらい・概要

授業の方法については、基礎的な点字の習得を図るための点字実技の演習を行うとともに、必要に応じて、視覚障害を理解するための講義を行う。
点字は一朝一夕に学ぶことができないので、継続的な学習を行うこと。

学生の達成目標

1. 点字の基本的な学習を行う他、視覚障害を持つが故の特性を考慮した介護技術、視覚障害に関する諸問題、視覚障害リハビリテーションなど、視覚障害全般について学習する。理論だけではなく、実践に役立つ事項を多く学習する。

授業内容

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 第1回 | 第1回 点字の歴史、点字の概要、器具の使い方、五十音の読み書き |
| | 第2回 濁音、拗音、拗濁音、拗半濁音の読み書き |
| | 第3回 点字の仮名遣い |
| | 第4回 点字の数字 |
| | 第5回 点字のアルファベット |
| | 第6回 点字の分かち書き（文節分かち書き） |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業態度50点，試験結果50点
	評価の方法	授業態度50点，試験結果50点
教科書	書籍名	初めての点訳 第2版
	著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術 I（総論・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術 I（総論・環境）

科目責任者 清宮 宏臣

担当教員 今井 訓子
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 生活支援に関する課題を学生が主体的に調べて発表と批評をし合いながら理解を進められる機会を設ける。2. 生活支援に関して全人間的に理解するために事例を通じた学びの機会を設ける。

学生の達成目標

1. 生活支援技術における生活支援について全人間的に理解する。
2. 人間としての尊厳を保持し、利用者が自らの生き方を主体的に実現できる生活支援の在り方が理解できる。
3. 環境を整えて活用すると共に、利用者が自らの持てる力を生かした生き方をしていける生活支援の在り方が理解できる。
4. 生活支援における社会参加を理解する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、生活形成のプロセス（ライフサイクル）や生活行動（生活経営）について
- 第2回 生活支援について（支援対象者、支援対象者の住まい、居住環境について）
- 第3回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1）
- 第4回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習2）
- 第5回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習3）
- 第6回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習4）
- 第7回 居住環境の整備に向けて（ベッドメイキングの演習5）

第8回 ICFと生活支援について1（ICFの構成要素、ICFの生活支援への活用）
第9回 ICFと生活支援について2（参加に向けて；自己実現、生きがい、地域への参加）
第10回 居住環境の整備に向けて1（安全な住まい、快適な室内環境、課題や問題点）
第11回 居住環境の整備に向けて2（暮らし易さへの工夫・方法、福祉用具の活用、住宅改修事例）
第12回 居住環境の整備に向けて3（施設における工夫、認知症高齢者への環境支援、ユニバーサルデザイン）
第13回 生活行為への支援（身じたく、睡眠）
第14回 生活行為への支援（排泄）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。

教科書

推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

生活支援技術 II（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術 II（移動）

科目責任者 岩本 義浩

担当教員
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批評をし合いながら理解を進められる機会を設ける。

移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。

学生の達成目標

1. 人としての人権を尊重し、利用者が自らの生き方を主体的に実現できるように支援する。
2. 利用者が自ら持っている力を利用できるように支援する方法を理解する。
3. 全ての介護の基本となる移動について科学的に理解する。

授業内容

第1回 第1回 自立に向けた住環境
第2回 移動の介護の基本
第3回 移動に関するアセスメントと目標設定 ①本人の観点
第4回 移動に関するアセスメントと目標設定 ②「心身機能」「身体構造」からの観点
第5回 移動に関するアセスメントと目標設定 ③「活動」「参加」からの観点
第6回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護
第7回 安全で的確な移動介助の方法 ①基本的留意点・立ち上がり動作とボディメカニクス

第8回 安全で的確な移動介助の方法 ②コミュニケーション観察と環境整備
第9回 安全で的確な移動介助の方法 ③観察と環境整備、アセスメントに基づく介助
第10回 安全で的確な移動介助の方法 ④体位交換 I・II、歩行介助
第11回 安全で的確な移動介助の方法 ⑤車いす介助
第12回 他の職種の役割と協働
第13回 移動介護演習 ①
第14回 移動介護演習 ②
第15回 1 移動における介護演習を振り返って・まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 テスト（70%） 授業態度等（20%） 出席状況（10%）
評価の方法 テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
「最新介護福祉全書 第5巻・第6巻 生活支援技術 I・II」メヂカルフレンド社

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術 Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
------	--------

科目区分	専門科目
------	------

授業科目名	生活支援技術 Ⅲ（食事）
-------	--------------

科目責任者	今井 訓子
-------	-------

担当教員	清宮 宏臣
------	-------

授業形態	演習
------	----

開講時期	前期
------	----

単位数	1
-----	---

配当年次・対象学生	1年次
-----------	-----

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標

1. 食べることが、人間らしく生きることといかに深い関係をもつ行為であるかについて理解する。
2. 食事介護の基本的な進め方について理解する。
3. 安全に、おいしく食事を摂るための介護について理解する。

授業内容	第1回	第 1 回 義と目的	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意
	第 2 回～第 3 回	食事に関する利用者のアセスメント	
	第 4 回～第 5 回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫	
	第 6 回	安全で的確な食事介助	
	第 7 回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）	
	第 8 回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）	
	第 9 回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）	
	第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点	
	第11回	脱水予防	
	第12回～第13回	食事介助（演習）	
	第14回	他職種の役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）	
	第15回	まとめ	
	予習・復習の内容	予習	
		復習	
		展開	
成績評価	評価の基準	講義演習を通して、食事の意義や目的、方法を述べることができる。 演習で学んだ技術を習得している。 テスト（ 70%） レポート（ 20%） 授業態度（ 10%）	
	評価の方法	テスト、課題レポート、授業態度により評価する。	
教科書			
推薦図書等			
参考URL			
備考			

生活支援技術 IV（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術 IV（清潔・入浴）
科目責任者	清宮 宏臣
担当教員	今井 訓子 岩本 義浩
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	清潔に関して、特に入浴について講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身清拭や洗髪について演習を行う。
-----------	--

学生の達成目標	1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守ることも含めた入浴・清潔の介護技術について理解できる。
---------	---

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、清潔について（意義と目的） 第2回 入浴、清潔に関して；支援を要する利用者の様子 第3回 入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点 第4回 爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴） 第5回 入浴に関して（効果とリスク） 第6回 入浴に関して（浴槽の種類） 第7回～第8回 感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例検討） 第9回～第10回 入浴・シャワー浴の介護（演習） 第11回～第13回 洗髪、全身清拭、足浴（演習） 第14回 他職種との役割と協働 第15回 まとめ
------	-----	--

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
教科書		
推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	太田仁史
	出版社	講談社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術 V（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術 V（身じたく）

科目責任者 岩本 義浩

担当教員
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人としての人格を尊重した、身じたく・整容に関する介護技術の内容を理解する

- 学生の達成目標
1. 人格者として人間として、尊厳の保持としての観点から自立・自律の尊重をする
 2. 人としての潜在能力介護技術の基本を理解する
 3. 介護を受ける者の能力を引き出せる、介護支援技術の方法について理解をする

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス、自立に向けた身じたくの介護：身じたくの意義と目的
第2回～第3回 身じたくに関する利用者のアセスメント
第4回 生活習慣と装いの楽しみを支える介護
第5回 整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント
第6回 整容行動、衣生活の介助の技法（洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等）
第7回 整容行動、衣生活の介助の技法（口腔の清潔、衣服着脱）
第8回 口腔の清潔（演習）
第9回 衣服着脱（演習）パジャマ
第10回 足浴と爪切り（演習）
第11回 感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
第12回 運動機能が低下している人の介助（事例検討）

第 13回 認知機能が低下している人の介助（事例検討）
第 14回 他職種の役割と協働
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	テスト（ 70%） 授業態度等（ 20%） 出席状況（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「最新介護福祉全書 第 5 巻・第 6 巻」メヂカルフレンド社
-----	--

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術 VI（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術 VI（排泄）

科目責任者 岩本 義浩

担当教員
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人間の尊厳を十分理解し、排泄に関する介護技術の内容を理解する

- 学生の達成目標
1. 人間として、尊厳の保持としての観点から自立・自律の尊重をする
 2. 人としての潜在能力を引き出す介護支援技術の理解をする
 3. 介護技術の基本を理解する

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス、自立に向けた排泄の介護：排泄の意義・目的
第2回～第3回 排泄に関する利用者のアセスメント（ICFの視点に基づく）
第4回 気持ちよい排泄を支える介護 ①（がまんさせない工夫）
第5回 気持ちよい排泄を支える介護 ②（環境づくり）
第6回 気持ちよい排泄を支える介護 ③（その他）
第7回 安全・的確な排泄の介助の技法 ①（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ）
第8回 安全・的確な排泄の介助の技法 ②（おむつ）
第9回 排泄の介助の技法 ①（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ（演習）
第10回 排泄の介助の技法 ②（演習）
第11回～第12回 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）
第13回 便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点、尿回数

多い人、失禁時の介護
第 14回 他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、人工肛門、留置カテ
ーテル含む）
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	テスト（ 70%） 授業態度（ 20%） 出席日数（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「最新介護福祉全書 第5巻・第6巻 生活支援技術 I・II」メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）
科目責任者	今井 訓子
担当教員	清宮 宏臣
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	尊厳の保持の観点から、その人の自立、自律を尊重する態度を学ぶ。睡眠に関するアセスメントができ良眠を促す支援ができる。 緊急時や終末期の介護技術を学び、グリーフケアを理解する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 人間にとって睡眠がどのような意味があり、良眠を促す介護方法を理解する。 2. 緊急時の対処方法を理解する。 3. 終末期介護の進め方を学び、介護者としての姿勢を理解する。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的 第2回 睡眠に関するアセスメント 第3回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境 第4回 利用者の状況による介助の留意点 第5回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習） 第6回 緊急時のアセスメント 第7回 緊急事故時の状況観察と応急手当（演習） 第8回 終末期における介護の意義と目的（事前意思確認） 第9回 利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取りのための制度） 第10回 終末期における介護、緩和ケア
------	---

第11回 臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置
第12回 死後の処置（演習）
第13回 グリーフケア
第14回 事例検討
第15回 事例を通してのまとめ

	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	睡眠の意義や目的、安眠を促す方法を述べることができる。 緊急時の対応をモデル人形を用いて行うことができる。在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて自分の考えを文章にできる。 テスト（70%） レポート（20%） 授業態度（10%）
	評価の方法	テスト、レポート、授業態度により評価する。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅷ（障害別）
科目責任者	今井 訓子
担当教員	清宮 宏臣
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解し、その人にあった生活支援技術を学ぶ。事例を用いて展開し、運動機能障害、感覚機能障害、内部障害等の障害の内容と生活支援方法を具体的にイメージする。
-----------	--

学生の達成目標	1. 生活支援に必要とされる障害の観察・評価ができる。 2. 各障害がある人のアセスメントができ、コミュニケーションの方法、注意点を述べることができる。 3. 障害別の日常生活の拡大を目指すための生活支援方法を理解する。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス 第2回 片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人） 第3回 運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人） 第4回 関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人） 第5回 振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人） 第6回 失語症や構音障害のある人の生活支援 第7回 視覚・聴覚機能障害のある人の生活支援 第8回 難病で在宅療養している人の生活支援（例：ALSまたは筋ジストロフィーの人） 第9回 発達障害のある人の生活支援 第10回 精神障害のある人の生活支援
------	-----	---

- 第11回 心臓機能障害のある人の生活支援
- 第12回 呼吸機能障害のある人の生活支援
- 第13回 腎臓機能障害排泄機能障害のある人の生活支援
- 第14回 排泄機能障害のある人の生活支援
- 第15回 生活支援全般における振返・まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	日常生活の支援において障害別の特徴を述べるができる。 事例に対して自分考えを文章にできる。 テスト（70%） 課題レポート（20%） 授業態度（10%）
	評価の方法	テスト、課題レポート、授業態度により評価する。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

家事生活支援技術Ⅰ 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅰ 地域

科目責任者 廣橋 比刀美

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家事の意義や目的，洗濯，掃除，裁縫，家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。

学生の達成目標 1. 自立に向けた家事の介助に関する知識と技術を身につける。

授業内容	第1回	第1回 授業オリエンテーション，注意事項，自己紹介
	第1回	家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント
	第2回	被服・繊維について…繊維の講義，繊維の実験の準備
	第3回	被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）
	第4回	被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜き準備
	第5回	しみ抜きの実習
	第6回	洗濯の実習（セーターの洗濯）
	第7回	しみ抜き・洗濯のまとめ
	第8回	被服実習…基本の縫い方・繕いについて
	第9回～第13回	被服実習…おむつ・袋を縫う（ボタン付けの練習など）
	第14回	感覚・運動機能，認知・知覚機能が低下している人の家事援助の留意点／まとめ…家事援助に求められる事
	第15回	全体のまとめ

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 試験70%, レポート他20%, 授業態度10%

評価の方法 試験70%, レポート他20%, 授業態度10%

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名 生活支援技術 I

著者名

出版社 メヂカルフレンド社

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

家事生活支援技術Ⅱ 地域

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅱ 地域

科目責任者 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

1. 高齢者,障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。
2. 食生活の中での栄養学,食品学,調理学等の知識を養い,実践的な技術を学び,支援が個々の生活に対応できる能力を養う。

授業内容	第1回	第1回 食生活の意義（健康と栄養，状態別の栄養（年齢と栄養）
	第2回	第2回 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む）
	第3回	第3回 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法）
	第4回～第5回	第4回～第5回 調理実習（1）…日常食から介護職への展開
	第6回～第7回	第6回～第7回 調理実習（2）…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）
	第8回～第9回	第8回～第9回 調理実習（3）…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）
	第10回～第11回	第10回～第11回 調理実習（4）…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）
	第12回～第13回	第12回～第13回 調理実習（5）…郷土食
	第14回	第14回 調理実習（6）…支援したい食事をグループで作る。
	第15回	第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末テスト80%，欠席レポート提出10%，授業態度10%
	評価の方法	期末テスト80%，欠席レポート提出10%，授業態度10%
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅳ
	著者名	
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	これからの調理
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	食品成分表
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	

書籍名	その他必要に応じてプリントを配布
著者名	
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。
-----------	--------------------------------

介護過程Ⅰ（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅰ（総論）
科目責任者	川村 博子
担当教員	清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を理解する。

- 学生の達成目標
1. 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。
 2. 介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回 第4回～第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回～第13回	介護過程とは、意義と目的 介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護） 介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明） ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法 アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて） アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム） 計画の立案とは、目標の設定 計画の立案の実践 実施とは、準備と留意点 評価とは 事例に基づく介護課程の展開の実際
------	-----	---	--

第14回
第15回

介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）
まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 レポート80%、授業態度20%
評価の方法 レポート、授業態度により評価する。

教科書

書籍名 「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」
著者名
出版社 中央法規
価格 2200円
ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
------	--------

科目区分	専門科目
------	------

授業科目名	介護過程Ⅱ（演習）
-------	-----------

科目責任者	川村 博子
-------	-------

担当教員	清宮 宏臣 根本 曜子
------	----------------

授業形態	演習
------	----

開講時期	前期
------	----

単位数	2
-----	---

配当年次・対象学生	2年次
-----------	-----

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護を展開する。
-----------	------------------------------------

学生の達成目標	1. 様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。
---------	---------------------------------------

授業内容	第1回	グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。
	第1回～第2回	オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成
	第3回～第4回	ガイダンス、事例Aの説明
	第5回～第6回	アセスメント
	第7回～第8回	計画・実施・評価
	第9回～第10回	ガイダンス、事例Bの説明
	第11回～第12回	アセスメント
	第13回～第14回	計画・実施・評価
	第15回～第16回	ガイダンス、事例Cの説明
	第17回～第18回	アセスメント
	第19回～第20回	計画・実施・評価
	第21回～第22回	ガイダンス、事例Dの説明
	第23回～第24回	アセスメント
	第25回～第26回	計画・実施・評価
	第27回～第28回	発表準備
	第29回～第30回	発表
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。
教科書	書籍名	「介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」
	著者名	
	出版社	日総研
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護過程Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程Ⅲ（チームアプローチ）
科目責任者	川村 博子
担当教員	清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

学生の達成目標 1. 他職種の役割や機能を踏まえ、介護場面でのチームアプローチを学ぶ。

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、グループ分け
		第2回	介護に関連する各職種と連携について
		第3回	施設内でのチームアプローチを考えて展開する事例A（ケースカンファレンス）
		第4回～第8回	事例Aの介護展開のグループワーク
		第9回	地域でのチームアプローチを考えて展開する事例B（サービス担当者会議・介護サービス計画）
		第10回～第14回	事例Bの介護展開のグループワーク
		第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%
------	-------	-----------------

評価の方法 レポート、授業態度により評価する。

教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅳ（事例研究）

科目責任者 川村 博子

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。

学生の達成目標 1. 実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。

授業内容
第1回 第1回 ガイダンス（全体）
第2回～第5回 実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
第6回～第10回 実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
第11回 発表準備・印刷（全体）
第12回 発表準備・製本（全体）
第13回～第14回 発表（全体）
第15回 まとめ、感想文（実習担当教員のグループで行う）

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 レポート80%、授業態度20%

評価の方法 レポート、授業態度により評価する。

教科書

書籍名 「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」

著者名

出版社 中央法規

価格 2 2 0 0 円

ISBN・ISSN

推薦図書等

書籍名 「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」

著者名

出版社 日総研

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

介護総合演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習 I

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、学生が考える時間や発言する機会を設ける。

- 学生の達成目標
1. 実習を行う意義と目的を理解する
 2. 実習施設種別の理解をする
 3. 学外単位としての礼儀作法(マナー)について理解する

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）
		第2回	実習について（意義と目的、心得など）
		第3回	実習先や利用者について（1）知的障害児者
		第4回	実習先や利用者について（2）肢体不自由児者
		第5回	実習先や利用者について（3）重症心身障害児者
		第6回	実習先や利用者について（4）認知症高齢者
		第7回	記録の書き方（1）記録の意義・目的
		第8回	記録の書き方（2）基本的な書き方、文体
		第9回	学生個人標と個人目標について
		第10回	介護実習 I の実習先別学内オリエンテーション
		第11回	実習において予測される諸問題（1）
		第12回	実習において予測される諸問題（2）
		第13回	介護実習 I に必要な物の確認・準備
		第14回	まとめ
		第15回	介護実習（第 I 段階）の直前オリエンテーション

予習・復習の内容 予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	テスト（ 70%） 振り返り（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
『介護総合演習』メヂカルフレンド社

推薦図書等

参考URL

備考

介護総合演習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習 II

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、学生が考える時間や発言する機会を設ける。

学生の達成目標

1. 介護実習 I の振り返り、自己課題を見出す。
2. 介護実習 II の意義と目的を理解する。
3. 介護技術や介護に関する講義を確認し、介護実習 II に向けて準備をする。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
第2回 介護実習（第 I 段階）のまとめ反省会
第3回 グループワーク（1）介護実習（第 I 段階）の学び
第4回 グループワーク（2）介護実習（第 I 段階）の学び
第5回 グループワーク（3）介護実習（第 I 段階）の学び
第6回 グループワーク（4）介護実習（第 I 段階）の学び
第7回 学生個人標と個人目標について、記録の書き方
第8回 実習先や利用者について
第9回 リスクマネジメントについて
第10回 介護実習（第 II 段階）の実習先別学内オリエンテーション
第11回 実習において予測される諸問題（1）
第12回 実習において予測される諸問題（2）
第13回 介護実習（第 II 段階）に必要な物の確認・準備
第14回 まとめ
第15回 介護実習（第 II 段階）の直前オリエンテーション

予習・復習の内容	予習			
	復習			
	展開			
成績評価	評価の基準	テスト（ 70%）	授業態度等（ 20%）	授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。		
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	『介護総合演習』メヂカルフレンド社			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

介護総合演習 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習 Ⅲ

科目責任者 岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学生が考える時間や発言する機会を多く設ける。

講義を中心とするが、学生が考える時間や発言する機会を設ける。

前期は、実習に向けた課題や介護総合演習Ⅰ・Ⅱで学んだ事を基礎として学習を展開する。

後期は、実習Ⅲ・Ⅳに併せて実習内容の振り返りを中心に行う。

学生の達成目標

1. 介護実習Ⅱを振り返り自己課題を見出した上で、介護実習Ⅲ・Ⅳの意義と目的を理解する。
2. 介護技術を確認し、介護実習Ⅲ・Ⅳに向けて準備をする。
3. 介護実習において展開した事例を振り返り自分の介護観について、整理できるようになる。

授業内容

- | | | |
|-----|------|--|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション（授業の進め方） |
| | 第2回 | 介護実習（第Ⅱ段階）のまとめ反省会 |
| | 第3回 | グループワーク（1）介護実習（第Ⅱ段階）の学び |
| | 第4回 | グループワーク（2）介護実習（第Ⅱ段階）の学び |
| | 第5回 | グループワーク（3）介護実習（第Ⅱ段階）の学び |
| | 第6回 | 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（1） |
| | 第7回 | 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（2） |
| | 第8回 | 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（3）
介護過程の必要性について |
| | 第9回 | 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（4）
介護過程における情報収集と分析 |
| | 第10回 | 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（5）
介護過程における計画立案、実践、評価について |

- 第11回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（6）
介護過程；ペーパーペイシエントによる展開
- 第12回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（7）
介護過程；ペーパーペイシエントによる展開
- 第13回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の課題への理解（8）
介護過程；ペーパーペイシエントによる展開
- 第14回 居宅介護実習について
- 第15回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）の事前準備（学生個人票、個人目標など）
- 第16回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階、居宅実習）の実習先別学内オリエンテーション
- 第17回 実習後の課題の事例研究について
- 第18回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）に必要な物の確認・準備
- 第19回 まとめ（レポート）
- 第20回 介護実習（第Ⅲ段階）の直前オリエンテーション
- 第21回 介護実習（第Ⅳ段階）の直前オリエンテーションと実習課題の進捗状況
- 第22回 介護実習（第Ⅲ・Ⅳ段階）のまとめ反省会
- 第23回 それぞれの介護観について
- 第24回 居宅介護実習の振り返り
- 第25回 テーマ別グループワーク（1）
- 第26回 テーマ別グループワーク（2）
- 第27回 テーマ別グループワーク（3）
- 第28回 テーマ別グループワーク（4）
- 第29回 テーマ別グループワーク（5）
- 第30回 まとめ（レポート）

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	テスト（ 70%） 授業態度等（ 20%） 授業中の意見文（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 『介護総合演習』メヂカルフレンド社	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習 I

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人
松井 奈美
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要
認知症対応グループホームにおいて1週間の介護を実践する。
児童福祉施設において1日の見学実習をする。

学生の達成目標
1. 利用者との人間的なふれあいを通じて、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。初歩的援助を通して生活の場における個々の生活リズムや環境を理解する。

授業内容	第1回 前期終了時の8月～9月初旬に実施する。 実習期間は1週間（5日間）と1日の児童福祉施設での見学実習 実習方法①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。 ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。 ③利用者とのコミュニケーションを積極的にとる。 ④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの 取りやすい利用者の日常生活援助を体験させていただ く。 ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受け る。
予習・復習の内容	予習 復習 展開
成績評価	評価の基準 評価の方法 出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 介護実習の手引き
推薦図書等	
参考URL	
備考	

介護実習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習 II

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人
松井 奈美
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 入所施設実習とデイサービス・デイケア実習を併用し実習する。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用、発揮させることの意味を理解する。高齢者のニーズと介護職員の一般的な役割を理解する。基本的な介護技術を習得する。

授業内容

第1回 後期2月に実施する。
実習期間は2週間（9日間で中2日間はデイサービス）
実習方法①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。
②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
③利用者・家族とのコミュニケーションを積極的にとる。
④障害の軽度の利用者や、言語的コミュニケーションの取りやすい利用者の日常生活援助を体験させてもらい、基本的介護技術を習得する。
⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習 Ⅲ

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人
松井 奈美
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 3

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 「実習施設・事業等（Ⅱ）」の施設において13日間の介護実習をおこなう。Ⅳ段階実習も同一場所となる。居宅介護実習の実習期間でもある。

学生の達成目標
1. 障害のレベルに応じた適切な介護技術を身につける。また、種々な介護サービスの状況に応じた提供方法を理解する。利用者を中心とした他職種協働について理解する。

授業内容
第1回 2年前期 9月に実施する。
実習期間は、13日間
実習方法①実習施設の方針に基づきオリエンテーションを受ける。
②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
③利用者の障害の程度に合わせた援助方法を実践する。
④利用者との関わりを通じて、介護過程の必要性を考える。
受け持ち利用者を決定し、情報収集をおこなう。
⑤利用者を取り巻く様式な職種の働きと連携、支援の方法を

考える。
⑥実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受ける。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習Ⅳ

科目責任者 布施 千草

担当教員
井口 ひとみ
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩
中西 正人
松井 奈美
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 後期

単位数 4

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

Ⅲ段階介護実習と同じ施設での実習。介護過程を展開し自己の介護観をまとめる。居宅介護実習の実習期間でもある。

学生の達成目標

1. 施設運営のプログラムに参加し、処遇全般について理解すると同時に個別介護計画を作成し、実施・評価・修正といった介護過程を展開し、的確な記録・記述方法を身につける。自己の介護観を確立する。

授業内容

- 第1回 2年後期に実施する。
実習期間は4週間（20日間）
実習方法①介護実習Ⅲと同一場所にてオリエンテーションはない。。
- ②実習施設の指導プログラムに従って実習する。
 - ③介護実習Ⅲで得た情報を元に利用者の介護計画を立て、実践評価する。
 - ④自己の介護観についてまとめる。
 - ⑤実習記録は毎日記載し、実習指導者に提出し指導を受け

る。

⑥ 2 日間の居宅実習を介護実習ⅢかⅣの機関に実施する。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	出席日数，実習記録，実習指導者・教員の評価によって決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解 I

科目責任者 丹羽 真里

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 老年期の心理的問題を理解し、発見（障害の把握）やそれに基づく援助の方策について学ぶ。

学生の達成目標 1. 高齢者を理解する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 人間の生涯発達の過程
 - 第2回 発達段階の特徴
 - 第3回 老年心理学研究の歴史（老年期の定義）
 - 第4回 高齢者の心と身体（老年期の発達課題）
 - 第5回 老年期の知能と記憶
 - 第6回 高齢者の人格
 - 第7回 高齢者の知覚
 - 第8回 老年期の身体（1）
（身体機能の変化と日常生活への影響）
 - 第9回 老年期の身体（2）
（知的・認知機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響）
 - 第10回 老年期の心理（1）
（老人を受けとめる高齢者の気持ち、役割喪失、別れ）
 - 第11回 老年期の心理（2）
（経済不安、障害を受けとめる高齢者の気持ち）
 - 第12回 家族、対人関係と社会生活
 - 第13回 高齢者の支援（1）
職員の対応についてビデオを見て学ぶ。
 - 第14回 高齢者の支援（2）

対応の仕事の基本を押さえる。
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポートの提出, 出席日数を勘案して評価する。
	評価の方法	レポートの提出, 出席日数を勘案して評価する。
教科書	書籍名	高齢者心理学
	著者名	一番ヶ瀬康子監修 下仲順子, 中里克治編著
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解 II

科目責任者 布施 千草

担当教員 今井 訓子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 老化による身体的変化、高齢者におこりやすい疾病の特徴および日常生活での予防。

- 学生の達成目標
1. 発達の観点から老化を理解する。
 2. 老化に伴う心理や身体機能の変化を理解する。

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、加齢（老化）とは
		第2回	“老い”に対する捉え方・価値
		第3回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系）
		第4回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系）
		第5回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか）
		第6回	高齢者と健康 高齢者の病気の特徴
		第7回～第10回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）
		第11回～第13回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点
		第14回	介護保険における特定疾病
		第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

評価の方法 試験60%、レポート30%、出席率10%

教科書

書籍名 新・介護福祉士養成講座11 発達と老化の理解

著者名 介護福祉士養成講座編集委員会

出版社 中央法規

価格

ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

認知症の理解 I（認知症総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 I（認知症総論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

学生の達成目標

1. 認知症ケアの歴史を理解する
2. 医学的視点に基づく認知症の症状を理解する

授業内容

- 第1回 第1回 認知症を取り巻く状況と認知症ケアの歴史的変遷（認知症の疫学、施策も含む）
第2回 医学的側面から見た認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）
第3回 認知症の検査や治療法を理解
第4回 中核症状と周辺症状の特徴の理解 そのⅠ 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他
第5回 中核症状と周辺症状の特徴の理解 そのⅡ 徘徊・妄想・食行動異常・その他
第6回 認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）
第7回 コミュニケーション障害としての認知症
第8回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	レポート提出、期末テスト
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解 II（認知症対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 II（認知症対象論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症のある人と家族の理解。

- 学生の達成目標
1. 認知症のある人の体験や意思表示の困難特性を理解する
 2. 認知症のある人と家族への支援について理解する

授業内容

第1回 第1回 認知症のある人が抱える心理的な問題（ふかい、不安、混乱、被害感等）
第2回 認知症のある人にみられるさまざまな行動 BPSDについて、その出現原因、介護者との関係
第3回 認知症にともなうところとからだの変化と日常生活（認知症のある人の内的世界の理解）
第4回 認知症のある人の家族の心理と障害受容
第5回 認知症のある人を介護する家族への支援
第6回 若年性認知症のある人と家族への支援 その I
第7回 若年性認知症のある人と家族への支援 その II
第8回 まとめ

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価

評価の基準

教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

認知症の理解 Ⅲ（認知症援助論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 Ⅲ（認知症援助論）

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。

- 学生の達成目標
1. 認知症ケアの関する基礎的知識を習得する
 2. 認知症ケアの今後の展望について理解する
 3. 認知症の心理療法について理解する

授業内容

- 第1回
- 第1回 認知症ケアの理念について
- 第2回 パーソンセンタードケアについて そのⅠ
- 第3回 パーソンセンタードケアについて そのⅡ
- 第4回 認知症の心理療法 そのⅠ
- 第5回 認知症の心理療法 そのⅡ
- 第6回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 そのⅠ
- 第7回 認知症のある人のケアマネジメント そのⅡ
- 第8回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 そのⅠ
- 第9回 認知症のある人のケアマネジメント そのⅡ
- 第10回 認知症のある人のケアマネジメント そのⅢ
- 第11回 認知症の予防
- 第12回 認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅠ
- 第13回 認知症のある人の地域包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 そのⅡ

第14回 認知症ケアの今後の課題

第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

評価の方法

授業参加度とレポート、テストの総合評価

教科書

書籍名

認知症の理解

著者名

出版社

中央法規

価格

ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

障害の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解 I
科目責任者	川村 博子
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害の概念、障害者福祉の理念、精神障害・知的障害等の種類と原因と特性、家族への支援を理解する。

学生の達成目標

1. 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
2. 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

授業内容

第1回	第 1 回	障害のある人の生活
	第 2 回	障害の概念（ICFについて）
	第 3 回	我が国における障害者の定義
	第 4 回～第 5 回	障害者福祉の基本理念
	第 6 回～第 7 回	知的障害のある人の理解
	第 8 回～第 9 回	精神障害のある人の理解
	第10回～第11回	高次機能障害のある人の理解
	第12回～第13回	発達障害のある人の理解
	第14回	家族への支援
	第15回	地域におけるサポート・まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準	試験80%、レポート、受講態度20%
評価の方法	試験、レポート、受講態度により評価する。

教科書

書籍名	「新・介護福祉士養成講座13 障害の理解」
著者名	
出版社	中央法規
価格	2 2 0 0円
ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

障害の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害の理解 II
科目責任者	岩本 義浩
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身体障害の医学的側面と家族の支援、障害のアセスメントを講義する。

- 学生の達成目標
1. 障害のある方の身体機能に関する基本的知識を理解する。
 2. 障害のある人の体験を通して障害者及び家族を含めた周囲の環境についても学習し理解する。
 3. 障害者の地域生活へのサポート体制について理解する。

第1回	第1回 ガイダンス 障害のある人の生活を理解
	第2回 視覚障害のある人の生活 I
	第3回 聴覚・言語障害のある人の生活 I
	第4回 視覚障害・聴覚・言語障害のある人の生活 II
	第5回 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活
	第6回 障害当事者による実生活（講話）
	第7回 内部障害者のある人の生活
	第8回 重症心身障害のある人の生活 I
	第9回 重症心身障害のある人の生活 II
授業内容	第10回 障害のある人に対する介護の基本視点
	第11回 基本的視点に基本づいた個別支援
	第12回 社会資源の利用と開発
	第13回 チームアプローチ
	第14回 連携と共同－地域におけるサポート体制の確立（構築） に向 けて
	第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	テスト（ 70%） 授業態度等（ 20%） 出席状況（ 10%）
	評価の方法	テスト及び意見文、振り返りカード、授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 「障害の理解」中央法規	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみ I（人体の構造と機能）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみ I（人体の構造と機能）

科目責任者 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20014001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 人体の解剖と生理の基礎を講義。

学生の達成目標

1. 介護に必要な人体の構造や機能についての基本を学ぶ。
2. 一般教養としての自然科学としても通用する内容を目標とする。

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス。細胞，生体膜，核，DNA，ATP
第2回 組織（上皮，支持，筋，神経）
第3回 組織（血液），ホメオスターシス
第4回 皮膚・骨格系の解剖と生理
第5回 筋系の解剖と生理
第6回 呼吸器系の解剖と生理
第7回 循環器系の解剖と生理
第8回 消化器系の解剖と生理
第9回 腎・泌尿器系の解剖と生理
第10回 血液造血器系，内分泌系，生殖系の解剖と生理
第11回～第13回 脳・神経系の解剖と生理
第13回～第15回 感覚器系の解剖と生理

予習・復習の内容

予習

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 使用せず。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	
	出版社	南江堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	金芳堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	へるす出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみⅡ（疾患の症状と介護）

科目責任者 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20014101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 頻度の高い症候と主要疾病の基礎を講義。

学生の達成目標 1. 介護に必要なtakerの身体的・精神的障害の状態（疾病など）の把握に必要なことを学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 貧血，出血
		第2回 呼吸困難，チアノーゼ，ショック
		第3回 消化器症状，黄疸，排尿困難
		第4回 脱水，浮腫
		第5回 意識，睡眠，歩行障害
		第6回 疾病総論，感染症，免疫異常
		第7回 悪性腫瘍，虚血性心疾患，脳血管障害
		第8回 高血圧，糖尿病，他の代謝疾患
		第9回 呼吸器，循環器の疾患，血液疾患
		第10回 消化器疾患，腎・泌尿器疾患
		第11回 神経，筋疾患
		第12回 膠原病，運動器疾患，感覚器疾患，皮膚疾患
		第13回 精神障害
		第14回 先天性疾患
		第15回 代謝，栄養

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 使用せず。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	
	出版社	南江堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	金芳堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	へるす出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみⅢ（人間の欲求の理解）

科目責任者 浅野 誠

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20014201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義中心に進めるが、学生にそれぞれテーマを与え、発表を求める。
原則的に毎日プリントを渡す。

学生の達成目標

1. 心と体の関係を理解し、加齢や疾病による体の変化が、感情や行動にどのように影響するかを学習する。
2. それを通じて、心の健康について考え、人と人とのかかわり方、人への支援のしかたを学習する。
3. この授業では、支援は心理的な面だけでなく、社会的な支援の仕方、生活支援の仕方ともあわせて講義する。

授業内容

- | | | |
|-----|------|----------------------|
| 第1回 | 第1回 | 心の健康について、脳と体その構造について |
| | 第2回 | 乳幼児児童期の心の健康 |
| | 第3回 | 思春期における心の健康 |
| | 第4回 | 成人期における心の健康 |
| | 第5回 | 老年期における心の健康 |
| | 第6回 | 心の病気について総論、精神症状について |
| | 第7回 | 心の病気について 精神病関連 |
| | 第8回 | 心の病気について 神経症関連 |
| | 第9回 | 心と体の病気について 心身症関連 |
| | 第10回 | 記憶障害と認知症について |

		第11回 せん妄 第12回 心を病んだ人への援助法 第13回 精神保健制度の概要 第14回 精神保健に関する法律 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，態度，課題の達成度，期末試験の結果を総合的に評価する
	評価の方法	出席状況，態度，課題の達成度，期末試験の結果を総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等	書籍名	新版 介護福祉養成講座10 精神保健
	著者名	福祉士養成講座編集委員会編
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新介護福祉士養成講座14 こころとからだのしくみ
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会編
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみ IV（日常生活に即したしくみ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみ IV（日常生活に即したしくみ）

科目責任者 今井 訓子

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護技術の根拠となる人体の構造や機能を学び、日常生活に関連したからだのしくみとこころのしくみの関係について理解できる。

学生の達成目標

1. 日常生活に関連した身体各部の解剖や生理を理解する。
2. 人の基本的欲求・社会的欲求が行動に及ぼす影響を理解する。
3. 介護支援に必要な機能低下と心理面への配慮について理解する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 人体部位の名称、生命の維持のしくみ 1
 - 第2回 人体部位の名称、生命の維持のしくみ 2
 - 第3回 移動に関連した解剖整理
 - 第4回 移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス
 - 第5回 食事に関連した解剖整理
機能低下が食事に及ぼす影響
 - 第6回 栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点
 - 第7回 入浴、清潔保持に関連した解剖整理
皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響
 - 第8回 入浴、清潔保持の実際
 - 第9回 身じたくの関連した解剖整理
機能低下が身じたくに及ぼす影響
 - 第10回 身じたくの関連したこころのしくみ
 - 第11回 排泄に関連した解剖整理
機能低下が排泄に及ぼす影響

第12回 排泄に関連したところのしくみ
第13回 睡眠の構造と睡眠障害
睡眠に関連したところのしくみ
第14回 終末期の心身の状況・死後の変化
死に対するところの理解
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	身体各部の機能低下が日常生活に及ぼす影響が言える。介護支援に関して、根拠に基づいた自分の考えを相手に伝えることができる。
	評価の方法	テスト（70%） 課題レポート（20%） 授業態度（10%） テスト、課題レポート、授業態度により評価する。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	國生 美南子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	20004601

教室

単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・グループワークやディスカッションによって学ぶ。 ・対人援助における関係づくりの基本姿勢と重要性について学ぶ。
-----------	---

学生の達成目標	1. 人間関係について様々な視点から考えることができ、自身を見つめ、豊かな関係性や関係障害について知る。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 オリエンテーションと自己紹介 自己紹介の意義・自分を見つめる・発見する・表現する 第2回・第3回 家族の機能の変化や地域社会の変化と人間関係 第4回～第7回 事例及びキーワードから考える 第8回 表現する（発表）・レポート
------	---

予習・復習の内容	予習 復習 展開
----------	----------------

成績評価	評価の基準	レポートの提出と伝える力（表現力）をみる。
	評価の方法	レポートの提出と伝える力（表現力）をみる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	プリント	
推薦図書等	書籍名	ベテルの家の非援助論
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

施設経営 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 選択専門科目

授業科目名 施設経営 I

科目責任者 大澤 直樹

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20004401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

最新の情報に基づいた資料を提示し、改正介護保険の論点整理を行う。知識を体系化して理解したうえで、今回の制度に於ける問題点及び改善点を明確化する。そのうえでケアを提供していくためには、どのようなスキルが必要であるか、グループワークを行い、机上の空論ではなく、実践として活用できるツールを見出して行く。また、ワークシートを各回ごとに使用。これを作成することによって文章力・表現力の向上を図る。基本的には聴講型ではなく、ゼミ方式の講義を行う。

学生の達成目標

1. 2012年度の介護保険の改正に於いて、具体的にどのような方向性で改正が行われたのかを整理する。
2. また、それによって生じるであろう問題に対して、各種の事業所がどのように知り組むべきか検証して行く。
3. さらに「介護の質」や「福祉のあるべき姿」について、法制度に基づき介護を提供して行く、ケアワーカーが日々のケアの場に於いてどのように支援を展開すべきなのか探究していく。
4. タスクゴールとして、各人が自分の言葉によってこれらを表現することができるように、意識レベルの向上及びコミュニケーション力を養成する。

授業内容

第1回 第1回 改正介護保険法(2012年施行)に関する論点整理
第2回 新規サービスに関する論点整理

- 第3回 介護職に望まれるリーダーシップとは何か
- 第4回 介護老人福祉施設の課題と展望
- 第5回 地域包括ケアシステムの課題と展望
- 第6回 困難事例に対する取り組みと解決方法
- 第7回 福祉が抱える根本的な課題
- 第8回 施設経営の意義と方向性(グループディスカッション)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	講義毎に実施するワークシート及び講義最終日のレポート提出により総合的に評価する。
	評価の方法	講義毎に実施するワークシート及び講義最終日のレポート提出により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

施設経営Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	施設経営Ⅱ
科目責任者	大澤 直樹
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	20004412

教室

単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前半はNPO設立のための基礎的な知識を修得してもらうために、座学中心の講義となる。NPO法に基づく知識を正しく理解して上で、後半は演習を中心とした講義にシフトしていく。なお、介護保険事業を中心とした、事業活動が多いNPO法人の特性を踏まえ、併せて介護保険法に基づく申請のあり方についても指導していく。

学生の達成目標

1. NPO法人を設立するため、具体的な手順や方法について理解する。
2. NPO法人の抱えるメリットとデメリットを理解する。
3. NPO法人のマネジメントについての、基礎的な知識を身につける。

授業内容

第1回	第1回 NPOとは何か
	第2回 福祉NPOの特徴
	第3回 福祉NPOの展望と課題
	第4回 グループホームとコミュニティケア
	第5回 行政のNPO支援策
	第6回 NPOのパートナーシップ
	第7回 事業計画と多角化戦略
	第8回 NPO法人のマネジメント

予習・復習の内容

予習

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	NPO法人に関する、法律及び設立に至るまでの申請に関する具体的な手順をマスターできていることを合格基準とする。
	評価の方法	講義毎に実施するワークシート及び講義最終日のレポート提出により総合的に評価する。
教科書	書籍名	改訂版 NPO法人設立・申請完全マニュアル
	著者名	福島達也
	出版社	Jリサーチ出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

障害教育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	障害教育
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	発達障害、知的障害、肢体不自由等の基本的な理解と本人・保護者の思いを踏まえた支援の在り方を学ぶ。
-----------	--

学生の達成目標	1. ○各障害の特性及び支援の実際の理解度 2. ○実地的な支援方法を身につける。
---------	--

授業内容	第1回 第1回～第5回 障害観・社会観・支援観の転換－疑似体験を通して、障害による困難さについて考える。 その上で、障害を環境要因との関係で考える障害観・社会観・支援観の重要性を確認する。 上記を踏まえ、実地的な支援の在り方を考える。 第6回～第10回 特別支援教育に関する学校・学級・教室の概要を実際のビデオを通して学ぶ。 第11回～第15回 特別支援学校卒業後のサポーター・エンプロイメントや福祉就労の実際をビデオを通して学ぶ。 * 各回の授業の合間で「ミニネタ」を学ぶ。
------	---

予習・復習の内容	予習 復習 展開
----------	----------------

成績評価	評価の基準	各障害の特性の理解及び基本的な支援方法の習得度
------	-------	-------------------------

評価の方法		レポート、授業への参加態度等を踏まえ、総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ 5 0
	著者名	佐藤慎二
	出版社	日本文化科学社
	価格	1 2 5 0 円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-6089-4
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ190選
	著者名	佐藤慎二
	出版社	自費出版
	価格	2 0 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

カウンセリング

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 選択専門科目

授業科目名 カウンセリング

科目責任者 大木 みわ

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 41000201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

カウンセリング理論についての講義を基にピアサポートのトレーニングに重点を置く。ロールプレイング・構成的グループエンカウンター体験を通して理解を深めるため、互いにカウンセラー、クライアントを経験し合う

学生の達成目標

1. カウンセリングの基礎を体験的に学ぶ。
2. カウンセリングの基礎的力を日常の人間関係に活用する。
3. 介護者として必要な人間観・対人関係調整力を養う。

授業内容

第1回 第1回 出会い体験（エクササイズ①）－話し合い－
第2回 出会い体験（エクササイズ②）「聴く、話す」を中心に事例の提示 カウンセリングの基本姿勢 －話し合い－
第3回 人間関係づくり（エクササイズ③）「聴く、話す」を体験する －話し合い－
第4回 人間関係づくり（エクササイズ④）「聴く、話す」の体験－話し合い－
第5回 人間関係づくり（エクササイズ⑤）自己理解を深める－エゴグラム作成 －話し合い－
第6回 人間関係づくり（エクササイズ⑥）自己理解を深める－HTP －話し合い－
第7回～第10回 ミニカウンセリングの体験(1)～(4) ロールプレ

イング
第11回～第13回 ピアサポートの理論と実際
第14回 青年期の課題
第15回 介護現場での活用, 支援モデル・ロールプレイング

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポート, 試験, 授業態度を総合して評価する。
	評価の方法	レポート, 試験, 授業態度を総合して評価する。
教科書	書籍名	ピアヘルパーハンドブックー友達をヘルプするカウンセリング
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	ピアヘルパーワークブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社
	価格	1,500円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

在宅における医療処置

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	在宅における医療処置
科目責任者	布施 千草
担当教員	井口 ひとみ 今井 訓子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 在宅における看護技術の基礎知識を養う

学生の達成目標 1. 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

授業内容	第1回 第1回 ガイダンス：（家庭生活の基本機能・地域概念）家族介護者と医療処置の現状 第2回～第3回 感染予防（清潔・不潔を含む）、手指消毒、ガウンテクニック 第4回～第5回 創や褥創の処置、自己導尿、膀胱洗浄 第6回～第7回 経管栄養、中心静脈栄養法 第8回～第9回 酸素吸入、人工呼吸療法 第10回～第11回 緊急時の対応、吸引 第12回～第13回 注射法（インシュリン投与、点滴の固定と抜針） 第14回～第15回 補習とまとめ
------	--

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価	評価の基準	毎回の課題レポート（８０％）	授業への参加態度（２０％）
	評価の方法	レポート及び授業への参加態度を総合的に評価する	
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
	資料を配付する。		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

ボランティア体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	ボランティア体験実習
科目責任者	清宮 宏臣
授業形態	実習
開講時期	通期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	高齢者・障害者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し、活動現場に参加する。ボランティア活動の心構えや振り返りの指導を受けながら、実際の活動を通じて、人間関係力・社会関係力を身につけ、よりよい職業選択につなげる。
-----------	---

学生の達成目標	1. 高齢者や障害者福祉関係のボランティア活動に参加し、実践を通して専門職として働くことの意義を知る。 2. 実習への目的意識を高める。
---------	--

授業内容	第1回 1. ガイダンス 科目の概要、履修の心得、ボランティア活動参加における心構えなどについてのオリエンテーション 2. 領域・分野別活動参加 次の領域・分野のうち2つ以上の複数を選択し、ボランティア活動に参加をする。 活動参加時間は通算5日以上（40時間以上）を必要とする。 実習や他の授業、その他資格取得等での実習、講座としての参加については時間数として認めない。 (1) 「高齢者福祉分野」に関する活動体験 対象者が高齢者であれば、施設、在宅は問わない。 (2) 「障害者福祉分野」に関する活動体験 対象者が障害者であれば、施設、在宅は問わない。 (3) そのほか、各自の進路、就職先を意識した福祉に関する活動体験 上記の(1)、(2)の領域に関するボランティア依頼のあった団体への活動参加
------	--

- ※担当教員により適当と認められたもののみ時間数とする。
3. 計画シート、活動参加記録シートや最終まとめレポート（1000字以上）などを作成する。
- 計画シート、活動参加記録シートや最終まとめレポートなどをファイリングしたものを提出。
4. グループ発表会、活動報告会への参加
- 活動報告会を実施する。活動参加状況に応じて、活動体験の報告（ひとり10分程度）を行う。
- ※報告の機会や時間については、履修者数に応じて変更する。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	規定時間における活動参加状況やレポートの内容、ファイル整理の状況（70%） 発表会やグループワーク時の参加状況（30%） などを創作的に評価する。
	評価の方法	規定時間における活動参加状況やレポートの内容、ファイル整理の状況（70%） 発表会やグループワーク時の参加状況（30%） などを創作的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし。適宜資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 布施 千草

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

学生自身の興味、関心を大切にしていずれの研究方法に基づいた課題解決を体験する。
主体的に行動できるように努力していく。

学生の達成目標

- 介護福祉領域における諸問題について深く掘り下げる。その体験を通して研究の基本及び専門職としての姿勢を身につける。

授業内容

第1回	第1回～第2回	オリエンテーション
	第3回～第4回	研究の基本について
	第5回～第6回	研究論文の抄読
	第7回～第8回	研究テーマの設定
	第9回～第10回	研究計画書作成
	第11回～第20回	データ収集と整理
	第21回～第28回	論文作成
	第29回～第30回	研究成果の発表

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準

評価の方法 出席状況、レポート提出などを考慮して総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 今井 訓子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護研究の意義、目的を理解する。
研究の基礎を学び、介護福祉士として役割を知る。

学生の達成目標

1. 介護研究の手順を知る。
2. 文献検索の方法を知り、適切な文献を選べる。
3. 介護研究グループとしての個々が持つ役割とその効果を知る。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回	介護研究のプロセスについて
	第3回～第5回	研究のタイプとデザインについて
	第6回	文献検索について
	第7回～第8回	研究計画書の作成
	第9回～第11回	グループワークによる検討
	第12回～第21回	研究論文の作成
	第22回～第28回	研究論文の検討と修正
	第29回～第30回	研究成果発表

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	資料配布			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

基本的な研究の方法を学び、介護福祉領域に関するテーマを設定し、自ら主体的に研究できる。論文としてまとめることができる。

学生の達成目標

1. 主体的な学習・研究的態度でテーマに取り組むことができる
2. グループメンバーと意見交換ができる
3. 論文としてまとめることができる。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回～第3回	研究について
	第4回～第5回	各自の関心について意見交換し、研究テーマ設定の手がかりを探る。
	第6回	テーマの設定
	第7回	研究計画書を作成する
	第8回～第11回	文献検索を行い整理する
	第12回～第14回	文献検索と整理の状況の報告
	第15回	中間発表と今後の計画の調整
	第16回～第20回	データ及び文献、資料等の整理
	第21回～第29回	論文作成と検討・修正
	第30回	研究成果の発表

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
適宜資料を配付する。

推薦図書等

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	清宮 宏臣
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 前半は主に全体での講義を中心に、意見交換を行う。後半は主に個別指導をする。

学生の達成目標 1. 社会福祉や介護福祉について、研究したいテーマを主体的に設定し、そのテーマについて深く調べ、それらを論文としてまとめ、提出する。

第1回	第1回 オリエンテーション（授業の進め方について） 第2回～第3回 各自の興味関心のある事柄について意見交換をし、研究テーマを設定する。 第4回～第5回 研究計画書（研究をしたくなった経緯や背景、研究目的、研究方法など）を作成する。 第6回～第13回 研究テーマに関する文献検索や資料収集を行い、整理する。 第14回 中間発表 第15回～第24回 研究論文を作成（構成、体裁等確認）する。 第25回～第28回 研究論文の確認、修正をする。 第29回～第30回 研究論文の提出
-----	--

予習
予習・復習の内容 復習
展開

成績評価 評価の基準 参加度、研究論文の内容などを総合的に評価する。

評価の方法 参加度、研究論文の内容などを総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
適宜資料を配布する。

推薦図書等

書籍名	はじめての介護研究マニュアルーアイデアから研究発表までー
著者名	矢原隆行
出版社	保育者
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	地域介護福祉研究
科目責任者	岩本 義浩
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	研究方法の学習やテーマを決めてディベートを行い自らの問題意識を持つ力を養う。 併せて、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い知識を深める。
-----------	--

学生の達成目標	1. 論文の所作事について理解する。 2. 自分の意見をまとめる力を養う。 3. 人前で自分の考えをまとめ述べる力を持てるようになる。
---------	---

授業内容	第1回 第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 研究の基礎 I（計画方法・疑問を持つコツ） 第5回～第10回 研究の基礎 II（文章読解力・情報の整理方法） 第11回～第15回 研究の基礎 III（要約演習） 第16回～第20回 研究の展開方法 I（推理・論文作成方法・発 想力） 第21回～第25回 研究の展開方法 II（調査・分析・要点整理） 第26回～第29回 論文作成 第30回 研究発表
------	--

予習・復習の内容	予習 復習 展開
----------	----------------

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	必要に応じて資料を配付する。			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 授業、実習などから捉えられた課題に基づき研究テーマを決める。
2. 学生の主体的な取り組みと、その問題・課題意識に応じて授業を展開する。
3. 学生の研究進度に応じて適宜発表とゼミ批評ができる機会を設ける。

学生の達成目標

1. 介護福祉実践における介護サービス利用者と介護福祉専門職とのかかわりのあり方を考察する。
2. 基礎的な事例研究の方法論を学び、研究報告書を定められた期限までに仕上げて提出する。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回～第3回	介護福祉について各自が抱いている問題意識を語り合う。
	第4回～第5回	研究テーマを決める。
	第6回	研究のタイプとデザインについて学ぶ
	第7回～第8回	研究計画書の作成
	第9回～第10回	各自のテーマに関する文献を検索する。＊図書館にてレクチャーを受ける。
	第11回～第14回	資料の収集と整理
	第15回	中間発表
	第16回～第25回	データの収集および論文作成
	第26回～第28回	論文の修正
	第29回～第30回	研究発表

予習・復習の内容

予習

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	参加度や研究論文の内容などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加度や研究論文の内容などを総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要時紹介する。	
推薦図書等	書籍名	はじめての介護研究マニユアルーアイデアから研究発表までー
	著者名	矢原隆行
	出版社	保育社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

地域介護福祉研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 卒業研究

授業科目名 地域介護福祉研究

科目責任者 川村 博子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 は全体指導を中心、後半は個別指導が主となる。

学生の達成目標 1. 障害者、高齢者が豊かで安定した生活を送ることが出来るための支援について、文献及び見学・調査・実践の体験を通して理解を深める。

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション
		第2回～第3回	興味、関心のあるテーマについて話し合い、課題を設定する
		第4回～第7回	資料収集の方法、整理の方法
		第8回～第9回	中間発表
		第10回～第12回	論文の構成、体裁、執筆方法
		第13回～第22回	論文の執筆について
		第23回～第27回	論文の検討、修正
		第28回	論文の提出
		第29回～第30回	論文の発表会

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	テーマへの取り組み、論文の内容。
	評価の方法	テーマへの取り組み、論文の内容を総合的に評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

日本の文化

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（人文系）

授業科目名 日本の文化

科目責任者 斉藤 靖之

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 11000501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・担当者が、毎時プリントを用意して、その内容について解説することが中心となるが、時には、具体的な文化の内容について、資料や写真等を活用し、学生の意見（感想）等の場を設けたりして、授業の深化を図りたい。

学生の達成目標

1. ・福祉や教育の仕事に携わる学生にとって、自らの教養を高めることは、意義がある。とりわけ、日本人として「日本の文化」について、その内容や歴史等を学ぶことは、人に接する仕事の上で、幅広い知識や教養となり、人間関係を築く上で重要な要因になる。
2. ・生活文化、地域文化、伝統文化等の学校のカリキュラムと関連づけて、日本の文化の特性を探究し、豊かな人間性と日本人の誇りを身につけてほしい。

授業内容

第1回	第1回	15時間の授業の概要について・「文化」とは
	第2回	「日本の文化」を学ぶ意味について
	第3回	「日本の文化」の分類例について
	第4回～第5回	「和モノ」（衣食住）について
	第6回～第7回	「日本のしきたり」について
	第8回～第11回	学習指導要領と伝統文化の取り扱いについて
	第12回	代表的な文化(美術・歌舞伎・建築等)
	第13回	代表的な文化(能と狂言・和歌・短歌等)

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	講義内容の中から、いくつかの課題を事前に与え、その課題の中から学生本人に課題を選択させ、レポートを書いて提出させる。特に、レポートの内容が講義内容を理解しているか、学生の主張が書かれている事を評価する。
	評価の方法	（70%）出席日数（20%）授業態度（10%）等を考慮して評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	参考資料は、プリントを配付する。併せて参考書籍等も授業で紹介する。

推薦図書等	書籍名	文化の範囲は広く、限定した参考書は固定しない予定。プリント用意
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

道徳と福祉の心

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	共通基礎科目（人文系）
授業科目名	道徳と福祉の心
科目責任者	野口 芳宏
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	11001001
教室	
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

DVDの視聴や様々な社会的・道徳的・福祉を題材とした資料を通して、福祉や社会に積極的に携わろうとする人々の「人間としての生き方・あり方」について考える。また、これまでの自分の生き方・あり方を振り返り、将来への道をたくましく切り拓こうとする意欲を高める。

学生の達成目標

1. 自分の目標に向かって、将来の目標を持つことができる。
2. 各分野の専門家(含 福祉)の生き方にふれ、自分のこれからの人生と重ね合わせる。
3. 新聞や雑誌の掲載された社会事象に関心を高める。
4. 今後の自分の生活や将来に向けた展望を持つことができる。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション「現在の自分とこれからの自分の生き方」について小論文を書く。
第2回 植草学園短期大学の歴史「社会の変遷とともに見つめてきた教育」
第3回 建学の理念を語る「植草学園短期大学が目指すもの」
第4回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。
第5回 道徳に関する文献を読み、人間の生き方について自分の考えをまとめる。 |
|-----|---|

	第6回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第7回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第8回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第9回 道徳に関する文献を読み，人間の生き方について自分の考えをまとめる。 第10回 福祉に関する新聞記事を読み，意見文を書き，発表する。 第11回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。 第12回 福祉教育に関する資料を読み，意見文を書き，発表する。 第13回 高齢者福祉に関する情報に関心を持つ。 第14回 DVについて話し合い，考えを深める。 第15回 まとめ 次年度への課題	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	さまざまな資料・文献の社会事象を通して自分の考えを持ち，自分の考えを相手に伝えることができる。自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。レポート（70%），振り返り（20%），授業中の意見文（10%）
	評価の方法	レポート意見文，振り返りカード，授業態度により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜資料配布（要整理・要保存）	
推薦図書等	書籍名	授業中に紹介する予定
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（社会系）

授業科目名 日本国憲法

科目責任者 金津 謙

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 12000101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

法律の講義には難解な専門用語が使われるが、本講座は法律の基礎を学ぶことを目標とするため、身近な具体的テーマを用いて平易に解説する。

学生の達成目標

1. 法律は社会規範として最も厳格なものであり、我々が日常生活を営む上で必要不可欠なものである。
2. 従ってどのような法律が存在するのか、法律が我々の生活に対していかなる影響を及ぼすのか、熟知しておく必要がある。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 憲法の意義 |
| | 第2回 憲法総論／日本国憲法史 |
| | 第3回 国民主権という考え方／明治憲法と現行憲法との比較 |
| | 第4回 平和主義／憲法9条と世界平和 |
| | 第5回 基本的人権とはなにか／人権宣言の意義／基本的人権の限界 |
| | 第6回 個人の思想の自由は制限されるか／法の下での平等・精神的自由権① |
| | 第7回 表現の自由とはなにか／法の下での平等・精神的自由権② |
| | 第8回 中間テスト |
| | 第9回 国民の経済活動を保証するルールとは／経済的自由 |
| | 第10回 犯罪捜査・刑罰を科す上での基本ルールとは／人身の自由 |

第11回 ホームレスの存在は憲法違反か／社会権／生存権
第12回 義務教育はなぜ無料なのか／社会権／教育を受ける権利
第13回 国会の地位と権限・内閣の構造／統治機構概論
第14回 地方自治の推進と問題点
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	中間テスト（50％），期末テスト（50％）の総合評価
	評価の方法	中間テスト（50％），期末テスト（50％）の総合評価

教科書	書籍名	法学への一歩（第3版）
	著者名	河原 格 編著
	出版社	八千代出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	岩波.セレクト六法
	著者名	
	出版社	岩波書店
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

コンピュータ概論 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ概論 児童
科目責任者	緒方 佐紀子
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	12000502

教室

単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	テキストを参考に練習問題に取り組み、その後プリントによる演習問題を自由に作成する。
-----------	---

学生の達成目標	- Windowsの基本操作方法を習得し、Word、Excelの実習により文章作成、表計算、統計の理解を学ぶ。 - アプリケーションソフト間のデータ受け渡しにより、ファイル知識を習得する。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 コンピュータの周辺機器とWindowsの基本知識 第2回 メモ帳、Wordによる入力、保存、ファイル管理 第3回 Wordの基本操作1（文字、文章入力、文書保存） 第4回 Wordの基本操作2（編集機能） 第5回 Wordの基本操作3（表、罫線） 第6回 Wordの基本操作4（ビジュアルな文書、図形） 第7回～第8回 総合的な文章の作成 第9回 Excelの基本操作1（ワークシート、セル、表） 第10回 Excelの基本操作2（計算式を用いた表の作成、挿入／削除など） 第11回 Excelの基本操作3（グラフの作成） 第12回 Excelの基本操作4（グラフの変更、装飾など） 第13回 Excelの基本操作5（関数の使い方）
------	-----	---

第14回 Excelで基本操作 6 (データベース機能)

第15回 まとめ (総合問題の提出)

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	演習レポート, 授業出席, 授業参加態度を考慮して行う。
	評価の方法	演習レポート, 授業出席, 授業参加態度を考慮して行う。
教科書	書籍名	『30時間でマスター Word & Excel 2010』
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	『よくわかる Word 2010 基礎, 応用』
	著者名	
	出版社	FOM出版
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	『よくわかる Excel 2010 基礎, 応用』
	著者名	
	出版社	FOM出版
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コンピュータ演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	コンピュータ演習
科目責任者	荻原 尚
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

一人1台のコンピュータを操作し、各人が適宜アプリケーションおよび手法を選択し、演習レポートを作成する。

学生の達成目標

1. コンピュータ本体・周辺機器の基本動作原理を理解し、各種アプリケーション実習を通してデータを処理するために必要な基本的概念を体得する。
2. さらに、時代が要求する情報伝達に必要なプレゼンテーション技法および情報資源を有効活用するためにマルチメディア情報の取り扱いやネットワークに関する基礎技能を身につける。

授業内容

第1回	第1回 コンピュータの基本操作
	第2回 グラフィックの種類と特徴
	第3回 画像のファイル形式
	第4回 ペイント系 CG（レイヤーの使い方）
	第5回 ペイント系 CG（範囲選択）
	第6回 フォトレタッチ（画像の合成技術）
	第7回 フォトレタッチ（色相、明度、彩度）
	第8回 フォトレタッチ（クイックマスク）
	第9回 フォトレタッチ（レイヤーマスク）
	第10回 フォトレタッチ（自由作品制作）
	第11回 Webデザインの基礎知識
	第12回 CSS（文字デザイン）
	第13回 CSS（レイアウト）
	第14回 ホームページの作成（1）
	第15回 ホームページの作成（2）

- 第16回 コンピュータ音楽の概要
- 第17回 MIDIのしくみ
- 第18回 MIDIファイルの作成（１）
- 第19回 MIDIファイルの作成（２）
- 第20回 デジタル・オーディオの基礎知識
- 第21回 PowerPointの基本操作
- 第22回 プレゼンテーション（資料の作成）
- 第23回 プレゼンテーション（発表）
- 第24回 ドロー系 CG（基本操作）
- 第25回 ドロー系 CG（パス演算）
- 第26回 Flashアニメーション（基本操作）
- 第27回 Flashアニメーション（スプライトの使い方）
- 第28回 Flash紙芝居の作成（１）
- 第29回 Flash紙芝居の作成（２）
- 第30回 Flash紙芝居の作成（３）

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	演習レポート・熟達度および出席を考慮して総合的に行う。
	評価の方法	演習レポート・熟達度および出席を考慮して総合的に行う。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	テキストは、使用しない。適宜資料を配布する。データ保存用に USBメモリを用意することが望ましい。

推薦図書等	書籍名	特に指定しない。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

キャリアガイダンスⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（人文系）

授業科目名 キャリアガイダンスⅠ

科目責任者 田村 光子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

本学のキャリア支援のしくみについて理解し、働くことの意義や職業選択の方法について知り、よりよい職業選択につなげることを目的とする。各職場で働く先輩の話、さらにビジネスマナー等の講習会、担任等との面接を通して、自らのキャリアについて考え、行動していく力につなげたい。

学生の達成目標

1. 社会に必要なコミュニケーション力やビジネスマナーを身につけ、望ましい職業選択ができる能力を高める
2. 自分の長所・仕事観などに理解を深め、どのような職場で自分の長所を発揮できるか考える
3. 講演、講習会および面接等を通して、実際の現場で必要な力を学び、その力を実習やボランティアなど実践の場につなげる

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション・1年間の日程について
第2回 図書館ガイダンス

	第3回	進路ガイダンス（1）進路選択について
	第4回	面接指導－よりよい大学生活に向けて
	第5回	公務員ガイダンス
	第6回～第7回	作文添削講座
	第8回～第9回	卒業生のお話を聞く会 （公務員講座（1）希望者のみ）
	第10回	キャリアデザインの作成
	第11回	マナー講座
	第12回～第13回	キャリア関連講演会（アサーティブ講座、スト レスマネジメント講座等）
	第14回	内定報告会
	第15回	進路ガイダンス（2）2年生にむけて （公務員講座（2）希望者のみ）
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業への参加度（60％）、授業内のレポート提出状況とその 内容（40％）
	評価の方法	授業への参加度と授業内のレポート提出状況およびその内容で 評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	進路ガイドブック、キャリアデザインノート	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	共通基礎科目（社会系）
授業科目名	キャリアガイダンス II
科目責任者	黒田 静江

担当教員	松原 敬子
	中坪 晃一
	佐藤 慎二
	山本 邦晴
	漆澤 恭子
	高倉 誠一
	浅川 蘭子
	田村 光子
	相磯 友子
	根本 曜子

授業形態	演習
------	----

開講時期	通期
------	----

単位数	1
-----	---

配当年次・対象学生	2年次
-----------	-----

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

今まで学んだことを活かしながら、保育・福祉・教育などの職場で働いている先輩の話
を聞いたり、ゼミ担当者やキャリア支援員との面接を通して、自分に合った進路・適職
について考える。また円滑な就職活動をするために必要なことを学び、積極的に進路を
切り拓いていけるようにする。

学生の達成目標

1. 社会人になるために必要な常識・マナー・言葉づかいなど実践できるようになる。
2. 自分の長所・仕事観などに理解を深め、どのような職場で自分の長所を発揮できるか考え行動する。
3. 社会人になり働く時、どのようにバランスを取るとよいか考える。

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション
		第2回	マナー講座
		第3回～第4回	保育士公務員模擬試験

		第 5 回	作文講座
		第 6 回	履歴書の書き方
		第 7 回～第 8 回	卒業生のお話を聞く会
		第 9 回	就職活動の進め方
		第10回	就職試験対策について
		第11回	模擬面接講座
		第12回	労働・社会保障関係法講座
		第13回	アサーティブ講座
		第14回	ハラスメント講座
		第15回	ストレスマネジメント講座
予習・復習の内容	予習		
	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準	レポート提出状況とその内容・授業への参加度	
	評価の方法	レポート提出状況とその内容（60％） ・ 授業への参加度（40％）	
教科書	書籍名	進路ガイドブック	
	著者名		
	出版社		
	価格		
	ISBN・ISSN		
	書籍名	キャリアデザインノート	
	著者名		
	出版社		
	価格		
	ISBN・ISSN		
推薦図書等			
参考URL			
備考			

環境と人間

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（自然系）

授業科目名 環境と人間

科目責任者 村上 公信

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限
12000901
12000902

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「地球環境を考える」に関する講義が中心になるが、DVD視聴や新聞記事による探究学習なども組み込んで授業を行う。＊健康管理士一般指導員資格を取得する場合は選択必修となる。

学生の達成目標

- 身近な自然環境や環境問題から、地球規模で抱える環境問題までを、人間社会や健康との関わりから学ぶとともに、人間を始め多くの生物がこの地球で生き続けるための基盤となる必要な情報について探究学習を通して考える。
- 地域介護福祉専攻では、健康管理士一般指導員受験の内容に対応する。

授業内容

- | | |
|-----|----------------------------|
| 第1回 | 第1回 環境とは何か・環境問題とは何か |
| | 第2回 環境を形づくるもの－生態系 |
| | 第3回 自然界の物質循環 |
| | 第4回 体内環境の調節 |
| | 第5回 大気の汚染・原子力発電所事故による放射線汚染 |
| | 第6回 オゾン層の破壊と地球温暖化問題 |
| | 第7回 水の汚染と水質浄化 |
| | 第8回 酸性雨 |
| | 第9回 土壌の汚染 |
| | 第10回 環境ホルモンとダイオキシン |

- 第11回 騒音・振動・悪臭と健康
- 第12回 環境と食の問題
- 第13回 環境汚染に対する行政上の対応
- 第14回 環境問題のための新技術
- 第15回 「環境と人間」のまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	試験の成績に，出席状況・学習意欲や学習他愛度，毎授業時に提出する小レポートなどを加味して総合的に評価する
	評価の方法	試験の成績に，出席状況・学習意欲や学習他愛度，毎授業時に提出する小レポートなどを加味して総合的に評価する

教科書	書籍名	地球環境がわかる
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	特になし。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

総合英語 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（外国語）

授業科目名 総合英語 I

科目責任者 北條 洋子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 14000101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

各回のテーマに従い、下記3種類の内容に関する授業を行う。

1) 英語圏の生活習慣を知るために各回テーマに沿う英語圏諸国の特色ある場面を見て、日本と異なる習慣や考え方を知る。英語を聞いたり話したりする練習を兼ねる。

2) コミュニケーションの練習として、テーマに沿った英会話練習をする。

3) 「キラキラ星」などで知られるMother Gooseからの伝承童謡や、欧米の児童に知られている歌・チャンツを毎回取り上げ、児童への英語指導技術を学習し、数回発表する。

◎将来児童が英語に親しむことができる「手本」になれるよう、その育成を考えて授業を行う。

授業のねらい・概要

学生の達成目標	○「英語を児童に親しませることができるようになる。 そのために、 英語や英語圏の文化について理解を深める。 - 基本的な英語表現に慣れ親しむ。 - 児童とのコミュニケーションを図ろうとする態度や基本的な指導技術を身に着ける。				
授業内容	第1回 第1回 授業目標とその進め方について。 英語について／児童英語指導の基礎／Today's Theme: "St. Patrick's Day"／初めての英語でのあいさつ 第2回 "Names" 個人情報／初めての出逢いでの英会話／授業開きの練習 第3回 "Easter" 教室での先生としての自己紹介スピーチ／「英会話たいそう」 第4回 "English Castles" 日本との違い①／ほめる言い方／Mother Gooseとは 第5回 "Mail Box" 日本との違い②／英会話の5つのコツ／Mother Gooseの応用 第6回 "Breakfast" 世界の朝食／話す時のポイント／真の国際人の条件 第7回 "Numbers" 値段や番地の英語／聞き手のマナー／教師の英語 第8回 "Symptoms" 病状を訴える／病気やけがを気遣う会話／児童への声かけ 第9回 "Snacks & Tea" 国別好きなお菓子／紅茶とイギリス人／おやつ之歌 第10回 "Animals" 動物と子ども／補助犬／ペットは何匹？／動物之歌 第11回 "American School Life" 英語圏の学校／学校の思い出／非言語的コミュニケーション 第12回 "Barrier-Free & UD" 外国の福祉意識／地域福祉／英語授業の組み立て 第13回 "Community" 集団意識づくりと街づくり／道案内の会話／英語指導技術の練習 第14回 "Great Caring Persons" 偉人って？／睡眠時間／児童英語教材の選び方 第15回 Presentation and Evaluation 英語授業実践発表と批評会 まとめ				
予習・復習の内容	予習 復習 展開				
成績評価	<table> <tr> <td>評価の基準</td><td> ①発表（40%） ②筆記テスト（30%） ③提出物（20%） ④参加態度（10%） を総合して評価する。 </td></tr> <tr> <td>評価の方法</td><td> ①については授業内及び最終回の発表で ②③については英語や英語圏の文化に関する知識の筆記テスト、授業で学習したことに関する調査レポートで評価する。 </td></tr> </table>	評価の基準	①発表（40%） ②筆記テスト（30%） ③提出物（20%） ④参加態度（10%） を総合して評価する。	評価の方法	①については授業内及び最終回の発表で ②③については英語や英語圏の文化に関する知識の筆記テスト、授業で学習したことに関する調査レポートで評価する。
評価の基準	①発表（40%） ②筆記テスト（30%） ③提出物（20%） ④参加態度（10%） を総合して評価する。				
評価の方法	①については授業内及び最終回の発表で ②③については英語や英語圏の文化に関する知識の筆記テスト、授業で学習したことに関する調査レポートで評価する。				

④については積極的にコミュニケーションしようとする態度が最重要である。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
Songs & Chants (mpi) を主要な教材とし、毎回補充プリントを配布する。

書籍名 マザー・グースの唄
著者名 平野敬一著
出版社 中公新書
価格
ISBN・ISSN

推薦図書等

書籍名 子どもと英語（mpi）
著者名 松香洋子 著
出版社 L.Frank Baum: Mother Goose in Prose（Kinseido Ltd.）
価格
ISBN・ISSN

参考URL

備考

総合英語Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（外国語）

授業科目名 総合英語Ⅱ

科目責任者 マーク レモン

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 14000301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Warm-up activity, Identifying target language, Practice and Presentation

- 学生の達成目標
1. 英語で言いたいことを積極的に表現する。
 2. 話し相手についての知りたいことを積極的に英語で質問する。
 3. 英語でミスをする恐れでちゃんとコミュニケーションを取らずに遠慮することをなくす。

授業内容

- 第1回
- 第1回 Getting to know the teacher and his background.
 - 第2回 Talking about Japanese holidays and events.
 - 第3回 Asking and giving personal information.
 - 第4回 Discussing likes and dislikes.
 - 第5回 Practicing the differences between countable and uncountables.
 - 第6回 Using adverbs of frequency and asking about habits.
 - 第7回 Talking about ability and degrees of proficiency.
 - 第8回 Review and presentation.
 - 第9回 Describing and defining things.
 - 第10回 Talking about experiences and telling a story.
 - 第11回 Movie review: An animated film is used to review story-telling.

第12回 Asking about family, relatives and sports.
第13回 Asking about family, relatives and sports, continued.
第14回 Discussing jobs and job functions.
第15回 Written evaluation of main points of class.
第16回 Review and final presentation.

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	Daily evaluation 60%, Mid-term presentation 20%, Final presentation 20%
	評価の方法	Daily evaluation 60%, Mid-term presentation 20%, Final presentation 20%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 特になし。
-----	------------------------------------

推薦図書等	書籍名	特になし。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

スポーツ・レクリエーション（実技）児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（体育）

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（実技）児童

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 実技

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を理解し，多方面で活用できる能力を身に付けてほしい。各種レクリエーション種目の特性やルール名アドを記入するためのノートを用意し，現場でも役立つような資料作りをする。

学生の達成目標

1. 種々のスポーツ・ニュースポーツなどに触れ，レクリエーション活動の理論と特徴を理解し，各人の健康づくりや生きがいがいつくりにつながるレクリエーション活動を実践して行く為の資質を養う。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション
第2回～第3回 アイスプレーキング
第4回～第6回 フライング・ディスク（ドッジビー）
第7回～第9回 バドミントン
第10回～第12回 ソフトバレーボール
第13回 インディアカ
第14回 ヘルスバレーボール
第15回 スラックライン
第16回 前期まとめ
第17回～第18回 ベタンク
第19回 ホスピタリティートレーニング
第20回 支援実習
第21回 支援実習
第22回 支援実習
第23回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
	評価の方法	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
教科書	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	(財) 日本レクリエーション協会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

スポーツ・レクリエーション（講義）児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 共通基礎科目（体育）

授業科目名 スポーツ・レクリエーション（講義）児童

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

現代社会が抱える問題とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について発達段階との関連から取り上げ、それぞれの発達段階において保持・増進をすべき体力要素を理解し、保持・増進のための方策について考察する。また、それぞれの体験や日常生活を省察しながら、ライフステージに合わせたスポーツのあり方や実践方法を獲得してほしい。

学生の達成目標

1. 現代社会の問題点とスポーツ・レクリエーションの果たす役割について理解し、発達段階に応じた心身の健康や体力の保持・増進の為の方策を理論的に学習する。
2. 加えて、障害にわたってスポーツを指導・実践できる能力を身につけるために、スポーツ活動の必要性を認識し、その実践方法を習得する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 スポーツとは
 - 第2回 現代社会の問題点とスポーツ
 - 第3回 発達発達と運動
 - 第4回 発達発達と運動
 - 第5回 身体運動のメカニズム
 - 第6回 運動と障害
 - 第7回 運動処方
 - 第8回 障害予防と応急処置

予習・復習の内容

予習
復習

展開

成績評価

評価の基準	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
評価の方法	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
特に無し

推薦図書等

書籍名	レクリエーション支援の基礎
著者名	(財) 日本レクリエーション協会編
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育原理

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

すこやかな子どもの育ちと子育て支援とを目的・課題とするときの基本的な考え方について学ぶ

学生の達成目標

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する
2. 子どもを理解する際の手がかりとなる視点を習得する
3. 保育を成り立たせている保育内容や方法の原理を理解する
4. 子育てを取り巻く社会的な変化を理解する

授業内容

- 第1回
- 第1回 オリエンテーション 保育原理の学習の計画と授業計画
 - 第2回 保育とは何か
 - 第3回 保育の基盤としての子ども観
 - 第4回 子ども理解から出発する保育
 - 第5回 子どもが育つ環境の理解
 - 第6回 保育内容・方法の原理Ⅰ
 - 第7回 保育内容・方法の原理Ⅱ
 - 第8回 保育の計画と実践の原理
 - 第9回 健康・安全と障がいのある子どもへの対応
 - 第10回 保育の歴史に何を学ぶか
 - 第11回 保育者に求められるもの
 - 第12回 家族援助と子育て支援
 - 第13回 保育の評価と苦情処理及び保育者の研修
 - 第14回 保育の現状と課題
 - 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 積極的に授業に参加している
	評価の方法	レポート、試験、授業参加の姿勢から総合的に評価する
教科書	書籍名	最新保育講座 保育原理
	著者名	森上史朗 他
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2000円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	最新保育資料集
	著者名	森上史朗 他
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2000円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	保育用語辞典
	著者名	森上史朗 柏女霊峰
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2300円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育原理

科目責任者 高野 良子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30000501

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

日本の社会・家庭・学校で生起している教育事象や教育課題を考察しつつ、教育の原理や教育の営みについて学んでいくことにしたい。講義形式で進めるが、必要に応じ、学習者は感想・意見・質問などを「授業カード」に記入し提出する。教員は次の授業時にそれに適宜応える形式で進め、双方向の授業を目指す。毎回授業時に資料を用意する。適宜、ビデオ活用や討論も導入している。学習者には、教育関連の報道やさまざまな教育事象に常に関心を持つことを求める。

学生の達成目標

1. 本授業は、「人間とは何か」、「教育とは何か」、「教育という営みの持つ意味は何か」、「子どもの発達とは何か」、「学ぶこと、教えるとは何か」という原理的な視点から、教育についての基本的な考え方等について理解を深めることをねらいとしている。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション：「教育原理」学習の目的と授業計画
第2回 教育の意義と目的：「教育とは何か」、「人間とは何か」、ヒトから人へ
第3回 人間形成と教育：教と育、教育の意味、デューイの教育理論
第4回 教育の構造：教育の諸形態と機能、陶冶と訓育、ペスタロッチの教育思想
第5回 発達の意味と構造：発達の適時性と順序性
第6回 西洋における教育の理念と歴史：ルソー『エミール』にみる「子どもの発見」

第7回 日本における教育の理念と歴史（１）：近世，近代の教育，学制の発布
第8回 日本における教育の理念と歴史（２）：戦後の教育観，教育制度，教育行政
第9回 教育と児童福祉との関連性：「日本国憲法」「教育基本法」「児童の権利に関する条約」
第10回 教育の内容と教育の方法：幼児教育におけるカリキュラムと教育方法の理論
第11回 教育役割と子どもの社会化：「教育基本法」に新設された第10条と第11条
第12回 教育の基礎的概念と幼児教育の諸理論
第13回 生涯学習の理念：「教育基本法」に新設された第3条
第14回 現代の教育問題と課題＋課題成果の発表①
第15回 総括＋課題成果の発表②

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回レジュメを配布するが、テキストは使用しない。	
推薦図書等	書籍名	少子社会の子育て力
	著者名	高野良子編著
	出版社	学文社 2013年
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	教育原理（改訂4版）
	著者名	保育士養成講座編集委員会編
	出版社	全国社会福祉協議会，2009年
	価格	1,890円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉緒基本的な事柄を知るために講義を中心として進め、現代的課題も家庭と子どもの関わり合いの様子がリアルに捉えられるよう視聴覚教材を用いて理解を深める。授業参加者の意見や考察をリアクションペーパーにより提出してもらい、フィードバックし授業内容にも反映させていく

学生の達成目標

1. 児童福祉の歴史を知り、制度・施策とを関連づけて、子どもの権利という視点から現代的課題を考察出来るようにする。
2. 保育や保育士のあり方について、地域で子どもと家庭を支える役割としての専門性を考察出来るようにする

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス
	第2回 子どもと家族の概念
	第3回 子どもの権利とその概念
	第4回 子どもの権利条約
	第5回 現代の子どもと家族の問題
	第6回 児童虐待の現状
	第7回 少子化対策と課題
	第8回 児童福祉法体系
	第9回 欧米の歴史
	第10回 日本の歴史1
	第11回 日本の歴史2
	第12回 子ども家庭支援のしくみ1
	第13回 子ども家庭支援のしくみ2
	第14回 子ども家庭支援のしくみ3
	第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	児童家庭福祉の概念と現状と課題、支援のしくみの理解ができている。子どもと家庭の支援が保育の専門性であることが考察できる
	評価の方法	リアクションペーパー１０％、テスト９０％
教科書	書籍名	新 保育士養成講座第3巻 児童家庭福祉
	著者名	
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 社会福祉

科目責任者 根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心に行うが、身近な問題として捉えるため、各メディア（新聞、ビデオなど）を教材として利用する。

学生の達成目標

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業内容

- | | | |
|-----|------|------------------|
| 第1回 | 第1回 | 社会福祉をめぐる状況 |
| | 第2回 | 社会福祉の理念と概念 |
| | 第3回 | 社会福祉の歴史 |
| | 第4回 | 社会福祉と児童家庭福祉 |
| | 第5回 | 児童の人権擁護と社会福祉 |
| | 第6回 | 家庭支援と社会福祉 |
| | 第7回 | 社会福祉の制度と法体系 |
| | 第8回 | 社会福祉の行財政と実施機関、施設 |
| | 第9回 | 社会福祉の専門職、実施者 |
| | 第10回 | 社会保障及び関連制度の概要 |
| | 第11回 | 社会福祉における相談援助 |
| | 第12回 | 利用者保護の仕組み |

第13回 少子高齢化社会への対応と在宅福祉・地域福祉の推進
第14回 保育・教育・療育・保健・医療等との連携
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	テスト, 授業態度により評価する。
	評価の方法	テスト, 授業態度により評価する。

	書籍名	「保育者のための社会福祉」
	著者名	小林育子著
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	

教科書	書籍名	「社会福祉小六法」
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	

	書籍名	「社会福祉用語辞典」
	著者名	
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 相談援助

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義も含めつつ演習を中心に行っていく。その際には一人ひとりが積極的に参加すること。

学生の達成目標

1. 相談援助の概要について理解する。
2. 相談援助の方法と技術について理解する。
3. 相談援助の具体的展開について理解する。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 相談援助の概要 ①（相談援助の理論）
 - 第2回 相談援助の概要 ②（相談援助の意義）
 - 第3回 相談援助の概要 ③（相談援助の機能）
 - 第4回 相談援助の概要 ④（相談援助（保育）とソーシャルワーク）
 - 第5回 相談援助の方法と技術 ①（相談援助の対象）
 - 第6回 相談援助の方法と技術 ②（相談援助の過程）
 - 第7回 相談援助の方法と技術 ③（相談援助の技術・アプローチ）
 - 第8回 相談援助の具体的展開 ①（計画・記録・評価）
 - 第9回 相談援助の具体的展開 ②（関係機関との協働）
 - 第10回 相談援助の具体的展開 ③（多様な専門職との連携）
 - 第11回 相談援助の具体的展開 ④（社会資源の活用、調整、開発）
 - 第12回 事例分析 ①（虐待の予防と対応）

第13回 事例分析 ②（障害のある子どもとその保護者への支援）
第14回 事例分析 ③（ロールプレイ、フィールドワーク等による分析）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢＋ミニ課題（20点）＋定期試験（80点）
教科書	書籍名	ワークシートで学ぶ相談援助
	著者名	
	出版社	学文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 社会的養護

科目責任者 水鳥川 洋子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30011301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義形式だが、事例の提示を多くし、随時レポートの提出を求め、具体的理解を深める。

学生の達成目標

1. 社会的養護の意義とその制度・実施体系を学ぶ。
2. 特に児童福祉施設の入所児の現状を理解し、施設における児童養護の基本的考え方を学ぶ。
3. さらに、子どもを取り巻く現代の社会状況を考えるとき、社会的養護を学ぶことは、子どもの権利や保育所の役割、家庭支援の在り方について理解を深めることにつながることを理解する。

授業内容

第1回	第1回 社会的養護とは・・・社会的養護の対象と体系	
	第2回 児童虐待問題（1）	
	第3回 児童虐待問題（2）	
	第4回 社会的養護の歴史（1）	
	第5回 社会的養護の歴史（2）	
	第6回 児童相談所の役割	
	第7回 養育環境に問題がある児童の施設養護（1）	（乳児院）
	第8回 養育環境に問題がある児童の施設養護（2）	（児童養護施設 母子生活支援施設）
	第9回 情緒・行動面に問題がある児童の施設養護	（児童自立支

援施設 情緒障害児短期治療施設)
第10回 障害のある児童の施設養護（１） （福祉型障害児入所施設）
第11回 障害のある児童の施設養護（２） （医療型障害児入所施設）
第12回 家庭的養護 （里親，ファミリーホーム，自立援助ホーム）
第13回 家庭養育を支援する施設（児童発達支援センター，児童家庭支援センター）
第14回 児童福祉施設の運営管理
第15回 社会的養護の今後の課題とこれからの保育士に求められるもの

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末試験（70％）, 随時のレポート(30%)
	評価の方法	期末試験（70％）, 随時のレポート(30%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	検討中	
推薦図書等	書籍名	授業中に紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	☐ 上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考		

保育者・教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育者・教師論
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 乳幼児期の保育・教育・障害教育の保育者・教師に重点を置く。 2. 学生の育ちの過程で出会った保育者・教師の例を取り上げ、望ましい在り方を身近で具体的に考える授業にする。
-----------	--

学生の達成目標	1. 保育者や教師が備えるべき条件の基礎となる保育士・教師観、子ども観、保育・教育観、授業観、保育者・教師の役割と倫理、保育士・教師の制度上の位置づけ、現場での協働の大切さ、保育者・教師の専門性と専門職としての育ち等、望ましい保育者・教師となる基本的資質について学ぶ。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 保育士・教師の制度上の位置づけ－資格・要件・責務等 第2回 保育士・教師観－望ましい保育士・教師像、好きな保育士・教師、優れた保育士・教師、良い教師の条件 第3回 子ども観－教え指導する子ども、共に生活し支える子ども、子ども主体の保育・教育、子ども主体を支える保育・教育 第4回 子ども理解－肯定的理解、共感的理解、感じ合い・分かり合い 第5回 保育・教育観－障害等の有無に関係なく、全ての子どもに適用できる保育・教育観 第6回～第7回 保育課程・教育課程観－保育所や学校等の生活の充実・発展のための保育課程・教育課程、保育所や学校等での生活づくりを保育・教育課程編成と捉えて 第8回～第9回 日々の保育・授業観－活動・生活支援としての日々の保育・授業、生活の一コマとしての授業、遊びや日常生活等を支える授業 第10回～第11回 保育者・教師の専門性－保育・幼児教育の専門
------	-----	---

性、特別支援教育の専門性、養護と教育、資質・能力、技術・技法、保育・教育の展開と自己評価、保育・教育観と専門性
第12回 保育者・教師の役割と倫理等－倫理、服務・規律、職務内容・役割等
第13回 保育者・教師の協働－保育者・教師の支え合い、協働
第14回 保育者・教師の専門職としての育ち－専門性の向上とキャリア形成
第15回 講義のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などより総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回関係資料を配付	
推薦図書等	書籍名	「大好きな先生に出会えたら」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編
	価格	4 5 0 円
	ISBN・ISSN	
	☐ 上記の図書等は市販されていません。	
推薦図書等	書籍名	「感じ合い 分かり合い 支え合い」
	著者名	小出進
	出版社	日本生活中心教育研究会編
	価格	1. 0 0 0 円
	ISBN・ISSN	
	☐ 上記の図書等は市販されていません。	
参考URL		
備考		

障害福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害福祉論

科目責任者 田村 光子

担当教員 根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害者福祉の基本理念について、講義、ビデオ視聴等をふまえながら学んでいく。また近年の障害児者福祉における制度の変化やその他福祉サービスの内容についても理解できるようになる。

学生の達成目標

1. 障害者福祉の基本理念、また実地的な制度について理解する
2. 当事者の話や現場の声を通して、実地的な障害者福祉について学ぶ
3. 障害児者施設への就職を希望する学生は受講をすすめる

授業内容

第1回	第1回 オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に
	第2回 ついての理解	
	第3回 障害とは何か	～障害概念の理解～障害児者福祉
	第4回 の発展	
	第5回 障害児者福祉の歴史的変遷	
	第6回 第4回～第5回	ノーマライゼーション理念の理解
	第7回 第6回	自立生活運動、インクルージョン、特別支援教育へ
	第8回 第7回	障害者基本法の理解
	第9回 第8回	障害者自立支援法への歩み
	第10回 第9回～第11回	障害福祉サービスの仕組み
	第11回 第12回	障害者福祉を支える関連法の理解
	第12回 第13回	現代の障害者福祉の動向

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席（１５％）、まとめ（８０％）、レポート提出（５％）を基本とする 選択科目のため、受講状況により評価基準を変更することがある
	評価の方法	レポート、まとめ、授業態度を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	「よくわかる障害者福祉（第４版）」ミネルヴァ書房 随時資料配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育論

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育・教育現場における「気になる」子ども、発達障害、知的障害のある子ども思いに寄り添い、支える支援の実践について学ぶ。

学生の達成目標

1. ○「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と理解する。
2. ○保育における魔法の言葉の意味と実際について理解する。
3. ○授業で取り上げたミニネタを身につける。

授業内容

第1回

第1回～第6回

① 子ども観・障害観の転換－「困った子」ではなく「（何かに）困っている子」－保育や教育の場で出会う「気になる行動」の理解の仕方を具体例を通して考える。

② 支援観の転換－子どもの「よさ」「いいところ」を見つめ・伸ばし、子どもの困難さをさりげなく支える保育や教育の実際を考える。

③ 誰もが楽しめ・明日すぐ使える「ミニネタ」を毎回の授業で多く取り上げる。

第7回～第15回

① 実習で出会った「困っていた」子どもの事例に学び、よりよい支援の在り方を検討する。

② 就学支援と関連づけ、特別支援教育に関する学校・学級・教室の概要について具体的に紹介する。特別支援教育への理解を深める。

③ 保護者の手記や関連のビデオを通して、保護者の思いに触れ・支援の重要性を学ぶ。

④ 誰もが楽しめ・明日すぐ使える「ミニネタ」を毎回の授業で多く取り上げる。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度及び授業への取り組み態度
	評価の方法	レポートの内容、配付資料の活用状況等を総合的に評価する。
教科書	書籍名	ママとパパと先生のための子育てハートホッとメッセージ 50
	著者名	佐藤慎二
	出版社	日本文化科学社
	価格	1250円
	ISBN・ISSN	978-4-8210-6089-4
	書籍名	いつでも・どこでも・楽しめるミニネタ190選
	著者名	佐藤慎二
	出版社	自費出版
	価格	200円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育の心理学 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の心理学 I

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、視覚的教材や資料などを使い理解を深める。発表や協議など適宜取り入れ実践的な力量を養うことを目指す。

学生の達成目標

1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 子どもが人との相互的関わりを通して発達していくことを具体的に理解する。
4. 生涯発達の観点から初期経験の重要性について理解する。

授業内容

- 第1回
- 1 発達とは
 - 2 保育を巡る動向
 - 3 胎児期から新生児期の発達の特徴と保育
 - 4 身体機能・言語発達の基礎、母子関係の形成
 - 5 乳児期の運動機能の発達
 - 6 乳児期の言葉の発達
 - 7 乳児期の認知機能の発達
 - 8 乳児期における他者との関わり
 - 9 乳児期の身辺自立と自己コントロール
 - 10 幼児期における集団生活の始まり
 - 11 幼児期の遊びと心の発達
 - 12 幼児期の思考の発達
 - 13 幼児期の言葉の獲得

14幼児期における仲間関係の開始
15生涯発達から見る初期発達の重要性 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度 提出物 定期試験
教科書	書籍名	保育者のたまごのための発達心理学
	著者名	新井邦二郎
	出版社	北樹出版
	価格	1900円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-7793-0278-7
推薦図書等	書籍名	乳幼児発達心理学
	著者名	繁多進
	出版社	福村出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の心理学Ⅱ

科目責任者 小沢 恵美子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30011501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実習等での自分の経験や、保育現場で起こりうる状況を設定し、その状況に対して保育士として「自分ならどのように考えるか？どのように行動するか？」を考えていく。またグループワークや発表場面を設けて、自分の考えや意見を発表する、他者の考えや意見を尊重することを経験できるようにする。

学生の達成目標

1. 子どもの心と身体の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活や経験を通しての学びの過程について理解する。
3. 保育、子育て支援における発達援助について学ぶ。
4. 理論をふまえて日常生活や現実場面をとらえなおす。

授業内容

- | | | |
|-----|------|--------------------------|
| 第1回 | 第1回 | ガイダンス& 子どもの理解における発達の把握 |
| | 第2回 | 発達段階、発達過程に応じた保育 |
| | 第3回 | 子ども同士のかかわりと関係作り ―遊びを中心に― |
| | 第4回 | 環境としての保育者と子どもの発達 |
| | 第5回 | 子どもの経験と学び |
| | 第6回 | 学びを支えているやる気 |
| | 第7回 | 他者とのかかわりと学び |
| | 第8回 | 生涯にわたる生きる力の基礎を培う |
| | 第9回 | 発達の課題に応じた援助やかかわり |
| | 第10回 | 特別な支援を要する子どもへのかかわり |

第11回 発達連続性と就学への支援
第12回 保護者理解と子育て支援（１）－何を支援するのか－
第13回 保護者理解と子育て支援（２）－実際の対応－
第14回 現代社会における今後の保育の課題
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	レポートや授業内での課題提出，期末テストの総合評価とする。
	評価の方法	レポートや授業内での課題提出，期末テストの総合評価とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	使用しない。必要に応じてプリント配布する。

推薦図書等	書籍名	必要に応じて授業内で紹介していく。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

子どもの保健 I A

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 子どもの保健 I A

科目責任者 野村 攝子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義中心であるが，課題レポート，研究発表なども適宜取り入れる。

学生の達成目標 1. 子どもの心身の健康増進を図るにあたり必要な保健活動の意義と子どもの心身の発達，発育及び疾病，保育環境，安全管理について理解する。

授業内容	第1回	第1回 健康の概念と健康指標について 第2回 生物としてのヒトの成り立ち① 主に生殖について 第3回 生物としてのヒトの成り立ち② 主にリプロダクティブヘルスについて 第4回 母と子の健康に関わる保健活動の意義と目的 第5回 子どもの身体発育と保健 第6回 子どもの運動機能の発達と保健① 主に粗大運動 第7回 子どもの運動機能の発達と保健② 主に微細運動 第8回 子どもの生理機能の発達と保健 第9回 子どもの健康状態の把握と主な症状の特徴及び適切な対応について 第10回 子どもの主な疾病の特徴① 主に感染症 第11回 子どもの主な疾病の特徴② 主に先天性疾患 第12回 子どもの主な疾病の特徴③ 主に慢性疾患 第13回 疾病の予防—免疫と予防接種について 第14回 子どもの事故の特徴，発達との関連 第15回 まとめ・総論
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	課題レポートの評点，及びテストの評点により総合評価する。
	評価の方法	課題レポートの評点，及びテストの評点により総合評価する。
教科書	書籍名	新世紀の小児保健
	著者名	
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

子どもの保健 I B

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 子どもの保健 I B

科目責任者 野村 攝子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30012001

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義中心であるが、課題レポート、研究発表なども適宜取り入れる。子どもの保健 I Aの内容の修得後が望ましい。

学生の達成目標

1. 子どもの保健 I Aの内容をふまえた上で、さらなる理解と子どもの障害、特別支援教育、医療的ケアについて理解する。

授業内容	第1回	第1回	子どもの精神機能の発達と保健①	主に知能について
		第2回	子どもの精神機能の発達と保健②	主に情緒について
		第3回	子どもの心の健康とその課題①	主に児童虐待について
		第4回	子どもの心の健康とその課題②	主に児童虐待防止について
		第5回	子どもの心の健康とその課題③	主に心身症について
		第6回	子どもの生活環境と精神保健について	
		第7回	保育環境整備と保健	
		第8回	保育現場における衛生管理①	主に感染症
		第9回	保育現場における衛生管理②	その他
		第10回	保育現場における事故防止及び安全対策・危機管理	
		第11回	保育現場において必要な救急処置について	
		第12回	母子保健対策と保育	
		第13回	家庭・専門機関・地域との連携	
		第14回	職員間の連携と組織的取組	
		第15回	まとめ・総論	
予習・復習の内容	予習			
	復習			
	展開			
成績評価	評価の基準	課題レポートの評点，及びテストの評点により総合評価する。		
	評価の方法	課題レポートの評点，及びテストの評点により総合評価する。		
教科書	書籍名	新世紀の小児保健		
	著者名			
	出版社	日本小児医事出版社		
	価格			
	ISBN・ISSN			
推薦図書等	書籍名	特になし		
	著者名			
	出版社			
	価格			
	ISBN・ISSN			
参考URL				
備考				

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 子どもの保健Ⅱ

科目責任者 栗山 敦子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30012101

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義および実技演習

学生の達成目標

1. 保育現場，障害児指導現場などにおいて，保健衛生についての実践ができるように，具体的な知識や技能を習得する。
2. 小児の健康状態を把握するための観察のポイントと方法，小児の事故と安全，予防と健康増進，応急処置などの方法について，実習を通して学ぶ。

授業内容

- | | | |
|-----|------|-----------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 小児の身体的特徴，乳児の抱き方，寝かせ方，衣服の着脱 |
| | 第2回 | 身体発育の測定と評価およびその後の管理，肥満とやせ |
| | 第3回 | 環境管理（室温，湿度，季節の管理） |
| | 第4回 | 子供の栄養と食事（哺乳，離乳，食に関する諸問題） |
| | 第5回 | 睡眠と生活リズムの援助，おむつ交換，トイレトレーニング |
| | 第6回 | 身体の清潔（歯磨き，爪切り，耳掃除，沐浴） |
| | 第7回 | 健康観察(体温測定)，発熱時の対応と看護 |
| | 第8回 | 車いす |
| | 第9回 | 感染の予防（消毒法） |
| | 第10回 | 感染の予防（感染症発症後の対応と感染拡大の予防） |
| | 第11回 | 事故の防止と安全対策と応急処置 |
| | 第12回 | 事故の防止と安全対策と応急処置 |

第13回 アレルギー疾患の日常管理（アトピー性皮膚炎，気管支喘息，食物アレルギー） 第14回 慢性疾患をもつ子供の援助（川崎病，小児がん，腎臓疾患など） 第15回 まとめ		
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末試験（60点以上）で評価する。（ただし，授業態度が悪い場合は減点する場合がある。）
	評価の方法	期末試験（60点以上）で評価する。（ただし，授業態度が悪い場合は減点する場合がある。）
教科書	書籍名	保育保健の基礎知識
	著者名	巷野悟郎監修
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	日本保育園保健協議会編集
	著者名	
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	子育て支援における保健相談マニュアル 改訂版
	著者名	田中哲郎 監修
	出版社	日本小児医事出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	こどもの病気の地図帳
	著者名	鴨下重彦・柳澤正義 監修
	出版社	講談社
	価格	
	ISBN・ISSN	

書籍名	イラストによるおかあさんへの病気の説明と小児の診療 イラスト編
著者名	大塚親哉 編集
出版社	南山堂
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 子どもの食と栄養

科目責任者 大坂 裕子

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 30012301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

教科書を用いた講義や演習とデモンストレーションを含む調理実習を行う。（グループでの活動が多くなる。）

学生の達成目標

1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について調理実習や演習を通して深く理解する。
2. 現代の子どもを取り巻く環境について現状と課題を理解し、保育者や幼児教育に携わる者としてどう対処していくかを考える。
3. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。

授業内容

第1回	第1回～第2回	オリエンテーション, 子どもの健康な食生活の意義
	第3回～第4回	栄養に関する基礎知識
	第5回～第6回	乳児期の食生活（講義と調乳実習）
	第7回～第8回	離乳期の食生活（調理実習・・・離乳食1）
	第9回～第10回	離乳期の食生活（調理実習・・・離乳食2）
	第11回～第12回	幼児期の食生活
	第13回～第14回	幼児期の食生活（調理実習・・・お弁当）
	第15回～第16回	幼児期の食生活（調理実習・・・間食）
	第17回～第18回	幼児期の食生活（調理実習・・・行事食）
	第19回～第20回	児童福祉施設における食事と栄養（調理実

	習・・・保育所給食) 第21回～第22回 学童・思春期の食生活 第23回～第24回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（調理実習・・・アレルギー対応食） 第25回～第29回 食育の基本と内容（演習①～⑤） 第30回 まとめ	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	受講態度（出席状況・忘れ物）60% 課題取り組み状況（レポート，口頭発表，授業内小テスト等）40%
	評価の方法	レポートの未提出，締切に遅れた学生は成績評価しない。 調理実習の際には身支度が整っていない学生は授業への参加を認めない。（欠席扱い）
教科書	書籍名	最新子どもの食と栄養
	著者名	
	出版社	学建書院
	価格	2,520円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	授業内で紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。	

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家庭支援論

科目責任者 廣橋 比刀美

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30010801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義・課題レポートの提出。
子育てにおいて、家族はどうあるべきかを、現代社会の状況をふまえて、広い視野でみていく。

- 学生の達成目標**
1. 現代社会の家族の変化の中で「家族」はどうあるべきかを考え、子育てにおいて家族をとりまく社会的支援体制と家族生活（家族関係）からみた、私的支援の両面から子育て支援について理解し、考察する。
 2. そして、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援、援助ができることを目標とする。

授業内容

- 第1回 第1回 授業説明、注意など（何を学ぶか）
第2回 家族とは何か―家族の現在
第3回 家族の変化―機能・制度
第4回 家族の変化―法律
第5回～第6回 家族問題の現状―家族関係
第7回 家族問題の現状―離婚・ひとり親家庭
第8回～第9回 家族問題の現状―児童虐待
第10回～第12回 家族問題の現状―ドメスティックバイオレンス（DV）
第13回 家族問題への対策―公的支援・私的支援

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポート，期末試験，出席状況で総合的に評価
	評価の方法	レポート，期末試験，出席状況で総合的に評価
教科書	書籍名	家庭福祉論
	著者名	古川繁子・中川英子編著
	出版社	学文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	随時プリント（資料）を配布
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	新版データで読む家族問題
	著者名	湯沢やす彦・宮本みち子著
	出版社	NHKブックスなど
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

発達障害心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	発達障害心理学
科目責任者	佐藤 慎二
担当教員	漆澤 恭子 相磯 友子
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「気になる」子ども及び知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、言語障害、発達障害等のある子どもの心理学的な側面の理解と支援の実践について学ぶ。

学生の達成目標

1. ○各障害の特性と配慮の基本を理解する。
2. ○保育現場における実践的な支援の基本を理解する。

授業内容

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 ガイダンス・知的障害の子どもの基礎的理解と支援 |
| | 第2回 “気になる子”の保育 |
| | 第3回 “気になる保護者”の理解と支援 |
| | 第4回 自閉的傾向のある子どもの理解と支援 |
| | 第5回 外国人の子どもの基礎的理解と支援 |
| | 第6回 ADHDの基礎的理解と支援 |
| | 第7回 学習障害（LD）の基礎的理解と支援 |
| | 第8回 アスペルガー症候群・高機能自閉症等の基礎的理解と支援 |
| | 第9回 事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（1） |
| | 第10回 事例から考える発達障害の子どもたちの理解と支援（2） |
| | 第11回 聴覚障害・視覚障害の基礎的理解と支援 |
| | 第12回 肢体不自由・病弱の基礎的理解と支援 |
| | 第13回 言語障害・情緒障害・てんかん・ダウン症の基礎的理解と支援 |
| | 第14回 保育・教育現場での支援的対応の実践（1） |

第15回 保育・教育現場での支援的対応の実際（2）と全体のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度
	評価の方法	試験、レポート、授業への参加態度を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	授業の中で、随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

小児栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 小児栄養

科目責任者 台蔵 彩子

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30002201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とし講義内容を理解しているかどうか、授業内での小テストや質問をおこなう。

学生の達成目標

1. 小児の健康や健やかな成長、発育に必要な栄養について、乳幼児期から老年期までの特徴と重要性について栄養素や体の機能についての基礎を身につける事を目的とする。

授業内容

第1回 第1回 授業ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義
第2回～第5回 栄養に関する基礎知識
第6回～第9回 子どもの発育・発達と食生活
第10回～第12回 食育の基本と内容
第13回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
第14回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	定期試験
	評価の方法	定期試験
教科書	書籍名	最新子どもの食と栄養－食生活の基礎を築くために－
	著者名	編著：飯塚美和子，桜井幸子，瀬尾弘子，曾根眞理枝 著：五関正江，高橋恭子他
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	授業中に紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育課程論

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について習得する。保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に学ぶとともに、計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえる。

学生の達成目標

1. 保育・教育課程の概要を理解する
2. 保育・教育課程編成も基となる乳幼児の発達や園生活及び学びの特色を理解する
3. 保育・教育課程から指導計画の作成へのプロセスを習得する

授業内容

- | | | |
|-----|------|------------------------------|
| 第1回 | 第1回 | オリエンテーション 学習の計画と授業計画 |
| | 第2回 | なぜ保育に計画は必要か |
| | 第2回 | 保育課程・教育課程とは |
| | 第3回 | さまざまな保育・教育課程 |
| | 第4回 | 幼稚園の教育課程とは |
| | 第5回 | 保育所の保育課程とは |
| | 第6回 | 幼稚園・保育所の生活と幼児理解 |
| | 第7回 | 教育課程・保育課程、指導計画を考える上で共通に必要なこと |
| | 第8回 | 保育課程、指導計画を考える上で必要なこと |
| | 第9回 | 教育課程の編成から長期の指導計画へ |
| | 第10回 | 短期の指導計画の作成する |
| | 第11回 | 0歳児から2歳児の保育課程を編成から長期の指導計画へ |
| | 第12回 | 0歳児から2歳児の短期の指導計画を作成する |
| | 第13回 | 指導計画の実践 |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 授業に積極的に参加している
	評価の方法	レポート、試験、授業参加の姿勢から総合的に評価する
教科書	書籍名	教育課程・保育課程を学ぶ
	著者名	松村和子 近藤幹生 椛島香代
	出版社	ななみ書房
	価格	2000円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育をデザインする
	著者名	戸田雅美
	出版社	フレーベル館
	価格	1200円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容総論
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 これまで学習した5領域からなる保育内容を、総合的に捉える視点を養う。

- 学生の達成目標
1. 子どもたちを取り巻く現在の状況未を踏まえた上で、未来を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする。
 2. 自分たちの考えをわかりやすく発表する。
 3. 教育課程を編成し、指導計画を作成する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価についての理解
第2回～第5回 グループごとに、これからの時代を生きる子どもたちにふさわしい保育をデザインする
第6回～第7回 中間発表
第8回～第12回 デザインした保育を教育課程・指導計画に著す
第13回 幼稚園幼児指導要録の作成
第14回 発表
第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	・自分なりの理想の保育をデザインすることができる ・グループのメンバーと協力して、自分たちの考えをわかりやすく相手に伝えることができる ・デザインした保育を教育課程・指導計画に著すことができる
	評価の方法	授業への取り組みの様子、発表の内容と方法、作成された課題を総合的に評価する。
教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（健康）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

教科書に沿った講義を中心としながらも保育現場の VTRや DVDを活用し、具体的な事例を基に授業を展開していく。さらにグループディスカッションや学生による発表を行う。随時レポートの提出を求め、保育者としての視点を深めていく。

学生の達成目標

1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識や技術、判断力、そして、実践力を習得する。
2. 子どもの発達を健康の観点から捉え、子どもの理解を深めながら保育内容を理解し、展開していく力を高める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 領域「健康」のめざすもの
 - 第2回 幼児の健康
 - 第3回 幼児の発達理解
 - 第4回 幼児のあそびの発達と健康
 - 第5回 幼児の体格・運動能力の現状と問題
 - 第6回 幼児の生活スタイル
 - 第7回 幼児の健康と栄養
 - 第8回 幼児の体格・運動能力測定法と評価
 - 第9回 幼児の安全管理と安全教育
 - 第10回 保育の成果を公開する行事－運動会
 - 第11回 環境とかかわる中で運動あそびが育つ行事－園外保育
 - 第12回 小グループによる保育計画と指導案の作成（理論）
 - 第13回 小グループによる保育計画と指導案の作成・展開・反省
 - 第14回 保育評価
 - 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習姿勢（１０％）＋発表（２０％）＋試験（７０％）
教科書	書籍名	保育内容「健康」
	著者名	民秋言・穂丸武臣編
	出版社	北小路書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	事例で学ぶ保育内容領域「健康」
	著者名	無藤隆監修
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育内容演習（人間関係）
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	養護と教育に関わる保育の内容を、それぞれに関連性を持ちながら、総合的に展開していくための知識、技術、判断力を習得する。子どもの発達を「人間関係」という観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。
-----------	--

学生の達成目標	1. 領域「人間関係」においてはぐくむものを理解する
	2. 人とかかわりを捉える視点を習得する
	3. 人とかかわる力の発達について理解する

授業内容	第1回	第1回 遊びから考える保育内容（1） 第2回 遊びから考える保育内容（2） 第3回 領域「人間関係」とは 第4回 人とかかわる力の捉え方 第5回 「人間関係」にかかわる現代社会の状況 第6回 人とかかわる力の発達 第7回 乳児期の発達の姿 第8回 幼児期の発達の姿 第9回 保育の中での子どもの体験と学び 第10回 規範意識や道徳性の芽生え 第11回 園生活の発展―協同性の育ちに向かって 第12回 人とかかわる力を育てる保育者の役割と援助 第13回 人との関わりで気になる子どもへの援助 第14回 人とかかわる力を育てる大人の人間関係 第15回 まとめ
------	-----	---

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	目的にあったレポートを作成することができる 授業の内容を理解することができる 積極的に授業に参加している
	評価の方法	レポート、試験、授業参加の姿勢から総合的に評価する
教科書	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	シードブック保育内容 人間関係
	著者名	榎沢良彦 入江礼子
	出版社	建帛社
	価格	1 8 9 0 円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（環境）

科目責任者 丹野 口子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30012901

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

テキストに沿って講義を進め、さまざまな実習、体験、DVD、スライド等の視聴をしながら学びを深めたい。

学生の達成目標

1. 幼児がさまざまな環境とかがわって育つための理論と方法について学ぶ。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1回 | 第1回 保育の基本、保育内容とは |
| | 第2回 幼稚園教育要領、領域「環境」とは |
| | 第3回 子どもの発達の見方、捉え方 |
| | 第4回 生活のなかでの「環境とかがわる力」の発達 |
| | 第5回 遊びのなかでの「環境とかがわる力」の発達 |
| | 第6回 関係、保育環境のあり方と「環境とかがわる力の発達」 |
| | 第7回 身近な自然とどうかかわるか |
| | 第8回 文字や記号、数量や形とどうかかわるか |
| | 第9回 園内外の行事、環境とどうかかわるか |
| | 第10回 環境構成と領域「環境」 |
| | 第11回 保育者の役割と領域「環境」 |
| | 第12回 自分から自然に触れるようになるには |
| | 第13回 自然に触れる体験の意味と大切さ |
| | 第14回 動物とのかかわりについて、動物公園見学 |
| | 第15回 まとめ |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業の出席，レポートの提出，テストの成績を総合して評価する。
	評価の方法	授業の出席，レポートの提出，テストの成績を総合して評価する。
教科書	書籍名	最新保育講座 保育内容「環境」
	著者名	柴崎正行・若月芳浩
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（言葉）

科目責任者 栗原 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

体験的に子どもの言葉について理解をする。
実践的なスキルの習得を目指す。
講義・ディスカッション・発表等、参加型である。

学生の達成目標

1. 子どもの言葉の発達や特徴及び言葉を育てる保育者の援助について学ぶ。
2. 領域「言葉」の意義と内容を理解する。
3. 発達障害児の言葉のつまずきや援助の技法を学ぶ。

授業内容

- | | | |
|-----|------|-----------------------|
| 第1回 | 第1回 | 領域「言葉」を学ぶオリエンテーション |
| | 第2回 | ノンバーバルコミュニケーション |
| | 第3回 | 言葉の育つ道筋 |
| | 第4回 | ことばの前のことば（0歳～1歳） |
| | 第5回 | 言葉の育ち道筋（1歳～2歳） |
| | 第6回 | 言葉の育ち道筋（2歳～3歳） |
| | 第7回 | 言葉の育つ道筋（3歳～4歳） |
| | 第8回 | 言葉の育つ道筋（4歳～5歳） |
| | 第9回 | 発達障害児の言葉を育てる教材（絵本） |
| | 第10回 | 発達障害児の言葉を育てる教材（紙芝居） |
| | 第11回 | 発達障害児の言葉を育てる教材（言葉あそび） |

第12回 素話（テーマの探究）
第13回 素話（展開の技法）
第14回 素話（発表）
第15回 総括

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	言葉のなりたちや発達についての理解と援助技術を習得できている。
	評価の方法	感想などの提出物（40%）、授業態度（40%）、発表内容（20%） （ただしこの比率は若干変更する可能性もある）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	教科書は使用しない。随時資料を配布する。	
推薦図書等	書籍名	授業の中で伝える。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育内容演習（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育内容演習（表現）

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

領域「表現」のねらいや保育の内容について理解し、乳幼児の表現の捉え方や音楽的な発達について学ぶ。またいくつかの表現課題を行いながら、「遊びを通して行う保育」について考えたり、自己の感性に気づき、仲間と協力しあったり、認められながら育つ意欲や自己肯定感について体験的に学ぶ。

学生の達成目標

1. 領域「表現」を理解する。
2. 乳幼児の感性を刺激し、主体性を促す保育について学ぶ。
3. お互いの意見を尊重しながら考え合うことで、表現をより豊かにしながら、他者理解を深める。

授業内容

- 第1回 第1回 授業概要・目標・方針など。「表現」とは何か
第2回 領域「表現」のねらいと内容
第3回 乳幼児の発達と音楽や動きにおける表現について
第4回 動きを伴った遊び歌
（1）歌うことの意義・遊び歌の指導法
第5回 動きを伴った遊び歌
（2）発表・討議
第6回 表現を引き出す保育者の役割
第7回 環境や人との関わりと表現（素材と出あう）
第8回 感覚統合のためのリズム運動
第9回 わらべうたの保育的意義
第10回 主体的を促す保育者の役割
第11回 音楽と動き（リトミック）
第12回 楽器あそび（1）保育事例から考える
第13回 楽器あそび（2）楽器奏法・合奏曲の編曲

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	グループ課題発表・提出レポート・筆記試験で評価する。感想レポートでは、文章表現から課題に対する取り組み方や、授業への理解度をみる。
	評価の方法	グループ発表（30%）、レポート（30%）、筆記試験（30%）、授業への参加度（10%）
教科書	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	2,200+税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	子どもの表現活動と保育者の役割
	著者名	西村拓生・竹内史
	出版社	明治図書
	価格	
	ISBN・ISSN	139784189494003
	書籍名	事例で学ぶ保育内容 表現
	著者名	浜口 順子
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	動きの授業の際には、動ける服装で臨み、上靴を用意する。	
	子どもの新鮮な感覚をイメージしながら、積極的に授業に参加してほしい。	

乳児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 乳児保育

科目責任者 鈴木 のり子

授業形態 演習

開講時期 通期

登録コード・曜日・時限 30012401

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義，実技演習を中心とし進め，具体的事例や実例を通しより乳児保育についての理解を深め，専門職としての意識を高めるようにする。

学生の達成目標

1. 乳児が保健的で安全な環境の下，基本的欲求を満たし情緒の安定を基盤に主体的に生活し育っていくための援助のあり方（知識と技術），家庭との連携，子育て支援など保育現場の具体的事例を通して理解を深めるとともに実技の習得を図る。

授業内容

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション 乳児保育の意義 |
| | 第2回 保育の基本・乳児保育のあゆみ |
| | 第3回 乳児保育の制度と現状（乳児院・保育所・家庭的保育・その他） |
| | 第4回 乳児の発達と行動の理解（発達の道筋・愛着と自立・体の発達） |
| | 第5回 乳児の発達と行動の理解（探索・試行・言葉） |
| | 第6回 乳児の発達と行動の理解（友達への関心・個から集団） |
| | 第7回 乳児保育の特質 |
| | 第8回 乳児の生活と保育内容 |
| | 第9回 乳児の発達特徴と保育内容（6ヵ月未満） |
| | 第10回 乳児の発達特徴と保育内容（1歳3ヵ月未満） |
| | 第11回 乳児の発達特徴と保育内容（2歳未満） |
| | 第12回 乳児の発達特徴と保育内容（3歳未満） |

	第13回 乳児の発達特徴と保育内容（3歳前期） 第14回 前期のまとめ（1） 第15回 前期のまとめ（2） 第16回 生活と遊びの環境 第17回 遊びと環境（手遊び・ふれあい遊び） 第18回～第19回 遊びと環境（手作り遊具） 第20回 遊びと環境（絵本・紙芝居） 第21回 乳児の気になる行動とその理解 第22回 現場で気になったこと（グループ別研修） 第23回 現場で気になったこと（発表） 第24回 乳児保育の計画と記録（保育過程・指導計画） 第25回 乳児保育の計画と記録（記録と評価） 第26回 保育者のあり方（保育の専門性・チームワーク） 第27回 保育所と家庭・地域との連携 第28回 乳児保育の課題 第29回 後期のまとめ（1） 第30回 後期のまとめ（2）	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末試験，課題レポート，授業の参加態度を考慮して総合評価する。
	評価の方法	期末試験，課題レポート，授業の参加態度を考慮して総合評価する。
教科書	書籍名	新訂第3版「乳児の保育－0・1・2歳児の生活と保育内容－」
	著者名	千羽喜代子編著
	出版社	萌文書林
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説者
	著者名	
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

障害児保育 I（障害児の保育・教育法）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害児保育 I（障害児の保育・教育法）

科目責任者 高倉 誠一

担当教員 中坪 晃一
漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 課題に関する発表や討論等、授業参加の姿勢を重視する。

学生の達成目標

1. 指導案や個別支援計画などを作成、実際に模擬授業をすることにより、障害のある子どもの保育・教育を実践的に理解する。
2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や支援の方法、望ましい環境構成等について学ぶ。
3. 障害のある子どもの教育方法上の特色を理解し、望ましい教育方法について学び、考える。

授業内容

- 第1回
1. 障害のある子どもの理解と支援（第1回～第3回）
 - ・ 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等
 - ・ 知的障害児
 - ・ その他の発達障害－ADHD、LD、PDD等
 2. 障害のある子どもの保育と教育の実践（第4回～第8回）
 - ・ 個々の子どもの発達を促す生活や遊びの環境
 - ・ 子ども同士の関わりと育ちあい
 - ・ 幼児期の子どもと障害のある子どもの相違
 - ・ 障害のある子どもの保育・教育で大切にしたいこと
 - ・ 集団化と個別化
 - ・ 主体的に取り組む生活・活動づくり
 - ・ 「できる状況づくり」としての支援的対応
 3. 指導計画および指導案の計画と展開（第9回～第15回）

- ・ 障害のある子どもが在籍する幼稚園もしくは保育所を想定し、授業・活動の指導案を作成し、模擬授業を行う。
- ・ 模擬授業は、グループごとに行う。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況の他、模擬授業での指導案・発表姿勢等により総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況の他、模擬授業での指導案・発表姿勢等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜、プリント等を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害児保育Ⅱ（障害児保育・教育と福祉）

科目責任者 高倉 誠一

担当教員 相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害のある幼児・児童の福祉と教育について学習しながら、福祉と表裏一体の関係にある教育の社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。

学生の達成目標

1. 障害のある幼児・児童の福祉と教育について理解を深める。
2. 障害のある幼児・児童の教育における社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。

授業内容

第1回 第1回～第2回 障害児の教育と福祉
第3回～第5回 「施設から学校へ」の歴史的経緯と制度上の変遷
第6回～第7回 保育所・幼稚園・通園施設等・特別支援学校幼稚部の制度上の関係と社会的機能・役割
第8回～第9回 特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の社会的機能・役割
第10回 特殊教育から特別支援教育へ
第11回～第12回 障害児の教育と福祉を支える社会福祉制度
第13回～第14回 教育と福祉のノーマライゼーションとインクルージョン
第15回～第16回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準 小テスト、レポート・発表、期末テストの評点

評価の方法 小テスト、レポート・発表、期末テストの評点により総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

社会的養護内容 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 社会的養護内容 児童

科目責任者 水鳥川 洋子

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30011401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義では実際の体験に基づいた具体的支援の方法を提示していくとともに、学生自身が主体的に授業に参加する体験も取り入れる。

①児童福祉施設について種別ごとにグループに分かれて調べ、その内容を発表しあい、皆で共通理解する。

②実習で経験したことをもとにグループでの事例研究を行い、子ども理解の方法を学ぶとともに、子どもへの具体的な支援方法を検討する。

学生の達成目標

1. 現代の子どもを巡る社会的養護の現状と子どもの心の発達状況を理解し、児童福祉施設で暮らす子どもたちの養育について、基本的な事柄を理解するとともに具体的な援助の方法を学ぶ。
2. さらに、これからの保育士（保育所保育士も含む）の役割と専門性についての理解を深める。

授業内容

- | | | |
|-----|---------------|-----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション | 自分のストレンクスを知る |
| | 第2回 | 心の発達課題と現代の子どもたち |
| | 第3回 | 虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機 |
| | 第4回 | 乳児院の子どもたちの暮らしと支援 |
| | 第5回 | 児童養護施設・母子生活支援施設の子どもたちの暮らしと支援 |
| | 第6回 | 児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の子どもたちの暮らしと支援 |

第7回 障害児入所施設の子どもたちの暮らしと支援
第8回 里親家庭の暮らしと里親支援
第9回 実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討）
第10回 実習で出会った気になる子どもたち（グループ討議による事例検討と発表）
第11回 施設入所時の支援と自立支援計画
第12回 問題行動の理解と被虐待児への対応
第13回 子どもの自立への支援 リービングケアとアフターケア
第14回 家庭支援と家族再統合
第15回 授業のまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業の参加度とレポート，発表，テストの総合評価。
	評価の方法	授業の参加度とレポート，発表，テストの総合評価。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	検討中

推薦図書等	書籍名	授業中に紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	☐ 上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育相談支援とは何か、保育相談支援の意義と原則、ならびに保護者支援の基本を理解する。さらに、実際の保育場面を通して、相談支援の必要性や具体的な対応について実践的に学び、現場で生かせる力を身につける。

学生の達成目標

1. 保育相談支援の意義と原則について、保護者支援の基本を理解する
2. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する
3. 実際の場面を通して、具体的対応方法について実践的に学ぶ

授業内容

第1回	第1回 現代の子どもを取り巻く社会状況
	第2回 保育相談支援の意義と原則
	第3回 保育相談支援の基本理念① 子どもの最善の利益と福祉
	第4回 保育相談支援の基本理念② 保護者の養育力および子どもの力の向上のための支援
	第5回 保育相談支援の基本理念③ 信頼関係を基本とした対人援助の原則
	第6回 保育相談支援の方法① 保育と保護者支援
	第7回 保育相談支援の方法② 保護者支援の内容
	第8回 保育相談支援の方法③ 保育相談支援の方法と技術
	第9回 保育相談支援の展開① 出会いと語らい
	第10回 保育相談支援の展開② 保育相談支援の計画、記録 (1)
	第11回 保育相談支援の展開③ 保育相談支援の計画、記録 (2)
	第12回 保育相談支援の実際① 保育における苦情と対応

第13回 保育相談支援の実際② 特別な対応を要する家庭への対応
第14回 保育相談支援の実際③ 要保護児童の家庭への対応
第15回 保育相談支援の実際④ 障害のある子・気になる子の家庭への対応

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	出席（１５％）、レポート（８０％）、その他授業態度等（５％）
	評価の方法	演習科目のため試験はないが、授業の参加とその中で提示されるレポート提出が必須となる。

教科書

推薦図書等

参考URL

備考

レクリエーション理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 レクリエーション理論

科目責任者 中島 悠介

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30012201

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方, そのための指導理論, 組織論, 事業論などの学習を通じ, 指導者としての実践能力を高める。理論的学習が主となるので座学中心になるが, 学生の経験に照らして考えられるよう進め, 自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。

学生の達成目標

1. レクリエーションは, 全ての人々の人生を心身共に豊かに送るために不可欠な社会的重要な課題である。そこで本授業では, 福祉的・保育的な視点を持ちつつ, レクリエーションの理論的な側面について学習する。
2. レクリエーション・インストラクター資格取得のための理論科目である。

授業内容

第1回 【レクリエーションの基礎理論】
第1回 オリエンテーション, レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史①
第2回 レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②, これからのレクリエーション運動
第3回 レクリエーション支援の考え方
第4回 レクリエーション・インストラクターの役割
【レクリエーション支援論】
第5回 ライフスタイルとレクリエーション①
第6回 ライフスタイルとレクリエーション②

第7回 高齢社会の課題とレクリエーション
第8回 少子化の課題とレクリエーション
第9回 地域とレクリエーション
【レクリエーション事業論】
第10回 レクリエーション事業とは
第11回 事業の展開方法
第12回 事業計画Ⅰ
第13回 事業計画Ⅱ
第14回 レクリエーション活動の安全管理
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業を通じて課題やレポートの提出と定期試験を実施する。さらに、出席状況や学習態度・意欲を加味して総合評価する。
	評価の方法	授業を通じて課題やレポートの提出と定期試験を実施する。さらに、出席状況や学習態度・意欲を加味して総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特になし（必要に応じてプリントを配布する）	
推薦図書等	書籍名	レクリエーション支援の基礎
	著者名	日本レクリエーション協会
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

カウンセリングの基礎と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	カウンセリングの基礎と方法
科目責任者	田村 光子
担当教員	大木 みわ
授業形態	講義
開講時期	前期
登録コード・曜日・時限	30011701

教室

単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	体験を通して理解を深めるためグループを構成，互いにカウンセラー，クライアントを経験し合う。 積み重ねが重要なので，欠席せずに受講すること。
-----------	--

学生の達成目標	1. カウンセリングの基礎を体験的に学ぶ。 2. ピアサポートの理論と実践を体験を通して学ぶ。 3. 保育士に求められる相談支援にむけた応用を図る。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 オリエンテーション 授業内容，目的，進め方，評価についての理解 第2回 カウンセリングの基礎 第2回 (1) 出会い体験 第3回 (2) 自己理解・自己開示 第4回 (3) 基本姿勢，「聴く・話す」の体験 第5回 (4) シェアリング 第6回 ピアヘルピングの理論と実践 第6回 (1) ピアヘルピングとは 第7回 (2) ピアヘルピングの過程
------	--

第8回～第9回 （3）ピアヘルピングの技法
第10回 青年期の課題（学業問題）
第11回 青年期の課題（進路問題）
第12回 親支援の課題
第13回～第14回 振り返り
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	レポート，試験，授業態度を総合して評価する。
	評価の方法	レポート，試験，授業態度を総合して評価する。

教科書	書籍名	ピアヘルパー・ハンドブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会編
	出版社	図書文化社刊
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	なし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

障害児の生活

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害児の生活
科目責任者	高倉 誠一
担当教員	山本 邦晴 根本 曜子
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の各内容と、その内容の扱い方について学び、さらに、生活科との関連で児童期から卒業後までの望ましい生活のありようを考える。
-----------	---

学生の達成目標	1. 身近自立に関する支援について、学生自らテーマを定め発表する。 2. 小学校学習指導要領の生活科と特別支援学校小学部（知的障害）学習指導要領の生活科の共通点と違いについて理解する。
---------	---

授業内容	第1回	内容 第1回～第2回 生活と生活科。 第3回～第4回 小学校学習指導要領の生活科の内容と、その扱い方について。 第5回 特別支援学校（知的障害）の学習指導要領の生活科の内容と、その扱い方について。 第6回～第7回 小学校の生活科の現状と問題点について。 第8回～第10回 特別支援学校小学部の生活科教育の現状と問題点について。 第11回～第12回 望ましい生活・質の高い生活（QOL）ということについて。 第13回～第15回 幼児期から学童後までの各年齢段階における望ましい生活の条件について。
------	-----	--

方法内容 1 ～ 7 は高倉が、内容 8 ～ 15 は山本がそれぞれ担当する。学生の発表等では、両者が担当する。調査、発表、討論等を多くし、考える演習を目指す。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	出席状況、発表内容、討論等での授業参加の姿勢・意欲等を考慮して評価する。
	評価の方法	出席状況、発表内容、討論等での授業参加の姿勢・意欲等を考慮して評価する。

教科書	
-----	--

推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説 生活編
	著者名	文部科学省
	出版社	日本文教出版
	価格	101
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則等編
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473
	ISBN・ISSN	
	書籍名	遅れた子どもの指導 基本生活百科
	著者名	小出進・山口薫・宮崎直男 編
	出版社	教育出版
価格	101	
ISBN・ISSN	4410	
☐ 上記の図書等は市販されていません。		

参考URL

備考

保育の表現技術 I（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術 I（身体表現）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

実際に身体を動かすことや身体で表現することの楽しさを味わう。運動あそびを題材にし、理論を交えながら演習を進めていく。また授業における実技ノートを作成し、記録する重要性を認識していく。

学生の達成目標

1. 保育育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するに必要な知識や技術を習得する。
2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
4. 実際の保育場面での指導法を具体的に学ぶ。

授業内容

- 第1回
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 仲間づくりとその指導ポイントの確認
 - 第3回 集団あそび（ゲーム）と指導ポイントの確認
 - 第4回 からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ①（2人組）
 - 第5回 からだを使ったあそびと指導ポイントの確認 ②（グループ）
 - 第6回 フォーク・ダンスの基本用語と実践
 - 第7回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ①
 - 第8回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ②（2人組）
 - 第9回 リズムあそびと指導ポイントの確認 ③（3人組・グループ）
 - 第10回 用具（ボール）を使ったあそびと指導ポイントの確認

	第11回	用具（フープ）を使ったあそびと指導ポイントの確認
	第12回	身近なもの（タオル）を使ったあそびと指導ポイントの確認
	第13回	身近なもの（新聞紙）を使ったあそびと指導ポイントの確認
	第14回	小グループ活動による保育シミュレーションと反省
	第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や成果。
	評価の方法	実技試験（50%）・実技ノート（30%）・授業への参加度（20%）

教科書	書籍名	幼児体育 基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	幼児体育 理論と実践（初級）
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL
備考

保育の表現技術 I（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術 I（音楽表現）

科目責任者 黒田 静江

担当教員
石井 恵子
柴辻 純子
池田 仁美
石橋 葉子
木村 憲子
水村 明子
山中 和穂

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育の場で音楽は欠かせないものである。保育者として幼児の音楽表現活動を援助・指導するために必要な（１）音楽の基礎的な理論と、（２）器楽（ピアノ）演奏の技術を習得する。２グループに分け、45分ずつ音楽の基礎理論とピアノ実技を交互に行う。基礎的な理論については、子どもの歌を使ったり身体表現を交えながら学び、ピアノ実技は小グループで授業を行う。

学生の達成目標

1. 音楽の基礎的な理論やコードネームについて理解する。
2. 保育に必要な音楽技術（ピアノ実技）を身につける。
（詳細は初回オリエンテーション時に説明する）
3. 幼児の発達を踏まえながら、音楽表現活動（あそび歌）について学ぶ。

授業内容

第1回	【音楽の基礎的理論】	【ピアノ実技】（・印が実技）
第1回	授業概要・達成目標の心構え	・ピアノの基礎知識・弾く時の心構え
第2回	音名	・4分音符を中心とした曲
第3回	音符と休符の名称	・いろいろなリズムの曲

	第4回 拍子	・ 3/4 3/8 拍子の曲
	第5回 音階・調号	・ 6/8 2/2 拍子の曲
	第6回 音程	・ 八長調の音階・伴奏付け
	第7回 楽語・演奏順	・ ト長調の音階・伴奏付け
	第8回 コードの成り立ち	・ ト長調の曲
	第9回 コードネーム(1)ト長調の場合	・ ヘ長調の音階・伴奏付け
	第10回 コードネーム(2)ヘ長調の場合	・ ヘ長調の曲
	第11回 音楽理論等のまとめ	・ 二長調の音階・伴奏付け
	第12回 子どもの発達・音楽的な発達	・ 二長調の曲
	第13回 発達を考慮した音楽遊び	・ 変ロ長調の音階・伴奏付け
	第14回 課題曲発表準備 合同授業	
	第15回 まとめ 合同授業	

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	音楽の基礎的理論を理解する。ピアノ実技は各自のレベルに合わせた規定曲を終了させる。
	評価の方法	筆記試験(30%), 実技試験(40%), 授業への参加度 (30%)

教科書	書籍名	おとなのためのバイエル
	著者名	坂東 貴余子
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200+税
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	2,200+税
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	やさしい伴奏による子どもの歌
	著者名	東 保
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,400
	ISBN・ISSN	

書籍名	子どものうた 大百科
著者名	松山 祐士
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅰ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅰ（造形表現）

科目責任者 吉野 泰男

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 授業は実技が中心となり、それに関する理論を加える。

学生の達成目標 1. 自己の感動や想像に基づく表現意図を、絵画、彫刻、デザイン、工芸などの造形的な表現活動を通じて創造的に表現する基礎技能を学びながら、指導法を習得する。

授業内容 第1回 オリエンテーション
第2回～第12回 色彩構成と材料演習を軸に、さまざまな技法を学びながら作品を制作し、指導法も学習する。
第13回～第14回 共同制作
第15回 作品の合評と反省

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	提出作品により行なう。
	評価の方法	提出作品により行なう。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	授業に合わせて、資料等配布する。	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育の表現技術（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術（言語表現）

科目責任者 鈴木 朱美

担当教員 植草 一世

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30013401

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするために必要な知識や技術を習得し、活用する。
2. 言語表現の表現活動に関する知識や技術を習得し、活用する。
3. 表現活動に関わる教材（絵本、素身芝居、人形劇、ストーリーテリング等）の活用および作成と、環境構成および具体的展開のための技術を習得する。

学生の達成目標

1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するためのに必要な言語表現に関する技術を習得する。
2. 言語表現活動にかかる教材等の活用および作成と、保育の表現構成および具体的展開のための技術を習得する。

授業内容

- 第1回 第1回 本科目の目標、授業の概要。受講者の心得。授業形態と実技演習予定。
- 第2回 子どもの日常と表現 他
- 第3回 描いたもの、作ったもので遊ぶ。お面づくり「大きなかぶ」
- 第4回 絵本、紙芝居等の扱い方：絵本、紙芝居をみんなの前で読んでみる。
- 第5回 手遊び：パネルシアター

第6回 パネルシアターを作る。
第7回 パネルシアターを演じてみる。
第8回 保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方
第9回 保育教材：うた遊び，ペープ・サート，エプロンシアター，指人形の実演・演じ方
第10回 教材研究：①どんなお話 役決め 舞台構成等
第11回 教材研究：②人形作り 背景作り
第12回 教材研究：③人形作り 背景作り
第13回 教材研究：発表
第14回 教材研究：発表
第15回 相互評価 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果。
	評価の方法	レポート（30%），発表（30%），作品（30%），授業への参加度（10%）

教科書	書籍名	保育の内容の研究 造形活動と遊び
	著者名	植草一世
	出版社	大楊社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	遊びの指導
	著者名	財団法人幼少年教育研究所
	出版社	同文書院
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	保育雑誌『POT』
	著者名	
	出版社	(株)チャイルド本社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	実習に役立つパネルシアターハンドブック
	著者名	

出版社

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

保育の表現技術 II（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術 II（身体表現）

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

身体表現を通して、他者と関わる楽しさを知る。具体的な運動あそびを題材にして創作活動を行う。実際に指導計画を作成した上で模擬保育を実践し、他者からの評価を加え振り返りを行う。

学生の達成目標

1. 保育育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するに必要な知識や技術を習得する。
2. 身体表現に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
4. 実際に指導計画を立案し、模擬保育法の実践を通して具体的に学んでいく。

授業内容

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション |
| | 第2回 パラバルーンと指導ポイントの確認 |
| | 第3回 模倣体操と指導ポイントの確認 ① |
| | 第4回 模倣体操と指導ポイントの確認 ② |
| | 第5回 ボールを使ったあそびと指導の確認 ① |
| | 第6回 ボールを使ったあそびと指導の確認 ② |
| | 第7回 マラカスをを使ったあそびと指導ポイントの確認 ① |
| | 第8回 マラカスをを使ったあそびと指導ポイントの確認 ② |
| | 第9回 縄を使ったあそびと指導ポイントの確認 ① |
| | 第10回 縄を使ったあそびと指導ポイントの確認 ② |
| | 第11回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省） ① |

第12回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）②
第13回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）③
第14回 創作発表（小グループ活動による保育シミュレーションと反省）④
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業目標についての理解と取り組みの姿勢や発表の成果。
	評価の方法	実技試験（50%）・実技ノート（30%）・発表(10%) 授業への参加度（10%）

教科書	書籍名	幼児体育 基礎理論と指導の方法
	著者名	前橋明編者
	出版社	樹村房
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	幼児体育 理論と実践
	著者名	日本幼児体育学会編
	出版社	大学教育出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

科目責任者 石井 恵子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013601

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

人前で臆せず範唱できるための歌唱テクニックや気構えを、実際の声楽曲演奏を通して学ぶ。正しい姿勢、正しい音程を常に注意し、豊かな声量をめざす。何より独唱、合唱の楽しさに触れたい。

学生の達成目標

1. 生涯を通じてもっとも音感が鋭敏な幼児期の音楽教育は、大変重要である。その指導に歌唱の役割は大きい。
2. 子供達が初めて体験する歌が楽しく、正しく、豊かなものであるよう、指導者は自らの歌唱技術を磨かねばならない。
3. 自然な発声、読譜力を習得し、子供の歌のレパートリー増大を計り、その指導法を習得する。又、自然や物の音や音色に親しむ保育活動について考察する。

授業内容

第1回 第1回～第4回 発声練習（毎回）
①学生本来の年齢で歌っておきたい独唱曲、合唱曲。（愛唱歌、秋の歌）
②ソルフエージュでは、リズム打ちの訓練により、読譜力を向上させる。
第5回 リズムテスト／移調譜作成
第6回～第7回
③保育のレパートリーとして各月の曲や、生活の歌を数多く学び、

	その指導法を習得する。（冬の歌） ④ソルフェージュでは、音名唱（コールユーブンゲン）の訓練により、読譜力を向上させる。 第8回 歌唱テスト 第9回～第10回 ③④を継続（春の歌） ⑤「身近な音」の採集 第11回 コールユーブンゲンテスト／移調譜作成 第12回～第13回 ③継続（夏の歌） 第14回～第15回 歌唱テスト	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	ソルフェージュ，歌唱テスト，移調課題，出席点
	評価の方法	ソルフェージュ，歌唱テスト，移調課題，出席点
教科書	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	神原雅之他
	出版社	教育芸術社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考	「年間授業計画」は、全15回を通し学習を進める。	

保育の表現技術Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅱ（造形表現）

科目責任者 吉野 泰男

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30013701

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 個々の制作技能の向上を図るとともに、保育の場での実用性を重視する。

学生の達成目標

1. 保育における造形教材を自ら研究・探求し、開発・制作した後、実演する。
2. また、自分の特性に応じた造形表現を自ら探求し研究作品を制作・発表する

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション
第2回 自己課題の設定、プロット提出
第3回 表現方法、材料、用具、制作過程の決定
第4回 アイディアスケッチ、寸法どり等
第5回～第9回 制作
第10回 進行状況の確認
第11回～第13回 制作
第14回 作品提出、発表
第15回 作品返却と鑑賞

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	提出作品，発表により行う。教材開発ではオリジナル性を重視し，制作の計画性や作品発表でのプレゼンテーション能力を考慮する。
評価の方法	提出作品，発表により行う。教材開発ではオリジナル性を重視し，制作の計画性や作品発表でのプレゼンテーション能力を考慮する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
授業に合わせて、資料等配布する。

推薦図書等

書籍名	特になし
著者名	
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育の表現技術 Ⅲ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術 Ⅲ（音楽表現）

科目責任者 黒田 静江

担当教員
柴辻 純子
池田 仁美
石橋 葉子
額田 優美
水村 明子
山中 和穂

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

前期「保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）」での学習をさらに深めて、音楽に関する保育に必要な知識やピアノ演奏技術を向上させる。小グループまたはその中で個人指導を行う。伴奏を弾く側と歌う子どもの側との両方に意識が持てるようにする。歌いたい気持ちを盛り上げるような導入や教材などを準備し、伴奏と共に発表しあう。

学生の達成目標

1. 弾き歌いに慣れる。（詳細は初回オリエンテーション時に説明する）
2. 簡単なコードネームを理解し、伴奏が弾けるようになる。
3. 幼児の音楽活動方法について考え、伴奏と共に発表する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション 授業概要・到達目標・伴奏を弾く時気を付けたいこと
- 第2回 必修曲と季節の歌（1）春
- 第3回 保育教材を活用した音楽表現活動について
- 第4回 必修曲と季節の歌（2）夏
- 第5回 必修曲と季節の歌（3）秋・冬
- 第6回 中間試験（保育教材を活用した音楽活動）
- 第7回 コードネームで表された歌の伴奏（1）
- 第8回 コードネームで表された歌の伴奏（2）

		第9回～第10回 「子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動」について 第11回 「子どもの歌を使ったさまざまな音楽活動」の発表 第12回 課題曲について 第13回 発表 第14回 実習準備のための曲 第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	保育現場を想定し、子ども歌の弾き歌いができる。期末試験・中間試験・授業への参加度で評価する。
	評価の方法	期末試験（40％） 中間試験（30％） 授業への参加態度（30％）
教科書	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	
	出版社	音楽芸術社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	おとなのためのバイエル
	著者名	坂東 貴余子
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考	毎回曲が仕上がるように、日々練習する。	

保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育の表現技術Ⅳ（音楽表現）

科目責任者 黒田 静江

担当教員
石井 恵子
柴辻 純子
石橋 葉子
木村 憲子
額田 優美
水村 明子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（音楽表現）で習得した技能を、小グループの個人レッスンの中で更に高めながら、子どもの歌とその伴奏法やアレンジの仕方を学ぶ。保育現場を想定したいくつかの課題を発表したり検討し、保育実践力を養う。また生活の中から生まれる歌も保育をする時は大切なので、音楽づくり（創作）を体験し、保育シミュレーションとして発表する。

学生の達成目標

1. 伴奏のアレンジ方法を活用し、弾き歌いのレパートリーを増やす。
2. 保育を想定しさまざまな音楽活動を発表し、実践力を養う。
3. 与えられたメロディーを発展させて音楽を創作し、保育シミュレーションの形で発表する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 進度に合わせた授業計画を各自で作成
第2回 伴奏のアレンジについて
(1)コードネームの確認・ハ長調の曲
第3回 伴奏のアレンジについて
(2)ト・ヘ・ニ 各長調の曲
第4回～第5回 動きをイメージした音楽

		第6回 「子育て支援」における音楽活動 第7回 「幼児のさまざまな音楽表現活動」を考える 第8回 「幼児のさまざまな音楽表現活動」の発表 第9回 課題曲の説明 第10回 発表と振り返り 第11回～第13回 音楽表現課題「音楽の創作と保育実技」 第14回～第15回 課題発表・まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	弾き歌いを7曲以上仕上げる。保育を想定した課題では、音楽の楽しさを自分自身が感じ、子どもに伝えられること。授業への参加度・ピアノ実技試験・期末試験で評価する。
	評価の方法	ピアノ実技試験（40％）、授業への参加態度（30％）、期末試験（30％）
教科書	書籍名	幼児のための音楽教育
	著者名	
	出版社	音楽芸術社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	幼児の表現をはぐくむ歌
	著者名	黒田 静江
	出版社	音楽教育研究協会
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	おとなのためのバイエル
	著者名	坂東 貴余子
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	音楽指導ブック 子どものためのたのしい音遊び
	著者名	柴田 礼子
	出版社	音楽之友社

価格

ISBN · ISSN

書籍名

子どもの歌から広がる音楽表現

著者名

伊藤 嘉子

出版社

共同音楽出版

価格

ISBN · ISSN

参考URL

備考

日頃の練習を大切にし、技術が向上するよう努力する。

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤 恭子
担当教員	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校学習指導要領解説書などを参考に、特別支援教育の在り方を考える。 2. 講義を中心とするが、調査・発表・討論も取り入れる。
-----------	--

学生の達成目標	1. 特別支援教育に至る背景や関係法などを理解することができる 2. 特別支援教育の意義やその方法を理解することができる 3. 教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる
---------	--

授業内容	第1回	第1回～第5回 特別支援教育の意義 ①能力に応じる教育からニーズに応じる教育 ②インクルージョン教育への道程 …ノーマライゼーション、メインストリーミング、インテグレーション ③特別な教育的ニーズの理解 ④特別支援教育の対象と関連教育法規の確認 ⑤個別の教育支援計画の意義と実際 第6回～第10回 特別支援教育の方法Ⅰ ①特別支援学校の目的・機能・その実際 ②特別支援学級の目的・機能・その実際 ③通級指導教室の目的・機能・その実際 第11回～第15回 特別支援教育の方法Ⅱ ①通常の学校における特別支援教育 ②特別支援教育コーディネーターと校内支援体制の構築
------	-----	--

③巡回指導他の様々な校外リソースとのコラボレーションの実
際

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度 小テスト 定期テストから総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回資料を配付する。参考書を手元に置くことが望ましい。	
推薦図書等	書籍名	LD ADHD等関連用語集 第2版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1190円
	ISBN・ISSN	ISBN4-8210-7333-1
参考URL		
備考		

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

知的障害のある子どもの心理や発達の特徴と生理・病理について学び、知的障害のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害のある子どもの心理・生理・病理について理解を深める。
2. 知的障害のある子どもに関する最新の研究知見を知る。
3. 具体的な事象や事例から、知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。

授業内容

第1回	第 1 回	知的障害の生理・病理 担当：高野
		① 遺伝子の異常
		② 染色体の異常
		③ 胎生期、周産期の異常
		④ てんかん
		⑤ 障害の発見と対応
	第 2 回～第 4 回	知的障害観の変遷と知的障害の定義 担当：相磯
		① 知的障害観の変化
		② 知的障害の定義－WHOなど
		③ 知能と知能検査
	第 5 回～第 8 回	知的障害のある子どもの心理 担当：相磯
		① 知的機能の発達の特徴
		② 社会性の発達の特徴
		③ 知的障害のある子どもの事例検討

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書出版KK
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4761603038
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について学び、肢体不自由のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。
-----------	---

学生の達成目標	1. 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について理解を深める。 2. 肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようになる。
---------	--

授業内容	第1回	第 1 回	肢体不自由の生理・病理 担当：高野
		由	① 脳損傷性肢体不自由と非脳損傷性肢体不自由
			② 脳性まひ、二分脊椎
			③ 重複障害
		第 2 回～第 5 回	肢体不自由の子どもの心理 担当：相磯
			① 肢体不自由の定義
			② 肢体不自由と認知の障害
			③ 肢体不自由と言語の障害
			④ 肢体不自由の子どもの事例検討
		第 6 回～第 8 回	肢体不自由の子どもの障害受容 担当：相磯
			① 障害受容とは
			② 事例検討

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書出版KK
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4761603038
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	病弱の子どもの心理・生理・病理について学び、病弱の子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。
-----------	---

学生の達成目標	1. 病弱の子どもの心理・生理・病理について理解を深める。 2. 病弱の子どもに関する最新の研究知見を知る。 3. 具体的な事象や事例から、病弱の子どもの行動背景を考えられるようになる。
---------	---

授業内容	第1回	第 1 回	「病弱」の生理・病理 担当：高野 ① 「病弱」の起因と疾患 ② 小児気管支喘息 ③ 筋ジストロフィー ④ ネフローゼ ⑤ 自律神経失調症 ⑥ 小児慢性特定疾患等 ⑦ 重度重複障害
		第 2 回～第 3 回	「病弱」の教育上の定義 担当：相磯 ① 教育上の定義 ② 病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向
		第 4 回～第 8 回	病弱の子どもの心理 担当：相磯 ① 疾病進行への不安と恐怖 ② 行動制限によるストレス ③ 親子関係への影響

- ④ 適応機制
- ⑤ 慢性疾患の子どもの事例

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書出版KK
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4761603038
推薦図書等		
参考URL		
備考		

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育 I

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、幼稚園免許状等取得のための特別支援学校での実習経験等を踏まえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深めるようにする。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成等について学び、知的障害教育のあり方や進め方について理解を深める。

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---------------------------|
| 第1回 | 第 1 回 | 知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成 |
| | | 知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順 |
| | 第 2 回 | 知的障害教育の教育課程の特色 |
| | | 知的障害特別支援学級のエデュケーション |
| | 第 3 回 | 知的障害教育における教科の指導 |
| | 第 4 回 | 知的障害教育と自立活動 |
| | 第 5 回 | 知的障害教育と特別活動 |
| | 第 6 回 | 知的障害教育と「総合的な学習の時間」 |
| | 第 7 回 | 個別の教育支援計画と個別の指導計画 |
| | 第 8 回 | 知的障害特別支援学校の望ましい教育課程編成 |

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	出席状況、授業参加の姿勢等を考慮し、毎回の授業で行う小テストや期末テストの評点を基に、総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業参加の姿勢等を考慮し、毎回の授業で行う小テストや期末テストの評点を基に、総合的に評価する。
教科書	書籍名	知的障害教育・基礎知識 Q&A
	著者名	千葉大学教育学部附属特別支援学校
	出版社	K&H
	価格	1800
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	462
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	生活中心教育の理念と方法
	著者名	小出進
	出版社	K&H
	価格	1995
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

知的障害教育 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育 II

科目責任者 山本 邦晴

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、実習経験や参観を踏まえ、協議・発表も取り入れる。DVD等も多く活用し、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の指導法の特色について学び、知的障害教育の在り方や進め方などに理解を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 知的障害とは何か？改めて、考える！
 - 第2回 「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方
 - 第3回 生活単元学習の計画と指導の実際（1）
 - 第4回 生活単元学習の計画と指導の実際（2）
 - 第5回 遊びの指導の計画と指導の実際
 - 第6回 作業学習の計画と指導の実際
 - 第7回 日常生活の指導の計画と指導の実際
 - 第8回 進路指導・キャリア教育と卒業後の課題

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q & A」
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
	出版社	K & H
	価格	1.800円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由教育 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 肢体不自由教育 児童

科目責任者 小久保 元

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児からの視点で教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知り、教育内容・指導方法について学び、基礎的な理解力を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 肢体不自由の子どもについて考える
第2回 子ども観・指導観・教育観
第3回 子どもの自立と学力
第4回 子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割
第5回～第6回 子どもの自立と個別の指導計画の作成・活用・見通しの実際
第7回 肢体不自由児の教育課程と学習指導要領の関係
第8回 学習活動（教科）
第9回 学習活動（総合的な学習）
第10回 学習活動（自立活動・個の成長）
第11回 学習活動（自立活動・コミュニケーション）
第12回 コミュニケーション支援の具体的な方法
第13回～第14回 医療的ケア（課題・実践・教育）
第15回 訪問教育

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，レポートの内容，授業への姿勢等を考慮し，総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況，レポートの内容，授業への姿勢等を考慮し，総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を毎回配布する。	
推薦図書等	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会編著
	出版社	ジアーズ教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

病弱教育 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 病弱教育 児童

科目責任者 昆 俊雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。

学生の達成目標

1. 病弱教育の歴史や意義,病弱の子どもの心理特性,医療と教育・学校との関係,病弱教育の現代的課題等,概観しながら教育内容・指導法等について学び,基礎的理解を深める。

授業内容

- 第1回
- 第1回 病弱教育の歴史
第2回 病気治療における教育の役割
第3回 病気の子の理解・子どもの病気と心のケア
第4回 病弱の特別支援学校における教育の実際
喘息,慢性疾患,肥満,小児ガン,心身症,心臓疾患,
重症心身障害,腎疾患,筋ジス等の筋疾患,等の教育
第5回 院内学級,特別支援教室等の教育の実際
第6回 病弱教育の教育課程
第7回 医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携
第8回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	試験, レポート等で総合的に評価
評価の方法	試験, レポート等で総合的に評価

教科書

書籍名	病気の子どものガイドブック
著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会 編著
出版社	ジアース教育新社
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	他（資料等）
著者名	
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	「病弱教育Q&A」PART V （病弱教育の視点からの医学事典）
著者名	西間三馨・横田雅史
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

視覚・聴覚障害教育総論 児童（伊藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論 児童（伊藤）

科目責任者 伊藤 和男

担当教員 根本 匡文

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

視覚障害教育総論（伊藤 和男）

授業のねらい・概要

見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。

学生の達成目標

1. 視覚障害教育を概括的に学習し、視覚障害児の特性と指導法を理解する。
2. また、特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 第 1 回 | 【視覚障害教育の概要】
視覚機構と視覚障害
視機能の検査（教育的評価）
視覚障害児童生徒の実態と教育の場 |
| | 第 2 回 | 【教育課程と指導法】
教育課程・指導計画の作成
盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮 |

		視覚障害児のための教材・教具（教科書）
	第3回	【自立活動の基本と指導】 視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 特設時間における指導の進め方と指導内容
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害児の援助
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席の状況や授業態度，レポート等を勘案して評価する。
	評価の方法	出席の状況や授業態度，レポート等を勘案して評価する。
教科書	書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
	著者名	香川邦生 編著
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	
	ISBN・ISSN	
教科書	書籍名	その他必要に応じてプリント配布
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

	書籍名	全盲校長からの手紙
	著者名	伊藤和男
	出版社	(株) 大活字
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	視力0.06の世界
著者名	小林一弘
出版社	ジアース教育新社
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

視覚・聴覚障害教育総論 児童（根本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論 児童（根本）

科目責任者 伊藤 和男

担当教員 根本 匡文

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

聴覚障害教育総論（根本 匡文）

授業のねらい・概要

授業は講義形式で進めるが、教育と支援の状況を具体的に理解してもらうために、多くの映像教材を用意する。受講者に発言を求め、対話や討論をする機会を適宜設定するので、積極的に授業に参加してほしい。

学生の達成目標

1. 聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として、聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 第 1 回 | 【生理・病理・心理面からの聴覚障害の理解】
聴覚器官の構造
聴覚障害の原因
聴覚障害の分類
聴力レベルとオーディオグラム
聴覚補償の方法
活動の制限、参加の制約の状況 |
| | 第 2 回 | 【聴覚障害幼児・児童・生徒のコミュニケーションの方法】 |

		言語の構成要素 聴覚障害者の言語 手話の種類と特徴 指文字 聴覚口話法 トータルコミュニケーション バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ
	第3回	【聴覚障害者を対象とする特別支援学校における教育】 わが国の聾学校の概況 就学前指導・乳幼児教育相談における支援 幼稚部の教育内容と方法 小学部の教育内容と方法 中学部の教育内容と方法 高等部の教育内容と方法
	第4回	【聾重複障害児童生徒の教育，通常の学校で学ぶ聴覚障害児童生徒の支援】 聾知的障害児童生徒の教育 盲聾児童生徒の教育 聾重複障害者における言語の役割 難聴学級，通級指導教室における支援 通常の学級における支援 難聴児童生徒への対応の実例
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポート，受講態度などによって総合的に評価する。
	評価の方法	レポート，受講態度などによって総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜プリントを配布する。	
推薦図書等	書籍名	改定版聴覚障害教育の基本と実例
	著者名	中野善達・根本匡文編
	出版社	田研出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、幼稚園教諭免許状取得のための特別支援学校での実習経験や参観をふまえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして理解を深める。
-----------	---

学生の達成目標	1. LD、ADHD、広汎性発達障害などの障害特性について基本的な理解を図る 2. 重複障害について基本的な理解を図る 3. 望ましい教育的支援の方々について学ぶ
---------	---

授業内容	第1回 第1回 発達障害の理解 第2回 学習障害の基本的理解 第3回 学習障害の教育的支援 第4回 ADHDの基本的理解 第5回 ADHDの教育的支援 第6回 自閉症を中心とする広汎性発達障害の理解と支援 第7回 重複障害の理解と教育的支援の方法（特別支援学校での教育実践を中心に） 第8回 学習のまとめ
------	---

予習	予習
予習・復習の内容	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度 提出物 定期試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	軽度発達障害の教育 上野一彦他編 日本文化科学社	
	書籍名	LD ADHD等関連用語集
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1190円
	ISBN・ISSN	isbn4-8210-7333-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

言語障害教育総論 児童

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 言語障害教育総論 児童

科目責任者 堀 彰人

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006501

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。

学生の達成目標

1. 構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。
2. 子どもの言語障害に関する指導について,事例を通して学ぶ。
3. 学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。

授業内容

- 第1回 第1回 言語障害の概要,指導の場や指導方法等の概略について学習する。
- 第2回 言語発達の基礎について学習する。
- 第3回 言語発達の遅れ,言語性学習障害等に関するアセスメント,指導(AACを含む)について学習する。
- 第4回 構音障害の基礎について学習する。
- 第5回 構音障害に関するアセスメント,指導について学習する。
- 第6回 吃音の基礎について学習する。
- 第7回 吃音に関するアセスメント,指導について学習する。
- 第8回 まとめ

予習・復習の内容

予習

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	1．レポートの提出， 2． 期末テスト， 3． 学習参加態度
	評価の方法	1． レポートの提出， 2． 期末テスト， 3． 学習参加態度
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等	書籍名	子供がどもっていると感じたら
	著者名	廣瀨・堀
	出版社	大月書店他
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	随時紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 特別支援教育実習

科目責任者 高倉 誠一

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
漆澤 恭子
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援学校での教育実習を通して、特別支援学校の教員としての資質・能力を高める。

学生の達成目標

1. 特別支援教育で求められる専門的な知識・技能を身につける。
2. 子どもへの適切な指導・支援を学び実践する。
3. 教員の職務とその使命を理解する。

授業内容

第1回 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、次の内容を学ぶ。

1. 特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。
 - ・一日、一週間、一年間の生活の流れ
 - ・教育課程の概要 など
2. 指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。
 - ・各授業の年間計画や単元計画の実際

- ・指導計画や支援（指導）案の作成
 - ・授業計画の実際 など
3. 障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。
- ・子ども個々の様子の把握の仕方
 - ・個別の指導（支援）計画
 - ・支援の実際－「できる状況づくり」の工夫
 - ・授業中の声かけや手助け など
4. 教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解
- ・望ましい教師の姿
 - ・教材準備や学級便り作成等、教師の仕事の実際 など

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
	評価の方法	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	高倉 誠一
授業形態	実習
開講時期	通期
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。 2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。 3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について学ぶ。
-----------	---

学生の達成目標	1. 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、特別支援学校教育従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける。
---------	--

授業内容	第1回	1. 事前指導 ・実習の意義と目的 ・特別支援学校の概要の理解 ・児童・生徒への支援的対応について ・実習における態度 ・実習における自己目標の設定 ・実習にあたっての手続き ・指導案の書き方 ・実習日誌の意義と記入の仕方 ・実習先でのオリエンテーション 2. 特別支援学校での実習 3. 事後指導 ・実習日誌の整理 ・実習の自己評価 ・意見交換と反省・まとめ ・実習校との手続き（礼状、日誌の受け取り等）
------	-----	--

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	出席状況の他、レポート等課題の提出状況を総合して評価する。
	評価の方法	出席状況の他、レポート等課題の提出状況を総合して評価する。

教科書	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	462
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473
	ISBN・ISSN	
	書籍名	支援案の書き方 個別の支援計画
	著者名	太田俊己監修 千葉大学教育学部附属養護学校著
	出版社	K&H
	価格	1995
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	感じ合い 分かり合い 支え合い
	著者名	小出進
	出版社	
	価格	1000
	ISBN・ISSN	
	☐ 上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

ボランティア体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 ボランティア体験実習

科目責任者 田村 光子

授業形態 実習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼児教育、保育、障害児者福祉関係のボランティア活動に参加し、現場での子どもたちとの実際的な関わりやコミュニケーションをはかることにより、専門職として働くことの意義を知り、自己を見つめなおし、2年次の本格的な実習への目的意識を高める。

学生の達成目標

1. 幼児教育、保育、障害児者福祉の各領域・分野から各自の興味に合わせた活動を選択し、現場の活動に参加する。現場での関わりを通して、具体的・実際的な支援の必要性を知る。
2. 体験の導入と振り返りの指導により、人間関係力・社会関係力を身につけ、よりよい職業選択につなげる。

授業内容

第1回

1. ボランティア・進路ガイダンス
履修の心得、ボランティア活動参加における心構えについてのオリエンテーション
2. ボランティアコーディネーターによる面接指導
各領域別にボランティアコーディネーターによる面接指導
活動参加への迷いや不安の相談、よりよい職業選択につながる活動選択について指導を行う
3. 領域・分野別活動参加
次の領域・分野のうち1つあるいは複数を選択し、活動参加する。活動参加時間は通算5日以上（40時間以上）を必要とする。実習や他の授業、その他資格取得等での実習、講座としての参加については時間数として認めない。
 - (1) 「幼児教育・保育」に関する活動体験
幼稚園、保育園でのボランティア参加

子育て支援センターや子育てリラックス館におけるボランティア参加

その他幼児教育・保育の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加

(2) 「障害児教育・福祉」に関する活動体験

障害児入所施設における施設ボランティア参加

障害児地域生活支援団体における外出支援ボランティア参加

特別支援学校における行事参加ボランティア参加

その他、障害児教育、障害児福祉の現場とみとめられる諸活動・実践へのボランティア参加

(3) その他、地域における教育、福祉に関する活動体験

上記の(1)、(2)の領域に関連するボランティア依頼のあった団体への活動参加

※担当教員、コーディネーターにより適当と認められたもののみ時間数とする

4. ボランティア講演会への参加

ボランティア活動について、また地域子育て支援に関する講師を招いて講演会を実施する。

学生は講演会に参加し、感想シート（800字程度）を作成する。

5. 活動参加記録シート、まとめレポート（1000字以上、領域が異なる場合は領域別に500字以上）を作成する。記録シート、講演会感想シート、まとめレポートをあわせて表紙（「ボランティア参加記録レポート」・番号・氏名を記名）をつけて提出。

	予習	
予習・復習の内容	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	ボランティア活動への参加とレポート作成（８０％） 授業および講演会への参加状況（１５％） その他（５％）
	評価の方法	規定時間における活動参加に加え、ガイダンス、講演会への参加を基本とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	活動計画や参加記録、また講演会の感想等のシートは配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習 I（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習 I（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員
中坪 晃一
佐藤 愼二
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・学内での事前・事後指導を必ず受けて実習に出る。
- ・実習施設内での事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日実習記録を提出する。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業内容

- 第1回
- 1, 保育所の役割と機能
(1) 保育所の生活と一日の流れ
(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開

- 2, 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助やかかわり
- 3, 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育環境
 - (3) 子どもの健康と安全
- 4, 保育の計画・観察・記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
- 5, 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	実習先での評価基準に原則として準ずる。
	評価の方法	実習先評価（70%）・記録簿（30%）

教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	保育所保育指針
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅰ（施設）

科目責任者 田村 光子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける

学生の達成目標

1. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設での生活について体験的に理解する。
2. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ

授業内容

第1回 実習施設でのオリエンテーション
実習施設における実習(実習中の巡回指導を含む)
実習施設での事後指導

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
評価の方法	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

実習の手引き

推薦図書等

参考URL

備考

保育実習Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅱ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員
中坪 晃一
佐藤 愼二
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学内での事前・事後指導を必ず受けて実習に出る。・実習施設内での事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日実習記録を提出する。

学生の達成目標

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

授業内容	第1回	1, 保育所の役割と機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2, 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3, 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4, 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5, 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と職業倫理 6, 自己の課題の明確化
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習先での評価基準に原則として準ずる。
	評価の方法	実習先評価（70%）・記録簿（30%）
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習Ⅲ（施設）

科目責任者 田村 光子

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要
児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける

- 学生の達成目標
1. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設での生活について体験的に理解する。
 2. 児童福祉施設および障害関係施設等、それぞれの施設において求められる専門職としての知識・技能について学ぶ

授業内容
第1回 実習施設でのオリエンテーション
実習施設における実習(実習中の巡回指導を含む)
実習施設での事後指導

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
	評価の方法	実習施設による評価、記録簿を総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導 I（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導 I（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業内容

- | | |
|-----|-----------------|
| 第1回 | 第1回～第2回 |
| | 1. 保育実習の意義 |
| | (1) 実習の目的 |
| | (2) 実習の概要 |
| | 第3回～第4回 |
| | 2. 実習の内容と課題の明確化 |
| | (1) 実習の内容 |
| | (2) 実習の課題 |
| | 第5回～第7回 |

3. 実習に際しての留意事項

- (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
- (2) プライバシーの保護と守秘義務
- (3) 実習生としての心構え

第8回～第12回

4. 実習の計画と記録

- (1) 実習における計画と実践
- (2) 実習における観察、記録及び評価

第13回～第15回

5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化

- (1) 実習の総括と自己評価課題の明確化

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習への取り組む姿勢及び保育士としての知識と技能
	評価の方法	授業への参加度（70%）・提出物（10%）・レポート（20%）
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅰ（施設）

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験に向けて、基礎的な知識・態度を学習、体得し、よりよい実習にむけての基礎を養う。

学生の達成目標

1. 実習にむけて、実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習に臨めるように準備する
2. 実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する

授業内容

第1回 学内での事前指導

- ・実習の意義と目的
- ・実習施設の理解
- ・子ども・利用者への支援的対応について
- ・実習における態度
- ・自己目標の設定
- ・実習にあたっての手続き
- ・記録の意義と記録簿の記入の仕方

学内での事後指導

- ・自己評価と今後の課題の明確化

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
	評価の方法	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅱ（保育所）

科目責任者 松原 敬子

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・実習に向けての心構えを踏まえ、目標を掲げ実習に臨む。
- ・実習後は、振り返りを通して自分自身の新たな実習課題を明確化していく。

学生の達成目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察や、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業内容

- | | |
|-----|------------------------|
| 第1回 | 第1回～第2回 |
| | 1. 保育実習による総合的な学び |
| | (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具 |
| | 体的理解 |
| | (2) 子どもの保育と保護者支援 |
| | 第3回～第4回 |
| | 2. 保育実践力の育成 |
| | (1) 子どもの状態に応じた適切なかわり |
| | (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 |
| | 第5回～第10回 |

	3. 計画と観察、記録、自己評価	
	(1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	
	(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	
	第11回～第12回	
	4. 保育士の専門性と職業倫理	
	第13回～第15回	
	5. 事後指導における実習の総括と評価	
	(1) 実習の総括と自己評価	
	(2) 課題の明確化	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習への取り組む姿勢及び保育士としての知識と技能
	評価の方法	授業への参加度（70%）・提出物（10%）・レポート（20%）
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	本学実習委員会編
	出版社	正文社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実習指導Ⅲ（施設）

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

児童福祉施設、障害関係施設等における保育・指導の実践的体験に向けて、基礎的な知識・態度を学習、体得し、よりよい実習にむけての基礎を養う

学生の達成目標

1. 実習にむけて、実習目標、実習課題を明確化し、よりよい実習に臨めるように準備する
2. 実習を通して学んだ専門職として必要な知識・技能について確認する

授業内容

- 第1回 学内での事前指導
- ・実習の意義と目的
 - ・実習施設の理解
 - ・子ども・利用者への支援的対応について
 - ・実習における態度
 - ・自己目標の設定
 - ・実習にあたっての手続き
 - ・記録の意義と記録簿の記入の仕方
- 学内での事後指導
- ・自己評価と今後の課題の明確化

予習・復習の内容

- 予習
- 復習
- 展開

成績評価	評価の基準	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
	評価の方法	授業への参加状況、態度、提出物などを総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	実習の手引き	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習 I（参観実習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習 I（参観実習）

科目責任者 相磯 友子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 蘭子
田村 光子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 幼稚園、特別支援学校等で、観察・参観実習を行う。
2. 1 に向けてのオリエンテーションを実施する。

学生の達成目標

1. 幼稚園の保育に接し、保育や子どもを見る際の観点をつかむ。
2. 特別支援学校に在籍する子どもたちと触れ合うことを通して、障害ややさしい支援の在り方を考えるきっかけとする。

授業内容

第1回 〈幼稚園における参観実習〉
（1）幼稚園の保育を見学し、保育の流れ・保育者の動き・子どもの様子等を参観する。子どもたちの活動の中に入り、一緒に遊ぶ。
（2）幼稚園の園行事に参観し、行事のねらいに沿って展開される保育を体験する。子どもの様子や保育者の動き、保育者が保護者と関わる様子を観察する。

（３）幼稚園における保育の様子及び幼稚園の園行事に参加した記録をまとめる。

〈特別支援学校における参観実習〉

（１）特別支援学校の各教室で子どもたちの様子を観察したり、ともに活動したりする。

（２）特別支援学校の概要及び役割に関する講義を受ける。

（３）特別支援学校における参観実習の記録をまとめる。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業及び実習の出席 参観記録の提出とその内容
	評価の方法	授業・実習の出席と参観記録の提出・内容から総合的に評価
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じて資料を配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習 II（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習 II（幼稚園）

科目責任者 浅川 繭子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 3

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- ・幼稚園における教育・保育の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うと共に、専門的な知識・技能を身につける。
- ・子どもの生活の場である幼稚園の様子を体験的に理解する。

学生の達成目標

1. 幼稚園の役割や機能と幼稚園教諭の役割について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
3. 子どもとのかかわりを通して、子どもを理解する力を高める。
4. 自己の課題を明確にする。

授業内容

- 第1回
- ・実習園の概要を知る。
 - ・子どもたちの生活に実態を知る。

- ・幼稚園における保育者の役割を知り、その一部を実際に経験する。
- ・実習記録を毎日提出し、子どもの理解を保育者の援助の理解を深める。
- ・指導計画を立て、計画に基づいて準備・実践・評価を行う。

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	実習への取り組みの態度、及び幼稚園教諭としての知識と技能
	評価の方法	実習園による評価と実習記録、取り組みの様子を総合して評価する。 原則として実習園の評価に準ずる。

教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考	事前指導を受けた者のみが参加できる。
----	--------------------

教育実習 Ⅲ（特別支援学校・学級）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習 Ⅲ（特別支援学校・学級）

科目責任者 相磯 友子

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 実習先の特別支援学校等で事前・事後指導を受け、実習期間中は毎日日誌を提出する。

学生の達成目標

1. 特別支援学校等での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 特別支援学校等において実習を行う。
3. 実習を記録簿にまとめる。

授業内容

第1回 特別支援学校・小学校特別支援学級での実習
・実習校でのオリエンテーション
・特別支援学校等における実習
・観察、参観、部分実習（1週間）
・実習校での反省会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習先の特別支援学校等による評価、実習先への記録簿の提出状況、記録簿の内容
	評価の方法	実習先の特別支援学校等による評価、実習先への記録簿の提出状況、記録簿の内容等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 適宜プリントを配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教育実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

科目責任者 浅川 繭子

担当教員 相磯 友子

授業形態 実習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園、特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。

学生の達成目標

1. 幼稚園と特別支援学校・学級における教育の実践的体験を通して、児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける。
2. 子どもの生活の場である幼稚園や特別支援学校・学級の様子を体験的に理解する。

授業内容	第1回	〈教育実習Ⅱ事前・事後指導〉 ・実習の目的・概要等のオリエンテーション ・幼稚園の概要 ・幼稚園の教育課程と指導計画 ・記録簿の書き方 ・指導計画の立て方 ・事後指導
		〈教育実習Ⅲ事前・事後指導〉 ・実習の目的・概要等のオリエンテーション ・特別支援学校の概要 ・特別支援学校の教育課程とキーワード ・記録簿の書き方 ・事後指導
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況・参加態度や姿勢・レポートの提出と内容
	評価の方法	出席状況・参加態度や姿勢・レポートの提出・内容等により総合的に評価する。
教科書	書籍名	実習の手引き
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	1 9 0 円
	ISBN・ISSN	
	書籍名	実践で語る幼稚園教諭への道
	著者名	横山洋子 中島千恵子
	出版社	大学図書出版
	価格	2 0 0 0 円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

- 1 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを 重視する
- 2 テーマや進路先とも関連させながら個別的な支援をおこない、全体での 交流・発表の場を適宜設定する
- 3 進路などの相談には授業時間以外にも適宜設定する

学生の達成目標

1. 特別な教育的支援を必要とする幼児の保育法・指導法に関連したテーマについて各自が文献研究や実践などを通し考察し卒業研究をまとめる

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション
	第2回	卒業研究の意義と方法について
	第3.4回	それぞれの関心などについて意見交換し、課題設定
	について	検討
	第5.6回	課題設定に基づく研究方法の検討
	第7.8回	各自の研究課題の発表・協議
	第9~18回	各自の課題に沿った研究活動・相談支援
	第19.20回	中間発表
	第21回	論文の構成、体裁、執筆方法について
	第22~28回	執筆と相談
	第29回	加筆 修正 提出
	第30回	卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	計画的に研究をしているか 自己の考えを持っているか 課題にそった実践を行っているか
	評価の方法	卒業研究への努力 熱意 研究内容などを総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし。課題に即した資料を必要に応じて作成・配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

教職実践演習（幼稚園）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 教職実践演習（幼稚園）

科目責任者 佐藤 慎二

担当教員

松原 敬子
中坪 晃一
山本 邦晴
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 蘭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園教諭(保育者)としての資質、能力をどの程度身につけたかを確認し、得意を伸ばし、課題を補い、幼稚園教諭として自信と意欲をもって出発できるようにする。

学生の達成目標

1. ○障害の有無にかかわらず、どの子どもも支える学級経営の基本を理解する。
2. ○学級経営や日常の保育における具体的な支援方法を身につける。
3. ○保護者との連携の基本を身につける。

授業内容

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション |
| | 第2回 現役教諭による講話と演習「子どもが求める保育者像」 |
| | 第3回 現役教諭による講話と演習「保護者が求める保育者像」 |
| | 第4回 幼稚園における教師の責任、倫理、服務規律の確認、救命講習 |
| | 第5回 幼稚園におけるチームティーチング、保護者対応の確認 |

- 第6回 子どもの前に立つ－絵本・紙芝居の模擬授業
第7回 子どもの前に立つ－手遊びの模擬授業
第8回 子どもの前に立つ－室内ゲームの模擬授業
第9回 子どもの前に立つ－ピアノなどなど取り入れた音楽遊びの模擬授業
第10回 子どもの前に立つ－図工的な保育・遊びの模擬授業
第11回 子どもの前に立つ－季節に応じた遊びの検討会
第12回 保護者との連携－保護者会の実際の検討
第13回 保護者との連携－個別相談支援の実際の検討
第14回 保護者との連携－たより、電話連絡等の実際の検討
第15回 保育室及び園環境全体のレイアウトの実際の検討

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	各課題の理解度及び参加態度
	評価の方法	模擬授業の様子及びそれへの討論の内容・姿勢、レポートなどを踏まえ、総合的に評価する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	高倉 誠一
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 それぞれの問題関心に応じて、テーマを定め、学生自ら主体的に研究を積み重ねる。

学生の達成目標 1. 知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場一幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション（授業の進め方）。
		第2回	卒業研究の意義と方法について。
		第3回～第4回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
		第5回～第6回	課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定。第7回
			参観記録の方法、問題の明確化等について検討。
		第8回～第9回	各自の研究課題の発表・協議。
		第10回～第18回	参観先訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）。
		第19回～第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）。
		第21回	論文の構成・体裁、執筆方法等について。
		第22回～第23回	関係資料の収集・文献研究。
		第24回～第28回	論文の執筆過程での相談支援。
		第29回	論文の加除・修正。論文の提出。
		第30回	卒業研究発表会。

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
評価の方法	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

なし

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	佐藤 慎二
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	保育所・幼稚園等における「気になる」子ども、発達障害のある子どもの理解と支援の在り方について実践的な研究(具体的な支援方法を含む)を深める。
-----------	--

学生の達成目標	1.	○「気になる」子どもや発達障害のある子どもの思いの理解。
	2.	○授業で取り上げる具体的な支援方法を身につける。
	3.	○卒業研究としてまとめる。

授業内容	第1回	第1回～第5回 ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。 ○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。 ○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。 ○実地的な参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。 ○個別面談方式による相談会 第6回～第10回 ○卒業研究の執筆過程での相談支援。 ○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。 第11回～第15回 ○執筆と相談 第16回 ○中間発表会 I 第17回～第22回 ○執筆と相談 第23回
------	-----	---

○中間発表会Ⅱ
第24回～第29回
○執筆と相談→提出
第30回
○卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	「気になる」、発達障害のある子どもの思いの理解と具体的な支援方法の習得度及び卒業研究の内容。
	評価の方法	卒業研究への努力、熱意、研究内容等を総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	学生のテーマに合わせて、参考文献、資料等を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行い、全体での交流・発表の場を適宜設定する。＊進路先の相談については、授業時間以外にも適宜設定する。

学生の達成目標

1. 保育や教育の場、学校教育卒業後の場における「気になる」子どもや知的障害のある子ども・青年の理解や支援に関連したテーマで実践研究に取り組み、卒業研究をまとめる。

授業内容

第1回	第1回～第5回 ○授業の進め方や年間の見通しについての確認。 ○各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。 ○卒業研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。 ○実際の参加観察の方法・記録のとり方に関する検討。 ○個別面談方式による相談会 第6回～第10回 ○卒業研究の執筆過程での相談支援。 ○特に、進路先の相談については、授業時間以外にも－学生からの申し出による相談の機会も含め－を支援の場を積極的に設定する。 第11回～第15回 ○執筆と相談 第16回 ○中間発表会 I 第17回～第22回 ○執筆と相談
-----	--

第23回
○中間発表会 II
第24回～第29回
○執筆と相談 →提出
第30回
○卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	卒業研究への努力、熱意、研究内容等を総合的に評価する。
	評価の方法	卒業研究への努力、熱意、研究内容等を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	学生のテーマに合わせて、参考文献、資料等を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	黒田 静江
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもをとりまく様々な課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い報告書にまとめる。保育現場でのボランティアを経験しながら、各自設定した課題について考える。また自分たちで協力しあいながら音楽会を企画し、発表する。

学生の達成目標

1. 各自でテーマを設定し、資料収集しながら、課題を明確にする。
2. 保育実践を体験しながら、研究を掘り下げる。
3. 皆で協力しあいながら、参加者と共に楽しめる音楽会を開催する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション
第2回 卒業研究の意義と方法・資料収集などについて
第3回～第4回 各自で興味・関心のあるテーマを設定し、発表しあったり、今後の研究計画を考える。
第5回～第6回 課題設定に基づき、参観・ボランティア先の決定
第7回 参観記録の方法・問題の明確化
第8回～第9回 各自の研究課題の発表・協議
第10回～第18回 各自で調査研究（参観・実習・ボランティア・調査等）
第19回～第20回 中間発表
第21回 論文の構成・体裁・執筆方法などについて
第22回～第23回 関係資料の収集・文献研究
第24回～第27回 論文の執筆課程での相談支援
第28回 論文の加筆・修正・論文の提出
第29回～第30回 卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポートの作成過程とその内容
	評価の方法	レポート作成過程（30％），レポート内容（40％），授業への参加態度（30％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考	推薦図書は，必要に応じて参考文献などを紹介する。	

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	松原 敬子
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。 ・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。
-----------	--

学生の達成目標	1. 各自、興味関心のある研究テーマの検討をしていく。 2. 各自、参観、実習、ボランティアなどの調査研究を進める。 3. 卒業研究論文の発表と協議を行う。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回～第4回 第5回～第6回 第7回 第8回～第9回 第10回～第18回 第19回～第20回 第21回 第22回～第23回 第24回～第28回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方） 総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について 一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討 課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定 参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討 各自の研究課題の発表・協議 参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等） 参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表） 論文の構成・体裁と執筆方法について 関係資料の収集・文献研究 論文の執筆
------	-----	--	--

第29回
第30回

論文の検討・修正
卒業研究発表会

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。

評価の方法 卒業研究（ 60%） 研究過程（ 20%） 授業への参加態度（ 20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

逐次状況に応じてプリントを配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	浅川 繭子
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組む。発表・協議を行い卒業研究にまとめる。

学生の達成目標

1. 各自の興味関心から、研究テーマを設定する。
2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。
3. 発表・協議を重ね、卒業研究を作成する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション
第2回 卒業研究における資料・図書の使い方について
第3～4回 各自の興味関心についての意見交換と研究テーマ設定について検討する。
第5～6回 研究テーマを決定する。テーマについて意見交換、文献調査等を行い理解を深める。
第7～8回 研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する。
第9回～10回 中間発表
第11～18回 各自で調査研究を行う。
第19回 卒業研究の作成について
第20～26回 各自で卒業研究を作成する。
第27～29回 卒業研究を検討・修正する。
第30回 まとめ・卒業研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況

評価の方法

卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

各自のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	相磯 友子
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	子どもを取り巻く様々な事象、課題の中から、自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定し、調査・研究活動に取り組む。中間発表や検討を行い卒業研究を作成する。
-----------	--

学生の達成目標	1. 興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。 2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。 3. 研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ卒業研究を作成する。
---------	--

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーションで、授業の進め方を説明する。
	第2回～第4回	研究テーマについて、意見交換、文献調査等により理解を深める。	
	第5回～第6回	研究テーマに基づいて、フィールドを検討し、決定する。	
	第7回～第8回	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、決定する。	
	第9回～第10回	中間発表を行う。	
	第11回～第18回	フィールドで調査等を実施する。	
	第19回～第21回	卒業研究の構成の検討と体裁、執筆方法の説明を行う。	
	第22回～第26回	卒業研究を執筆する。	
	第27回～第29回	卒業研究を検討・修正する。	
	第30回	卒業研究を提出する。	

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	卒業研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を大切にすると共に、全体で協議を行い課題の共有化・深化を図る。

学生の達成目標

1. 子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い報告書にまとめる

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション（授業・卒業研究の進め方）	
		第2回	総合演習（保育・障害支援）・卒業研究の意義と方法について	
		第3回～第4回	一人ひとりの関心等の意見交換と課題設定についての検討	
		第5回～第6回	課題設定に基づく、参考文献収集、参観先・ボランティア先の決定	
		第7回	参観先での記録と深めたい問題の明確化等について検討	
		第8回～第9回	各自の研究課題の発表・協議	
		第10回～第18回	参観先の訪問・調査研究（参観・実習・ボランティア等）	
		第19回～第20回	参観先の様子と課題設定についての発表（中間発表）	
		第21回	論文の構成・体裁と執筆方法について	
		第22回～第23回	関係資料の収集・文献研究	
		第24回～第28回	論文の執筆	
		第29回	論文の検討・修正	
		第30回	卒業研究論文の発表と協議	
	予習・復習の内容		予習	
		復習		
		展開		
成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（60%）	研究過程（20%）	授業への参加態度（20%）
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
		なし		
推薦図書等				
参考URL				
備考				

保育実践演習（保育・障害支援）－卒研

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	卒業研究
授業科目名	保育実践演習（保育・障害支援）－卒研
科目責任者	田村 光子
授業形態	演習
開講時期	通期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	地域で子どもや障害のある子のための居場所づくりの実践を行う。そのための計画、準備、活動の展開を通して、実践的な保育力をたかめるとともに、その経過を報告書にまとめ、卒業研究とする。
-----------	---

学生の達成目標	1. 地域における実際的な子どもの居場所づくりの活動に参加し、実践的な保育力を高める。 2. 実際的な活動展開のための計画、準備等において、発表・協議を行っていく。 3. 活動の展開を通して、調査、研究につなげる。
---------	---

授業内容	第1回	第1回	オリエンテーション
		第2回	卒業研究における資料・図書の使い方について
		第3～4回	研究課題の作成と進路の確認
		第5～6回	研究課題について発表・協議
		第7～14回	各自で調査研究
		第15～17回	各自実践的活動の展開
		第17～18回	中間発表
		第19回	論文の作成について
		第20～26回	各自で論文作成
		第27～29回	各自卒業研究における実践的活動の展開
		第30回	まとめ・卒業研究発表会

予習・復習の内容	予習
----------	----

復習

展開

成績評価

評価の基準	授業への出席状況（30％） 卒業研究の作成過程（30％） 卒業研究の内容（40％）
評価の方法	卒業研究への作成過程とその内容を評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

参考URL

備考

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門基礎科目

授業科目名 キャリアガイダンス

科目責任者 佐藤 慎二

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
漆澤 恭子
高倉 誠一
黒田 静江
浅川 繭子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 ○「人生」や「仕事」、更に「キャリア」、「働くこと」について、各職場で働く先輩の話、さらには、ビジネスマナー等の講習会、ワークシートでの演習等を通して学ぶ。

学生の達成目標
1. ○ありたい自分の将来像を描く。
2. ○具体的な仕事を選択する。

授業内容
第1回 第1回 オリエンテーション・ワークシートでの演習（自己理解他）
第2回 教育・保育関連の各職種及び試験準備の概要説明会
第3回 公務員試験講座Ⅰ
第4回 公務員試験講座Ⅱ
第5回 公務員試験講座Ⅲ
第6回 教育採用試験講座Ⅰ
第7回 教育採用試験講座Ⅱ
第8回 卒業生のお話を聞く会・ワークシートでの演習（人生設計）

他)
第9回 教員採用試験講座Ⅳ
第10回 教育採用試験講座Ⅴ
第11回 夏休み中の就職活動・履歴書及び模擬面接講座
第12回 作文添削講座
第13回 公務員試験講座Ⅳ
第14回 ビジネスマナー講座
第15回 卒業オリエンテーション（社会人としての自覚と責任を
考える・講義と演習）

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	先の達成目標に到達できたかで判断する。
	評価の方法	振り返りカード、授業態度・出席日数により評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	なし

推薦図書等

参考URL

備考

特別支援教育原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	選択専門科目
授業科目名	特別支援教育原論
科目責任者	漆澤 恭子
担当教員	佐藤 慎二
授業形態	講義
開講時期	後期
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	1. 特別支援学校学習指導要領解説書などを参考に、特別支援教育の在り方を考える。 2. 講義を中心とするが、調査・発表・討論も取り入れる。
-----------	--

学生の達成目標	1. 特別支援教育に至る背景や関係法などを理解することができる 2. 特別支援教育の意義やその方法を理解することができる 3. 教師として特別支援教育をいかに進めるべきか具体的に考え意見を交換することができる
---------	--

授業内容	第1回 第1回～第5回 特別支援教育の意義 ①能力に応じる教育からニーズに応じる教育 ②インクルージョン教育への道程 …ノーマライゼーション、メインストリーミング、インテグレーション ③特別な教育的ニーズの理解 ④特別支援教育の対象と関連教育法規の確認 ⑤個別の教育支援計画の意義と実際 第6回～第10回 特別支援教育の方法Ⅰ ①特別支援学校の目的・機能・その実際 ②特別支援学級の目的・機能・その実際 ③通級指導教室の目的・機能・その実際 第11回～第15回 特別支援教育の方法Ⅱ ①通常の学校における特別支援教育 ②特別支援教育コーディネーターと校内支援体制の構築
------	---

③巡回指導他の様々な校外リソースとのコラボレーションの実
際

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	学習態度 小テスト 定期テストから総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	毎回資料を配付する。参考書を手元に置くことが望ましい。	
推薦図書等	書籍名	LD ADHD等関連用語集 第2版
	著者名	日本LD学会
	出版社	日本文化科学社
	価格	1190円
	ISBN・ISSN	ISBN4-8210-7333-1
参考URL		
備考		

障害教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育方法史
科目責任者	名古屋 恒彦
授業形態	講義
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
登録コード・曜日・時限	35001001

教室

単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	戦後の特別支援教育の理念等を知的障害教育を中心に概説する。
-----------	-------------------------------

学生の達成目標	1. 戦後の障害教育方法の変遷過程をたどり,今後の発展方向を探る。
---------	-----------------------------------

授業内容	第1回	知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」
	第2回	生活を大切にする教育の始まり
	第3回	本物の生活づくりの徹底
	第4回	生活を大切にする教育の変容と後退
	第5回	生活主義教育批判・反省の総括的論点
	第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育
	第7回	障害の重度化・重複化と生活主義教育
	第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興
	第9回	教育課程編成と学校生活づくり
	第10回	学校生活の集団化と個別化
	第11回	生活中心教育の総括的主張点
	第12回	生活中心教育の4つの型
	第13回	子ども主体方の生活中心教育と他の型の比較検討
	第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開
	第15回	まとめと討論

予習・復習の内容	予習
----------	----

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷，教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験70%，授業での発言等30%
教科書	書籍名	テーマのある学校生活 子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2,500円（税別）
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	なし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

障害者の人権と社会参加

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害者の人権と社会参加
科目責任者	中坪 晃一
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義・事例研究・話し合いを通して、障害児者の人権と社会参加について理解を深める。
-----------	--

学生の達成目標	1. 障害児者（特に知的障害児者を中心に）の人権と社会参加が十分に保障されているか、どのような問題と支援の支援の仕組みがあるかについて、ライフステージに沿いながら事例によって学ぶ。
---------	--

授業内容	第1回	第1回	障害者の人権と社会参加の動向
		第2回～第3回	家族支援（障害の受容、相談支援）
		第4回～第5回	成年後見制度
		第6回～第7回	施設から地域生活への移行
		第8回	警察による権利侵害
		第9回～第10回	職場における権利侵害
		第11回～第12回	地域生活を支えるしくみ
		第13回～第14回	本人活動、地域でくらす人たち
		第15回	差別禁止の法整備 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	授業参加の態度・発表・レポート等を勘案し総合的に評価する。
------	-------	-------------------------------

評価の方法	授業参加の態度・発表・レポート等を勘案し総合的に評価する。
-------	-------------------------------

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
毎回資料を配付

推薦図書等

参考URL

備考

社会福祉論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 社会福祉論

科目責任者 根本 曜子

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 DVDなどの教材を使用し、演習形式で行う。

- 学生の達成目標
1. 現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何か、また社会福祉を支える理念について検討していく(事例を通して内容を確認していく)。
 2. 社会福祉の政策的動向を踏まえつつ、ここでは特に児童、障害児者への生活支援を中心に上げつつ、検討していく。
 3. ソーシャルサポートネットワークについての理解を深める。

授業内容

第1回	第1回 オリエンテーション
	第2回 自分と社会福祉
	第3回 低所得者問題 ①
	第4回 低所得者問題 ②
	第5回 家族について ①
	第6回 家族について ②
	第7回 児童養護について ①
	第8回 児童養護について ②
	第9回 学童保育について
	第10回 社会福祉の理念 ①
	第11回 社会福祉の理念 ②
	第12回 社会福祉の理念 ③
	第13回 地域福祉 ①
	第14回 地域福祉 ②
	第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	障害者を支援する者として、福祉の理念、視点を理解し、考察して深め、意見として伝えることができる
	評価の方法	試験 50% レポート50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特に指定なし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育論

科目責任者 木下 勝世

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 35001601

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 講義資料のほかに統合保育の現場体験と資料を提供する。
2. 共に考え、意見を交換しながら理解を深めるようにする。

学生の達成目標

1. 障害のある幼児が幼稚園や保育所で共に生活することの意義を多角的に理解する。
2. 統合保育の実践例を学び、統合保育が果たす役割を実際的に確かめる。
3. 統合保育実践上の諸問題を通して、その背後にある課題について深い認識をもつ。
4. 統合保育の担い手としての確固たる姿勢と熱意を醸成する。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション 授業の目標・内容・進め方説明
受講者の希望・課題の聴取
- 第2回 統合保育の定義・意義①文献資料の読み込み（目標1）
- 第3回 統合保育の定義・意義②担当教員の実践から（目標1）
- 第4回～第5回 現場見学事前学習（目標2）
- 第6回～第8回 現場見学 統合保育実践幼稚園、幼児通園施設、
相談療育機関の見学（目標2）
（日程は授業日と別に設定）
- 第9回 現場見学事後学習・まとめ（目標2）
- 第10回 統合保育をめぐる諸問題①保護者への対応（目標3）－

障害受容の問題－

第11回 統合保育をめぐる諸問題②子ども相互の関係（目標3）

－幼児の自己理解と関係性の育ち－

第12回 統合保育をめぐる諸問題③幼児期を取り巻くもの（目標3）－就学，関係機関との連携ほか－

第13回 統合保育をめぐる諸問題④直面する現在の課題（目標3）－受け入れの態勢，保育者の専門性ほか－

第14回 意見発表「統合保育への提言」（目標4）

第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	1. 授業への出席と，学習への意欲や受講態度を評価に加味する。 2. 授業で行う意見交換や，参観時のレポートの記述内容を，授業内容の理解と考察力の視点から，成績評価の対象とする。 3. 期末試験は統合保育に関して，所見を自由に記述する方式とする。
	評価の方法	1. 授業への出席と，学習への意欲や受講態度を評価に加味する。 2. 授業で行う意見交換や，参観時のレポートの記述内容を，授業内容の理解と考察力の視点から，成績評価の対象とする。 3. 期末試験は統合保育に関して，所見を自由に記述する方式とする。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
	特になし

推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

知的障害のある子どもの心理や発達の特徴と生理・病理について学び、知的障害のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害のある子どもの心理・生理・病理についての理解を深める。
2. 知的障害のある子どもに関する最新研究知見を知る。
3. 具体的な事象や事例から、知的障害のある子どもの行動背景を考えられるようになる。

授業内容

第1回	第 1 回	知的障害の生理・病理 担当：高野
		① 遺伝子の異常
		② 染色体の異常
		③ 胎生期、周産期の異常
		④ てんかん
		⑤ 障害の発見と対応
	第 2 回～第 4 回	知的障害観の変遷と知的障害の定義 担当：相磯
		① 知的障害観の変化
		② 知的障害の定義－WHOなど
		③ 知能と知能検査
	第 5 回～第 8 回	知的障害のある子どもの心理 担当：相磯
		① 知的機能の発達の特徴
		② 社会性の発達の特徴
		③ 知的障害のある子どもの事例検討

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書出版KK
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4761603038
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理について学び、肢体不自由のある子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

学生の達成目標

1. 肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について理解を深める。
2. 肢体不自由のある子どもに関する最新の研究知見を知る。
3. 具体的な事象や事例から、肢体不自由のある子どもの行動背景を考えられるようにする。

授業内容

第1回	第 1 回	肢体不自由の生理・病理 担当：高野
	由	① 脳損傷性肢体不自由と非脳損傷性肢体不自由
		② 脳性まひ、二分脊椎
		③ 重複障害
	第 2 回～第 5 回	肢体不自由の子どもの心理 担当：相磯
		① 肢体不自由の定義
		② 肢体不自由と認知の障害
		③ 肢体不自由と言語の障害
		④ 肢体不自由の子どもの事例検討
	第 6 回～第 8 回	肢体不自由の子どもの障害受容 担当：相磯
		① 障害受容とは
		② 事例検討

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書出版KK
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4761603038
推薦図書等		
参考URL		
備考		

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	相磯 友子
担当教員	高野 喜久雄
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 病弱の子どもの心理・生理・病理について学び、病弱の子どもへの指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

学生の達成目標

1. 病弱の子どもの心理・生理・病理について理解を深める。
2. 病弱の子どもに関する最新の知見を知る。
3. 具体的な事象や事例から、病弱の子どもの行動背景を考えらるようになる。

授業内容

第1回	第 1 回	「病弱」の生理・病理 担当：高野 ① 「病弱」の起因と疾患 ② 小児気管支喘息 ③ 筋ジストロフィー ④ ネフローゼ ⑤ 自律神経失調症 ⑥ 小児慢性特定疾患等 ⑦ 重度重複障害
	第 2 回～第 3 回	「病弱」の教育上の定義 担当：相磯 ① 教育上の定義 ② 病弱教育の対象の移り変わり と現在の動向
	第 4 回～第 8 回	病弱の子どもの心理 担当：相磯 ① 疾病進行への不安と恐怖 ② 行動制限によるストレス ③ 親子関係への影響

- ④ 適応機制
- ⑤ 慢性疾患の子どもの事例

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テストとレポートの提出・内容
	評価の方法	小テスト・レポート等から総合的に評価する。
教科書	書籍名	障害児の心理
	著者名	佐藤泰正
	出版社	学芸図書出版KK
	価格	2100
	ISBN・ISSN	4761603038
推薦図書等		
参考URL		
備考		

幼児の生理と健康

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 幼児の生理と健康

科目責任者 林 悠佳

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 35004801

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心に、運動実技や測定実習などを行いながら、生理学の基礎と幼児の健康に関わる基礎的な知識の理解を深める。

学生の達成目標

1. ヒトの発育発達の基盤となる幼児の健康において、身体運動と生理機能の相互関係を理論的に学習する。
2. また、実際の運動実践場面で、どのような生理的応答を示すか、実習を通して理解を深め、考察する。

授業内容

- 第1回
- 第1回 幼児の健康と環境
 - 第2回 幼児の身体的発達
 - 第3回 なぜ運動が必要か
 - 第4回～第5回 脳神経系機能
 - 第6回 呼吸・循環反応
 - 第7回 体温調節反応
 - 第8回 免疫とアレルギー
 - 第9回 体性感覚
 - 第10回 幼児の運動機能
 - 第11回 幼児の運動発達
 - 第12回～第14回 幼児の運動・遊び（実技・測定実習・考察）
 - 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	学習態度，期末レポート等を総合して評価する。
	評価の方法	学習態度，期末レポート等を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じてプリント等を配布する。	
推薦図書等	書籍名	なし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

発達障害と自閉症

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達障害と自閉症

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 疑似体験などを通じて、発達障害の子どもたちの感じ方や日常生活のストレスなどについて考える。
2. 実習の経験や授業参観、研究発表会への参加などを通して実践に役立つ教育方法を考え発表する。

学生の達成目標

1. 自閉症を中心とする広汎性発達障害の認知特性について理解を深める
2. LD、ADHD、高機能自閉症などについて理解を深める
3. 学習した事柄、教育実習での経験、研究発表会などで得た知見を通して具体的な教育方法を考える

授業内容

- 第1回 第1回 発達障害概論
第2～4回 LD ADHD、高機能自閉症の理解
第5～7回 自閉症の理解
第8回 情緒障害：不登校と被虐待児
第9回 アセスメントの基本
第10回 認知特性に配慮した教育方法 学習
第11回 認知特性に配慮した教育方法 行動
第12回 認知特性に配慮した教育方法 社会生活
第13～14回 グループ討論
第15回 学習のまとめ

実習 現場実践 研究発表会 参観などの時期により順を入れ替えることもある

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	発達障害や自閉症について正しい知識を身につけていること、望ましい教育支援の方法を具体的に考え、発表できることを基準とする。
	評価の方法	授業参加態度 発表 提出物 を総合して評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じて指示する。	
推薦図書等	書籍名	自閉症だったわたしへ
	著者名	ドナ ウィリアムス
	出版社	新潮社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

児童相談事例研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 児童相談事例研究

科目責任者 田村 光子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

子どもの視点から暮らしを見る力を養い、地域子育て支援とその中で必要な相談支援について事例を通して考える

学生の達成目標

1. 地域子育て支援と相談支援について知る
2. 「子どもの貧困」をテーマに文献研究に取り組む
3. 実践的な地域子育て支援や障害のある子どもへの支援の現場に赴く

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス
第2回～第8回 子どもの視点から相談の必要性を知る
～「子どもの貧困」から
第9回～第12回 地域子育て支援の活動に見学・参観する
第13回～第15回 事例研究
～「いま求められる子育て支援」とは

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 授業への参加状況（30%）
レポートの作成（50%）
授業への参加態度（20%）

評価の方法	授業への参加状況、態度、およびレポート提出等を総合して評価する
-------	---------------------------------

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「子どもの貧困」「子どもの貧困白書」(明石書店)を参考とする

推薦図書等

参考URL

備考

障害論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害論

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

WHO（世界保健機構）が提唱した新しい障害観を基に、あたためて障害とは何か、障害をどう理解し、どう定義するかを検討する。さらに、新しい障害観に立って、障害への基本的対応のあり方について考える。

学生の達成目標

1. 障害の見方・考え方は、多様で多面的であることを知る。
2. 障害観は、個人に属する問題よりも、個人の環境的側面を重視するようになったことを学ぶ。
3. 最新の障害定義を学び、新しい障害観に立つ、障害への基本的対応のあり方について考える。

授業内容

第1回	第1回～第3回	障害の三つの階層・側面－Impairments, Disabilities, Handicapsについて
	第4回～第5回	社会的不利益を重要視する障害観－障害を「社会的に負わされた不利益」ととらえる障害観。
	先	社会的不利益を最重要視し、それへの対応を最優先する教育観
	第6回～第7回	障害とは何か、障害をどう定義するか－発達に障害があつて、そのため生じる社会的不利を解消するに
	第8回～第9回	は、特別な教育的支援を必要とする状態 教育上問題にされる各障害－視覚障害、聴覚障害、

	知的障害、肢体不自由、内部障害、言語障害、自閉
	症、ADHD、LD等々
第 10回	能力の劣弱と教育的対応－視力、聴力、知能、運動能力等が劣ることと、それらを支える対応
第 11回	社会的不利と教育的対応－障害から生じる社会的
不	利と、社会的不利の解消を優先する教育。
	「できる状況づくり」としての支援
第 12回	障害と関わる特別な教育的ニーズ－障害観と教育的
	ニーズ、障害と教育的ニーズ
第 13回～第 14回	ICFの障害観と対応の変化
第 15回	まとめ
第 16回	試験

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	出席状況、授業参加の姿勢等を考慮し、小テストや期末テストの評点を基に、総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業参加の姿勢等を考慮し、小テストや期末テストの評点を基に、総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
-----	---------------------------

	書籍名	ICF 国際生活機能分類
	著者名	世界保健機関（WHO）
	出版社	中央法規
	価格	3675
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	発達障害指導事典第2版
	著者名	編集代表小出進
	出版社	学習研究社
	価格	
	ISBN・ISSN	
	□上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

障害教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	障害教育課程論
科目責任者	山本 邦晴
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 学習指導要領を中心教材として教育課程編成の基礎的理解を深める。2. 講義を中心とするが、調査・発表も取り入れる。3. 特別支援学校・特別支援学級等を実際に訪問する。

学生の達成目標

1. 教育課程の基準（特別支援学校学習指導要領等）についての理解を深め、各学校における教育課程編成の現状を踏まえ、望ましい教育課程の在り方について考える。

授業内容

- 第1回 第1回～第5回 <学習指導要領における教育課程の基準>
- ① 学校教育関連法規・学習指導要領との関係
 - ② 特別支援学校学習指導要領の特色
 - ③ 特別支援学校学習指導要領に規定される領域・教科の内容
 - ④ 知的障害特別支援学校における教育課程の二重構造。
 - ⑤ 特別支援学級の教育課程
- 第6回～第13回 <特別支援学校の教育課程の実際>
- ① 県内知的障害特別支援学校を中心に、実際の教育課程を調査・レポート作成・発表・協議を行う。
 - ② 特別支援学級についても同様に行う。
- 第14回～第15回 <望ましい教育課程編成の在り方>
- 第13回までの授業を踏まえて、望ましい教育課程について発表を行う。

予習・復習の内容

予習

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	特別支援学校学習指導要領	
推薦図書等	書籍名	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂
	価格	462円
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

障害教育指導法研究 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育指導法研究 I

科目責任者 佐藤 慎二

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援学校(主に知的障害教育)における指導法について体験的に学び、子どもに寄り添う支援の在り方を学ぶ。

学生の達成目標

1. ○知的障害教育の指導法の理解
2. ○遊びの指導の計画・展開・評価を実際に行う。

授業内容

第1回	第 1 回～第 5 回	教育課程と指導法概説
	指導	① 教育課程・指導計画と個別の計画（個別の計画、個別移行支援計画、個別の教育支援
	計	画）と授業の計画の関連
		② 学校生活づくりと「できる状況づくり」
		③ 知的障害教育に関連する様々な指導法・指導技
		法の概説
	第 6 回～第 15 回	遊びの指導の実際 学園祭に巨大すべり台を中心にした遊び場を設置し、（障害のある）子どもたちを招待し、一緒に遊ぶことを通して、準備、実際の授業展開、評価を行う。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	指導法の理解度及び遊びの指導の計画・展開・評価の習得度
	評価の方法	授業参加の意欲、レポート等の内容を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要に応じて資料を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

障害教育指導法研究 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 障害教育指導法研究 II

科目責任者 山本 邦晴

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 多様な教育の場のあり方（特別支援学級～通常学級など）について学ぶ。
2. 様々な事例について、実習の経験などから、具体的な支援の方法を協議検討し、発表する。
3. 学校教育現場との接点を大切にし、研究発表、授業参観の機会も設ける。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の在り方（主に特別支援学級～通常学級など）について学び、具体的な支援の方法について考える。

授業内容

- | | | |
|-----|---|----|
| 第1回 | 第1回 「特別支援教育」の理念について | |
| | 第2回～第6回 特別支援教育の実践を学ぶ | (特 |
| | 別支援学級・通級指導学級・通常学級など) | |
| | 第7回 教育課程と編成と年間計画 | |
| | ①特別支援学級 | |
| | 第8回 ②通級指導学級 | |
| | 第9回 ③通常学級 | |
| | 第10回 個別の指導計画 | |
| | 第11回～第14回 模擬授業の指導案作成と指導の実際・協議 | |
| | 第15回 まとめ実習、現場実践、研究会などの時期により、順を入れ替えることがある。 | |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。
評価の方法	出席状況、授業への参加姿勢、小テスト・レポート提出などにより総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
適宜配布、授業では自分の実践について発表できるよう逐次記録し、まとめておくこと。

推薦図書等

書籍名	「特別支援の「子ども理解」」
著者名	太田俊己 高倉誠一 中坪晃一 監修
出版社	K & A
価格	1.800円
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

知的障害教育 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育 I

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、幼稚園免許状等取得のための特別支援学校での実習経験や介護等体験等を踏まえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深めるようにする。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の学習指導要領と教育課程の考え方やその編成等について学び、知的障害教育のあり方や進め方について理解を深める。

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---------------------------|
| 第1回 | 第 1 回 | 知的障害教育における学習指導要領と教育課程編成 |
| | | 知的障害教育における教育課程編成の考え方・編成手順 |
| | 第 2 回 | 知的障害教育の教育課程の特色 |
| | | 知的障害特別支援学級のエデュケーション |
| | 第 3 回 | 知的障害教育における教科の指導 |
| | 第 4 回 | 知的障害教育と自立活動 |
| | 第 5 回 | 知的障害教育と特別活動 |
| | 第 6 回 | 知的障害教育と「総合的な学習の時間」 |
| | 第 7 回 | 個別の教育支援計画と個別の指導計画 |
| | 第 8 回 | 知的障害特別支援学校の望ましい教育課程編成 |

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	出席状況、授業参加の姿勢等を考慮し、毎回の授業で行う小テストや期末テストの評点を基に総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業参加の姿勢等を考慮し、毎回の授業で行う小テストや期末テストの評点を基に総合的に評価する。
教科書	書籍名	知的障害教育・基礎知識Q&A
	著者名	千葉大学附属特別支援学校編
	出版社	K&H
	価格	1800
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂
	価格	462
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	473
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	生活中心教育の理念と方法
	著者名	小出進
	出版社	K&H
	価格	1995
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

知的障害教育 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 知的障害教育 II

科目責任者 山本 邦晴

担当教員 漆澤 恭子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義を中心とするが、実習経験や参観を踏まえ、協議・発表も取り入れる。DVD等も多く活用し、できるだけ具体的な事例を多くして、理解を深める。

学生の達成目標

1. 知的障害教育の指導法の特色等を学び、知的障害教育の在り方や進め方などの理解を深める

授業内容

- 第1回
- 第1回 知的障害とは何か?改めて、考える!
 - 第2回 「合わせた指導」の教育課程上の位置づけと考え方
 - 第3回 生活単元学習の計画と指導の実際(1)
 - 第4回 生活単元学習の計画と指導の実際(2)
 - 第5回 遊びの指導の計画と指導の実際
 - 第6回 作業学習の計画と指導の実際
 - 第7回 日常生活の指導の計画と指導の実際
 - 第8回 進路指導・キャリア教育と卒業後の課題

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況、授業への取り組み態度、毎回の授業で行う小テスト、レポート提出などにより総合的に評価する。
教科書	書籍名	「知的障害教育・基礎知識Q & A」
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校編
	出版社	K & A
	価格	1.800円
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

肢体不自由教育 専特

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 肢体不自由教育 専特

科目責任者 小久保 元

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006101

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 教育現場との関わりを大切にし、具体的事例を基に授業を進める。
2. 肢体不自由児からの視点で教育活動を考える。
3. レポートやグループ討議を通して、指導者としての心構えや基礎力を培う。

学生の達成目標

1. 特別支援教育の一環としての肢体不自由教育について知り、教育内容・指導方法について学び、基礎的な理解力を深める。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 肢体不自由の子どもについて考える |
| | 第2回 子ども観・指導観・教育観 |
| | 第3回 子どもの自立と学力 |
| | 第4回 子どもの自立と個別の教育支援計画が果たす役割 |
| | 第5回～第6回 子どもの自立と個別の指導計画の作成・活用・見通しの実際 |
| | 第7回 肢体不自由児の教育課程と学習指導要領の関係 |
| | 第8回 学習活動（教科） |
| | 第9回 学習活動（総合的な学習） |
| | 第10回 学習活動（自立活動・個の成長） |
| | 第11回 学習活動（自立活動・コミュニケーション） |
| | 第12回 コミュニケーション支援の具体的な方法 |
| | 第13回～第14回 医療的ケア（課題・実践・教育） |
| | 第15回 訪問教育 |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，レポートの内容，授業への姿勢等を考慮し，総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況，レポートの内容，授業への姿勢等を考慮し，総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料を毎回配布する。	
推薦図書等	書籍名	新たな肢体不自由教育実践講座
	著者名	全国肢体不自由養護学校長会編著
	出版社	ジアーズ教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

病弱教育 専特

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 病弱教育 専特

科目責任者 昆 俊雄

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 30006201

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 講義を中心とするが、レポートやグループ討議等で考える機会を設けていく。

学生の達成目標

1. 病弱教育の歴史や意義,病弱の子どもの心理特性,医療と教育・学校との関係,病弱教育の現代的課題等,概観しながら教育内容・指導法等について学び,基礎的理解を深める。

授業内容

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 第1回 病弱教育の歴史 |
| | 第2回 病気治療における教育の役割 |
| | 第3回 病気の子の理解・子どもの病気と心のケア |
| | 第4回 病弱の特別支援学校における教育の実際 |
| | 喘息,慢性疾患,肥満,小児ガン,心身症,心臓疾患,
重症心身障害,腎疾患,筋ジス等の筋疾患,等の教育 |
| | 第5回 院内学級,特別支援教室等の教育の実際 |
| | 第6回 病弱教育の教育課程 |
| | 第7回 医療機関と学校の関係及び医療と教育との連携 |
| | 第8回 まとめ |

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	試験，レポート等で総合的に評価
評価の方法	試験，レポート等で総合的に評価

教科書

書籍名	病気の子どものガイドブック
著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会 編著
出版社	ジアース教育新社
価格	
ISBN・ISSN	

書籍名	他（資料等）
著者名	
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名	「病弱教育Q&A」PART V （病弱教育の視点からの医学事典）
著者名	西間三馨・横田雅史
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考

視覚・聴覚障害教育総論 専特（伊藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論 専特（伊藤）

科目責任者 伊藤 和男

担当教員 根本 匡文

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

視覚障害教育総論（伊藤 和男）

授業のねらい・概要

見えない見えにくい児童の教育は、個々の視機能を考慮すると共に、触覚や聴覚などを活用して指導することが必要である。本授業では、この基本的立場を念頭に、現在行われている視覚障害教育の基本を学ぶと共に、特別支援教育下における盲学校のあり方と視覚障害児に適した教育の場についても考える。講義形式。

学生の達成目標

1. 視覚障害教育を概括的に学習し、視覚障害児の特性と指導法を理解する。
2. また、特別支援教育における視覚障害教育の意義と今後の広がりについても学習する。

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 第 1 回 | 【視覚障害教育の概要】
視覚機構と視覚障害
視機能の検査（教育的評価）
視覚障害児童生徒の実態と教育の場 |
| | 第 2 回 | 【教育課程と指導法】
教育課程・指導計画の作成
盲児に対する指導内容・方法と弱視児に対する配慮 |

		視覚障害児のための教材・教具（教科書）
	第3回	【自立活動の基本と指導】 視覚障害児の抱える困難と自立活動の意義 特設時間における指導の進め方と指導内容
	第4回	【乳幼児期における支援】 盲学校幼児部の歩みと現状 幼児部における教育と視覚障害児の指導内容 幼稚園や保育所等に通う視覚障害児の援助
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席の状況や授業態度，レポート等を勘案して評価する。
	評価の方法	出席の状況や授業態度，レポート等を勘案して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	その他必要に応じてプリント配布	
	書籍名	視覚障害教育に携わる方のために
	著者名	香川邦生編著
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	
推薦図書等	ISBN・ISSN	
	書籍名	全盲校長からの手紙
	著者名	伊藤和男
	出版社	（株）大活字
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	視力0.06の世界
	著者名	視力0.06の世界
	出版社	ジアース教育新社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

視覚・聴覚障害教育総論 専特（根本）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 視覚・聴覚障害教育総論 専特（根本）

科目責任者 伊藤 和男

担当教員 根本 匡文

授業形態 講義

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 30006301

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

聴覚障害教育総論（根本 匡文）

授業のねらい・概要

授業は講義形式で進めるが、教育と支援の状況を具体的に理解してもらうために、多くの映像教材を用意する。受講者に発言を求め、対話や討論をする機会を適宜設定するので、積極的に授業に参加してほしい。

学生の達成目標

1. 聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として、聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。

授業内容

- | | | |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 第 1 回 | 【生理・病理・心理面からの聴覚障害の理解】
聴覚器官の構造
聴覚障害の原因
聴覚障害の分類
聴力レベルとオーディオグラム
聴覚補償の方法
活動の制限、参加の制約の状況 |
| | 第 2 回 | 【聴覚障害幼児・児童・生徒のコミュニケーションの方法】 |

		言語の構成要素 聴覚障害者の言語 手話の種類と特徴 指文字 聴覚口話法 トータルコミュニケーション バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ
	第3回	【聴覚障害者を対象とする特別支援学校における教育】 わが国の聾学校の概況 就学前指導・乳幼児教育相談における支援 幼稚部の教育内容と方法 小学部の教育内容と方法 中学部の教育内容と方法 高等部の教育内容と方法
	第4回	【聾重複障害児童生徒の教育，通常の学校で学ぶ聴覚障害児童生徒の支援】 聾知的障害児童生徒の教育 盲聾児童生徒の教育 聾重複障害者における言語の役割 難聴学級，通級指導教室における支援 通常の学級における支援 難聴児童生徒への対応の実際
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	レポート，受講態度などによって総合的に評価する。
	評価の方法	レポート，受講態度などによって総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	適宜プリントを配布する。	
推薦図書等	書籍名	改定版聴覚障害教育の基本と実際
	著者名	中野善達・根本匡文 編
	出版社	田研出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

学習障害・重複障害等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	学習障害・重複障害等教育総論
科目責任者	漆澤 恭子
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、幼稚園教諭免許状取得のための特別支援学校での実習経験や参観をふまえ、調査・発表・協議も取り入れ、できるだけ具体的な事例を多くして理解を深める。
-----------	---

学生の達成目標	1. LD、ADHD、広汎性発達障害などの障害特性について基本的な理解を図る 2. 重複障害について基本的な理解を図る 3. 望ましい教育的支援の方々について学ぶ
---------	---

授業内容	第1回 第1回 発達障害の理解 第2回 学習障害の基本的理解 第3回 学習障害の教育的支援 第4回 ADHDの基本的理解 第5回 ADHDの教育的支援 第6回 自閉症を中心とする広汎性発達障害の理解と支援 第7回 重複障害の理解と教育的支援の方法（特別支援学校での教育実践を中心に） 第8回 学習のまとめ
------	---

予習・復習の内容	予習 復習 展開
----------	----------------

成績評価	評価の基準	授業で取り上げた内容の理解度と授業への取り組み態度等により総合的に評価する。		
	評価の方法	学習態度	提出物	定期試験
教科書	書籍名	LD ADHD等関連用語集		
	著者名	日本LD学会		
	出版社	日本文化科学社		
	価格	1190円		
	ISBN・ISSN	isbn4-8210-7333-1		
推薦図書等				
参考URL				
備考				

言語障害教育総論 専特

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	言語障害教育総論 専特
科目責任者	堀 彰人
授業形態	講義
開講時期	後期
登録コード・曜日・時限	30006501

教室

単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	講義を中心とするが、その中で事例の紹介や、指導に関する実技等も含めて理解を深めていく。
-----------	---

学生の達成目標	1. 構音障害,吃音,言語発達の遅れ等に関する基礎的事項を学ぶ。 2. 子どもの言語障害に関する指導について,事例を通して学ぶ。 3. 学校における言語障害教育への指導に関する制度等について学ぶ。
---------	--

授業内容	第1回 第1回 言語障害の概要,指導の場や指導方法等の概略について学習する。 第2回 言語発達の基礎について学習する。 第3回 言語発達の遅れ,言語性学習障害等に関するアセスメント,指導(AACを含む)について学習する。 第4回 構音障害の基礎について学習する。 第5回 構音障害に関するアセスメント,指導について学習する。 第6回 吃音の基礎について学習する。 第7回 吃音に関するアセスメント,指導について学習する。 第8回 まとめ
------	---

予習・復習の内容	予習
----------	----

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	1．レポートの提出， 2． 期末テスト， 3． 学習参加態度
	評価の方法	1． レポートの提出， 2． 期末テスト， 3． 学習参加態度
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	なし	
推薦図書等	書籍名	子供がどもっていると感じたら
	著者名	廣瀨・堀
	出版社	大月書店他
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	随時紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

統合保育研究 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育研究 I

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

障害を持つ子どもも含めた子どもたち一人ひとりが見たり感じたりする枠組みについて共感的に理解することを通して、保育者の専門性について考える。

学生の達成目標

1. 事例研究や制作、体験活動を通して、障害を持つ子どもも含めた子どもたち一人ひとりに合った援助について考え、総合保育の理解を深める。
2. 幼児における障害理解について学ぶ。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション 授業内容、目的、進め方、評価について
第2回～第4回 総合保育における「遊び」とは
第5回 季節を感じる・時間の流れを感じる（1）
第6回～第7回 環境による保育とは
第8回～9回 障害理解とは
第10回～第13回 統合保育の実際
第14回 季節を感じる・時間の流れを感じる（2）
第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	・積極的に授業に参加している ・意見を交換しながら課題に対する理解を深めることができる ・授業の内容を理解することができる ・課題に対する自己の考えを適切に述べるることができる
	評価の方法	授業への取り組み態度と授業で取り上げた内容の理解度等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	資料配布	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

統合保育研究 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育研究 II

科目責任者 田村 光子

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「まち」と「子ども」をテーマに子ども主体の生活づくりにおける地域との連携について考える。障害のある子どもの地域での生活支援に参加し、必要な支援について考える。

学生の達成目標

1. 子ども主体の生活づくりについて学ぶ
2. 実践を通して、地域における子どもへの支援について考える

授業内容

第1回 第1回 ガイダンス
第2回～第8回 子どもの視点から暮らしを見る ～「子どもの道くさ」から
第9回～第12回 地域子育て支援の活動に見学・参観する
第13回～第15回 事例研究 いま求められる子育て支援とは

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準
出席 15%
レポート 80%
その他加点 5%

評価の方法	授業の出席を重視する。また授業を通してのレポート作成、提出を重視する。
-------	-------------------------------------

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

「こどもの道草」東信堂を参考図書とする

推薦図書等

参考URL

備考

統合保育研究 Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 統合保育研究 Ⅲ

科目責任者 黒田 静江

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

「統合保育」における音楽教育の果たす役割を考え、指導法を研究したり、指導例を発表・討議を行う。また統合保育が行われている幼稚園や保育園に見学参加実習に行き、統合保育に対する理解を深める。

学生の達成目標

1. 音楽教育の目的を踏まえながら、さまざまな指導法を学ぶ。
2. 保育現場で行われている「音楽と動き」の活動について学ぶ。
3. 統合保育がどのように行われているのか理解する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション
第2回 保育現場での音楽活動・音楽教育の目的とは何か
第3回～第4回 幼稚園での統合保育（見学・参加）
第5回 統合保育における音楽の果たす役割
第6回 感覚統合を目指したリズム運動
第7回～第8回 保育園での統合保育（見学・参加）
第9回～第10回 子どもの発達を促すさまざまな音楽活動
第11回 オルフの音楽教育について
第12回 リトミックの音楽教育について
第13回～第14回 音楽療法について
第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	レポート・研究発表・授業への参加態度などを総合的に評価する。		
評価の方法	レポート（40%）	研究発表（40%）	授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。

推薦図書等

書籍名 世界の歌を遊びリトミックゲーム67選
著者名 神原雅之 編著
出版社 明治図書
価格
ISBN・ISSN

書籍名 わくわく音遊びでかんたん発表会
著者名 細田淳子
出版社 すずき出版
価格
ISBN・ISSN

書籍名 世界教育メソードの比較
著者名 L チョクシー他
出版社 全音楽譜出版社
価格
ISBN・ISSN

書籍名 必ずラポールは築ける50のリズム歌あそび
著者名 城谷敬子 他
出版社 あおぞら音楽社
価格
ISBN・ISSN

参考URL

備考

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 特別支援教育実習

科目責任者 高倉 誠一

担当教員
松原 敬子
中坪 晃一
佐藤 慎二
漆澤 恭子
黒田 静江
浅川 繭子
田村 光子
相磯 友子
根本 曜子

授業形態 実習

開講時期 通期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別支援学校での教育実習を通して、特別支援学校の教員としての資質・能力を高める。

学生の達成目標

1. 特別支援教育で求められる専門的な知識・技能を身につける。
2. 子どもへの適切な指導・支援を学び実践する。
3. 教員の職務とその使命を理解する。

授業内容

第1回 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、次の内容を学ぶ。

1. 特別支援学校の学校生活の計画と実際を理解する。
 - ・一日、一週間、一年間の生活の流れ
 - ・教育課程の概要 など
2. 指導・指導計画の作成や授業の進め方を学ぶ。
 - ・各授業の年間計画や単元計画の実際

- ・指導計画や支援（指導）案の作成
 - ・授業計画の実際 など
3. 障害のある子どもへの適切な指導・支援を学ぶ。
- ・子ども個々の様子の把握の仕方
 - ・個別の指導（支援）計画
 - ・支援の実際－「できる状況づくり」の工夫
 - ・授業中の声かけや手助け など
4. 教師のあり方やなすべき様々な仕事の理解
- ・望ましい教師の姿
 - ・教材準備や学級便り作成等、教師の仕事の実際 など

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
	評価の方法	実習中の姿勢や意欲、指導案等書類の作成も含めた実習先の評価を参考に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 特別支援教育実習事前事後指導

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 実習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 特別支援学校での実習がよりよく行えるよう、実習の意義や必要性等の理解を深める。
2. 特別支援教育の教育課程の特色及び指導法の他、実習校の概要の理解を深める。
3. 支援（指導）案、記録簿の書き方や、子どもの様子の把握と支援等について学ぶ。

学生の達成目標

1. 特別支援学校における指導・支援の実践的体験を通して、特別支援学校教育従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに、専門的な知識・技能を身につける。

授業内容	第1回	1. 事前指導 ・実習の意義と目的 ・特別支援学校の概要の理解 ・児童・生徒への支援的対応について ・実習における態度 ・実習における自己目標の設定 ・実習にあたっての手続き ・指導案の書き方 ・実習日誌の意義と記入の仕方 ・実習先でのオリエンテーション 2. 特別支援学校での実習 3. 事後指導 ・実習日誌の整理 ・実習の自己評価 ・意見交換と反省・まとめ ・実習校との手続き(礼状・日誌の受け取り等)
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況の他、レポート等課題の提出状況を総合的に評価する。
	評価の方法	出席状況の他、レポート等課題の提出状況を総合的に評価する。
教科書		
	書籍名	特別支援学校学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	4 6 2
	ISBN・ISSN	
	書籍名	特別支援学校学習指導要領解説総則編等
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版
	価格	4 7 3
	ISBN・ISSN	
	書籍名	支援案の書き方 個別の支援計画
	著者名	太田俊己監修 千葉大学教育学部附属養護学校
	出版社	K&H
	価格	1 9 9 5

ISBN・ISSN

推薦図書等	書籍名	感じ合い 分かり合い 支え合い
	著者名	小出進
	出版社	
	価格	1 0 0 0
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 松原 敬子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 ・幼児の運動や健康に関する内容など、各自が自ら設定したテーマで研究に取り組み、修了研究をまとめる。

- 学生の達成目標
1. 自らの興味関心に基づいて具体的なテーマを設定していく。
 2. 調査・研究活動に取り組む。
 3. 発表・協議を重ね、報告書にまとめていく。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（修了研究の進め方）。
	第2回～第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
	第4回～第33回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
	第34回	各自の研究課題の発表・協議。
	第35回～第49回	関係資料の収集・文献研究。
	第50回	中間発表。
	第51回～第52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について。
	第53回～第57回	論文の加筆過程での相談支援。
	第58回～第59回	論文の加筆・修正。論文の提出
	第60回	修了研究発表会

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	修了研究（60％）・学習参加態度（40％）
	評価の方法	取り組みへの姿勢を考慮し、研究の結果を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	各自のテーマに合わせて、参考書籍を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 高倉 誠一

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 それぞれの問題関心に応じて、テーマを定め、学生自ら主体的に研究を積み重ねる。

学生の達成目標 1. 知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場一幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。

授業内容 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。
第60回 修了研究発表会。

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		特になし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 浅川 繭子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼稚園、保育所等の子どもの生活や保育者の援助に関する研究テーマを設定し、研究活動に取り組み、論文の作成を通してテーマに関連する知識・理解を深める。

学生の達成目標

1. 各自の興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。
2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。
3. 発表・協議を重ね、修了研究を作成する。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（修了研究の進め方）
	第2回～第3回	一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討
	第4回～第33回	テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む
	第34回	各自の研究課題の発表・協議
	第35回～第49回	関係資料の収集・文献研究
	第50回	中間発表
	第51回～第52回	論文の構成・体裁、執筆方法等について
	第53回～第57回	論文の加筆過程での相談支援
	第58回～第59回	論文の加筆・修正 論文の提出
	第60回	修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
	評価の方法	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		各自のテーマに合わせて、参考文献を紹介する。
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 黒田 静江

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

幼児の音楽や表現の指導法等に関する研究テーマを設定し、文献や保育現場での観察記録等を収集して分析・検討を行い、報告書をまとめる。保育の場に関わりをもって、自らの問題意識を高めることを重視する。

学生の達成目標

1. 各自の研究テーマを設定し、先行研究や文献など情報収集をする。
2. 保育現場での実習や、ボランティアなど経験したことを基に、研究を深める。
3. 研究結果を分かりやすく書き、他者に伝わるようにする。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出
第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	自分なりにテーマに向き合い，努力して研究を進められたか。また意見や助言を受けとめ，意欲的に研究できたかなどを考慮し，研究報告の成果を総合的に評価する。		
評価の方法	研究レポート（50%）	研究過程（30%）	授業への参加態度（20%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
各自のテーマに合わせて、参考書籍を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 中坪 晃一

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 それぞれの問題関心に応じて、テーマを定め、学生自ら主体的に研究を積み重ねる。

学生の達成目標

1. 知的障害のある子ども、青年、大人の生活の場一幼稚園、保育所、特別支援学校、各種障害関係施設等を中心に、参観やボランティア等を積み重ねて、生活の整え方や障害のある人への支援について理解を深める。

授業内容

- 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出。
第60回 修了研究発表会。

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
	評価の方法	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		なし
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 相磯 友子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

特別なサポートを必要とする子ども・青年・成人に関する事象について、各自が設定したテーマで研究活動に取り組み、論文の作成と通してテーマに関連する知識・理解を深める。調査等の実施方法、論文の作成方法を習得する。

学生の達成目標

1. 興味関心と関連する文献調査から、研究テーマを設定する。
2. 研究テーマに即して、適切な調査等を実施する。
3. 研究テーマの位置づけ・調査等の結果・考察をわかりやすくまとめ修了研究を作成する。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む
第34回 各自の研究課題の発表・協議
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究
第50回 中間発表
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援
第58回～第59回 論文の加筆・修正、論文の提出
第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況
評価の方法	修了研究の内容と作成過程、発表、討論への参加状況等により総合的に評価する。

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
各自の研究テーマに合わせて参考文献を紹介する。

推薦図書等

参考URL

備考

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 漆澤 恭子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を中心に行うが、全体での検討会も適宜設けお互いの研究視野を広げる。

学生の達成目標

1. 通常の学級における特別な教育支援を必要とする子供たちへの対応および学級経営に関連した内容について、各自が設定したテーマで研究活動に取り組み修了研究としてまとめる

授業内容

- 第1回
- 1 オリエンテーション(修了研究の進め方)
 - 2～3 一人一人の関心などについて意見交換をし、課題設定について
 - 4 構成の仕方、執筆方法などについて
 - 5～33 テーマに基づく参観や資料収集
 - 34 各自の研究課題の発表・協議
 - 35～49 関係資料の収集・文献研究
 - 50 中間発表
 - 51～59 論文の加筆・修正・提出
 - 60 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	取り組みの姿勢 論理性 論文構成
	評価の方法	研究活動の態度、論文内容、成果などを総合的に評価する
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	必要とする参考文献等は紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

・学生の主体的取り組みを大切にし、その支援に努める。・個別の支援・指導を多くするが、全体で集まる機会を適宜設ける。

学生の達成目標

- 子どもをとりまく様々な課題の中から、興味関心に基づき具体的な課題を設定し、調査・研究活動に取り組み、発表・協議を行い報告書にまとめる。

授業内容

第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表。
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出
第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価	評価の基準	実際の生活の場での体験に基づく、自らの気づきや意見、努力の様子及び研究報告の成果などを総合的に評価する。		
	評価の方法	研究レポート（ 60%）	研究過程（ 20%）	授業への参加態度（ 20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。			
	なし			
推薦図書等				
参考URL				
備考				

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 山本 邦晴

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実際の保育や教育場面に関わりをもって、自ら問題意識を高めることを重視する。2. テーマや進路先とも関連させながらの個別的な支援を丁寧に行うことを重視する。

学生の達成目標

1. 保育や教育の場、あるいは学校卒業後の場における、知的障害のある子ども・青年の理解や支援に関連したテーマで実践研究に取り組み、修了研究をまとめる。

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーションー修了研究の進め方や年間の見通しについての確認。
第2回～第4回 各自の興味関心に関する意見交換とテーマ設定に関する相談。
第5回～第8回 修了研究のテーマ、その構成の仕方、執筆方法についてのモデルの提案と検討。
第9回～第30回 資料収集・文献研究
第31回 各自の研究課題の発表と協議
第32回～第49回 資料整理・論文執筆
第50回 中間発表会
第51回～第59回 論文の加筆・修正・提出
第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	修了研究への意欲・熱意、修了研究の成果等を総合的に評価する。
	評価の方法	修了研究への意欲・熱意、修了研究の成果等を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	学生のテーマに合わせて、参考文献・資料等を紹介する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

修了研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 修了研究

科目責任者 田村 光子

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

地域での子育て支援および相談支援にかかわる研究テーマを設定し、各自研究に取り組み、修了研究としてまとめる。

学生の達成目標

1. 実際の生活の場にかかわりをもって、自ら問題意識を深める
2. 個別の支援・指導を基本に、中間発表会等全体で集まる機会を適宜設ける

授業内容

第1回 第1回 オリエンテーション（修了研究の進め方）。
第2回～第3回 一人ひとりの関心等について、意見交換し、課題設定について検討。
第4回～第33回 テーマに基づき、参観や資料収集に取り組む。
第34回 各自の研究課題の発表・協議。
第35回～第49回 関係資料の収集・文献研究。
第50回 中間発表
第51回～第52回 論文の構成・体裁、執筆方法等について。
第53回～第57回 論文の加筆過程での相談支援。
第58回～第59回 論文の加筆・修正。論文の提出
第60回 修了研究発表会

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価	評価の基準	レポート作成過程（３０％） レポート内容（４０％） 授業への参加態度（３０％）
	評価の方法	レポートの作成過程とその内容
教科書		教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。
		随時参考文献など紹介する
推薦図書等		
参考URL		
備考		

キャリアガイダンス

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門基礎科目

授業科目名 キャリアガイダンス

科目責任者 川村 博子

担当教員 井口 ひとみ
今井 訓子
清宮 宏臣
中西 正人

授業形態 演習

開講時期 通期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

講義やグループワーク、講演などを通し、キャリアについて考える。また、将来の自分の状況をイメージしながら、学習がすすむように展開する。

学生の達成目標

1. 自らの就職観、勤労観を培うとともに自己の考え方・行動の傾向を知り、社会に適応できる方法を身につける
2. 将来の自分がイメージできるとともに就職活動に必要な心構えを身につける。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション、自己理解を深める、職業選択について
	第2回	進路について考える（キャリアについて・職場定着について）
	第3回	情報収集
	第4回～第5回	グループワーク
	第6回	アサーティブ講座
	第7回	卒業生のお話を聞く会
	第8回	講演会
	第9回	ストレスマネジメント講座
	第10回	ライフプラン（保険）講座
	第11回	職場定着のための労働・社会保障関係法の知識
	第12回	ハラスメント講座

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	提出レポート、授業参加態度等。
	評価の方法	提出レポート、授業参加態度等、総合的に評価する
教科書	書籍名	進路ガイドブック
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護保険制度とその他の諸制度 専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護保険制度とその他の諸制度 専攻科

科目責任者 松井 奈美

担当教員 川村 博子

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20000301

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

各制度の背景や仕組みを講義で学習した後、介護福祉実践における制度活用の在り方を具体的に説明できることを目指したグループ学習を行う。

学生の達成目標

1. 高齢者福祉の要「介護保険制度」、障害者福祉の要「障害者総合支援法」、関連する諸制度を概観した上で、介護福祉実践に必要な制度理解を深める。

授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 第1回 | 第1回 オリエンテーション、社会保障制度の概要を確認（復習）する。 |
| | 第2回 我が国の介護保険制度創設の背景と目的、変遷について理解する。 |
| | 第3回 介護保険制度の仕組みを理解する。 |
| | 第4回 介護保険サービス利用の流れと介護サービスの種類について学ぶ。 |
| | 第5回 日本の介護保険制度の課題と展望について考察する。 |
| | 第6回 介護保険制度と関連諸制度との関係及び各専門職の役割を理解する。 |
| | 第7回 障害者総合支援法創設の背景と目的、動向について学ぶ。 |
| | 第8回 障害者総合支援法の仕組み①（自立支援給付・利用者負 |

担・障害福祉事業者・施設・専門職と役割について学ぶ)
第9回 障害者総合支援法の仕組み②（障害者福祉サービス利用の流れ・種類と内容，組織・団体の役割について学ぶ）
第10回 介護福祉実践に関連する諸制度①（日常生活自立支援事業・成年後見制度等についてグループ学習したことを発表する）
第11回 介護福祉実践に関連する諸制度②（高齢者虐待防止法・高齢者保健医療制度についてグループ学習したことを発表する）
第12回 介護福祉実践に関連する諸制度③（介護予防施策・難病対策・感染症予防などの制度についてグループ学習したことを発表する）
第13回 介護福祉実践に関連する諸制度④（医療関係者に関する制度・法律，医療関係施設に関する制度についてグループ学習したことを発表する）
第14回 介護福祉実践に関連する諸制度⑤（生活保護法・老人福祉法・諸外国の社会保障制度についてグループ学習したことを発表する）
第15回 介護福祉専門職としての諸制度理解の必要性を確認する（まとめ）
第16回 試験
第7回～第9回…川村担当，その他…松井担当

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	小テスト，レポート，グループ学習への取り組み：30%，期末試験：70%（松井50%，川村20%）で評価する。
	評価の方法	小テスト，レポート，グループ学習への取り組み：30%，期末試験：70%（松井50%，川村20%）で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』中央法規出版	
	書籍名	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』
	著者名	
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

書籍名 必要に応じて紹介する。

著者名

出版社

価格

ISBN・ISSN

☐ 上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

介護福祉特論

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護福祉特論

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
川村 博子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 国家試験の合格に相応する内容に準じた卒業時共通試験に合格できる実力を養う。
2. 初回に模擬試験を行い、その解答と解説を各授業回で学びながら主体的な学習につなげていく。
3. 本試験の直前に再度模擬試験を行い、学習によって養われた自己の実力を確かめる。

学生の達成目標

1. 介護福祉教育の総仕上げとして関連する専門知識を統合し身につける。

授業内容

- | | | |
|-----|------|-------------------------|
| 第1回 | 第1回 | 模擬試験 ① |
| | 第2回 | 人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション |
| | 第3回 | 社会の理解 |
| | 第4回 | 発達と老化の理解 |
| | 第5回 | 認知症の理解 |
| | 第6回 | 障害の理解 |
| | 第7回 | コミュニケーション技術 |
| | 第8回 | 介護の基本 |
| | 第9回 | こころとからだのしくみ |
| | 第10回 | 生活支援技術 その1 |

第11回 生活支援技術 その2
第12回 介護過程 その1
第13回 介護過程 その2
第14回 模擬試験 ②
第15回 卒業時共通試験

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	共通試験において60%以上正答できた者を合格とし、出席状況と得点に応じて成績評価する。
	評価の方法	共通試験において60%以上正答できた者を合格とし、出席状況と得点に応じて成績評価する。

教科書	書籍名	目で見て覚える！介護福祉士国試ナビ
	著者名	いとう総研資格取得支援センター編
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	授業の中で必要に応じて示す。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

介護の基本 I（介護福祉論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 I（介護福祉論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護の歴史を踏まえての現状把握、新しい法改正下の介護福祉士の役割と義務が理解できるようにする。諸外国の状況から自国の課題を見出せるようになる。

学生の達成目標

1. 超高齢社会を担う介護福祉士としての社会的役割を理解できる。
2. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
3. 介護におけるチームケアについて学ぶ。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス 介護の歴史：小説、体験記から学ぶ家族介護の変化
	第2回 現代社会と介護－介護問題の背景
	①－日本の高齢化の特徴、家族形態、家族機能
	第3回 現代社会と介護－介護問題の背景
	②－老老介護、孤独死、高齢者虐待、認知介護
	第4回 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
	①尊厳を与える介護（ノーマライゼーション、QOL利用者主体、自立支援、個別ケア、ICF）
	第5回 社会福祉士及び介護福祉士法
	①定義、介護従事者倫理、養成制度
	第6回 社会福祉士及び介護福祉士法
	②専門職能団体の活動
	第7回 介護実践における連携
	①他職種連携－チームの種類と機能、連携の意義
	第8回 介護実践における連携
	②他職種連携－他の福祉職との連携

第9回 介護実践における連携
③他職種連携－保健医療職との連携、医療行為
第10回 介護実践における連携
④地域連携－地域連携の意義と目的
第11回 介護実践における連携
⑤地域連携－インフォーマルな社会資源の重要性
第12回 介護実践における連携
⑥地域連携－地域包括支援センターの機能と役割、行政
第13回 海外における介護福祉の動向
第14回 今後の介護福祉の課題
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護の基本 II（介護対象論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護の基本 II（介護対象論）
科目責任者	布施 千草
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面から解説し、それらの人とどう向き合うか考えていく。

学生の達成目標

1. 介護を必要とする人の理解を生活面、健康面、ライフサイクル面の特徴を知り、その人への介護（特に尊厳を支える介護）について考えていく。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス VTR 尊敬を支える介護の基本
	第2回 介護を必要とする人の理解 I－①人間の多様性・複雑性の理解（生活史）
	第3回 介護を必要とする人の理解 I－②人間の多様性・複雑性の理解（生活習慣・生活様式）
	第4回 介護を必要とする人の理解 I－③高齢者の暮らしの理解（世帯構成、役割、社会活動）
	第5回 介護を必要とする人の理解 I－④高齢者の暮らしの理解（住まいと環境、収入、雇用）
	第6回 介護を必要とする人の理解 I－⑤障害のある人の暮らしの理解（生活ニーズ）
	第7回 介護を必要とする人の理解 I－⑥障害のある人の暮らしの理解（生活を支える基盤）
	第8回 介護を必要とする人の理解 I－⑦生活環境としての地域の存在
	第9回 介護を必要とする人の理解 II－VTR「声を取り戻した2年間」：尊厳を支える介護の基本 II
	第10回 介護を必要とする人の理解 II－①高齢者の身体的・心理的特徴

第11回 介護を必要とする人の理解 II－②障害者の身体的・心理的特徴
第12回 介護を必要とする人の理解 II－③終末期にある人の理解 I
第13回 介護を必要とする人の理解 II－④終末期にある人の理解 II
第14回 介護を必要とする人の理解 II－⑤終末期にある人の理解 III
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	
	評価の方法	試験70%、レポート30%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第3巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本 Ⅲ（リスクマネジメント）

科目責任者 今井 訓子

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

具体的な事例をもとにグループワークを取り入れ、リスクマネジメント、セーフティマネジメントを考える。介護従事者が陥りやすい健康障害とその予防対策について知識を深める。

学生の達成目標

1. リスクマネージメントの目的を理解する。
2. 介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。
3. 施設介護、在宅介護の場における事故についての知識を深め、その予防法について学ぶ。

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス、リスクマネージメントの考え方
第2回 セーフティマネジメント（介護の質の向上と安全確保）
第3回 リスクコントロール・リスクファイナンス
第4回 介護における安全確保とリスクマネジメント ①ヒヤリハット事例の分析
第5回 介護における安全確保とリスクマネジメント ②施設内の事故の特徴と対策
第6回 介護における安全確保とリスクマネジメント ③在宅での事故の特徴と対策
第7回 介護における安全確保とリスクマネジメント ④医療対応時（受療、服薬、医療行為）
第8回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑤感染予防
第9回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑥緊急時の対応
第10回 介護における安全確保とリスクマネジメント ⑦防災時のネットワーク

第 11回 認知症高齢者の事故対策
第 12回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理）①心の健康管理（スーパービジョンの存在）
第 13回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理）②腰痛等身体の健康管理（福祉用具の活用）
第 14回 介護従事者の安全（介護従事者の心身の健康管理）③感染予防の対策と労働安全（関係法規）
第 15回 まとめ（セーフティマネジメントとの関連）

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開
成績評価	評価の基準
	評価の方法
教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	

介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）専攻科

科目責任者 宮崎 陽夫

担当教員 山崎 敦

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010805

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 リハビリテーション医学から考える介護論

学生の達成目標

1. 高齢者の肢体不自由をきたす疾患の概略を例示しながら障害について述べ、同時にリハビリテーションの考え方とそれに基づく介護論を総論的に述べる。それによって、介護に客観的、科学的な思考ができるようにする。

授業内容

- 第1回 第1回 リハビリテーション医学と介護(オリエンテーション,リハビリテーション概論)
第2回 リハビリテーション医学と介護(リハビリテーション概論)
第3回 障害の医学的基礎知識(神経・生理学)
第4回 障害の医学的基礎知識(骨・筋肉解剖)
第5回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション(進行性疾患)
第6回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション(脳血管疾病)
第7回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション(骨折)
第8回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション

(運動麻痺) 第9回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション (言語・排尿・嚥下障害) 第10回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション (脊髄損傷・切断) 第11回 高齢者の機能障害をきたす疾病およびリハビリテーション (廃用症候群) 第12回 認知症のリハビリテーション 第13回 シーティングについて 第14回 終末期のリハビリテーション 第15回 まとめ		
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末試験，出席状況
	評価の方法	期末試験，出席状況
教科書	書籍名	最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	介護福祉士養成講座（4） リハビリテーション論
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護の基本Ⅴ（レクリエーション） 専介

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本Ⅴ（レクリエーション） 専介

科目責任者 八鍬 拓

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20010901

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 福祉的視点に立ったレクリエーションの基礎理論と集団コミュニケーションの指導体験

学生の達成目標 1. 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるために、生活の一部であるレクリエーション援助の実践力の育成をねらいとする。

授業内容

- 第1回 第1回 ガイダンス（「尊厳の保持」「自立支援」のためのレクリエーション）
第2回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解①
第3回 講義：介護を必要とする人の理解とレクリエーションの基本的理解②
第4回 講義：レクリエーションの活動領域と意義①
第5回 講義：レクリエーションの活動領域と意義②
第6回 講義：レクリエーション活動の主体
第7回 講義：レクリエーション計画作成及び実施
第8回 講義：レクリエーション指導者の配慮
第9回 講義：レクリエーション活動の実践
第10回 講義：高齢者・障害者レクリエーションの実際
第11回 講義：レクリエーションワークの指導法
第12回 集団レク援助実習 1

第13回 集団レク援助実習 2
第14回 集団レク援助実習 3
第15回 まとめと評価

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
	評価の方法	出席状況，学習態度，意欲等を総合して評価する。
教科書	書籍名	新版・介護福祉士養成講座⑥レクリエーション活動援助法
	著者名	
	出版社	中央法規出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	遊びでリハビリ
	著者名	
	出版社	日本レクリエーション協会
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護の基本VI（介護サービス事務） 専介

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護の基本VI（介護サービス事務） 専介

科目責任者 福岡 浩

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20011001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護保険制度の仕組みを理解したい上で、介護報酬の算定の実務知識を理解する。

学生の達成目標 1. 介護保険制度全般を学ぶと共に、介護給付費に関わる請求事務に精通し、実務全般に習熟して、即戦力として実務に従事できる実力を養う。

授業内容	第1回	第1回 テキスト第一章 共通事項 1. サービス全般にわたる共通事項 第2回 テキスト第一章 共通事項 2. 通則 第3回 テキスト第二章 居宅サービス 1.訪問介護 2.訪問入浴介護 第4回 テキスト第二章 居宅サービス 3.訪問看護 4.訪問リハビリテーション 第5回 テキスト第二章 居宅サービス 5.居宅療養管理指導 6.通所介護 第6回 テキスト第二章 居宅サービス 7.通所リハビリテーション 8.福祉用具貸与 第7回 テキスト第二章 居宅サービス 9.短期入所生活介護 10.短期入所療養介護 第8回 テキスト第二章 居宅サービス 11.特定施設入居者介護 12.居宅介護支援 第9回 テキスト第三章 地域密着型サービス 第10回 テキスト第四章 施設サービス
------	-----	--

		第11回 テキスト第五章 公費請求方法 第12回 練習問題 様式第二, 様式第八の事例問題の解答, 解説 第13回 練習問題 様式第二, 様式第八の事例問題の解答, 解説 第14回 模擬試験 (90分) 第15回 練習問題 様式第二, 様式第八の事例問題の解答, 解説 及び振り返り
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	出席状況, 受講態度により総合的に評価し, 認定試験60点以上
	評価の方法	出席状況, 受講態度により総合的に評価し, 認定試験60点以上
教科書	書籍名	介護保険事務士養成テキスト (実務編)
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	介護給付費単位数等サービスコード表
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	必要に応じて随時資料配布
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅱ 手話 専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ 手話 専攻科

科目責任者 根本 匡文

担当教員 高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20001205

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

手話 (根本 匡文)

授業のねらい・概要

聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話技術の基礎を身につけ、さらに、聴覚補償やさまざまな視覚情報を活用してコミュニケーションを充実させる方法を習得する。あわせて、聴覚障害全般についての理解を深める。

学生の達成目標

1. 授業方法については、基礎的な手話の習得を図るために手話実技の演習を行うとともに、聴覚補償や視覚情報を活用してコミュニケーションを充実させる方法について講義を行う。演習や講義を進める中で、聴覚障害全般に関する理解が深まるように留意する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|---|
| 第1回 | 第1回 | 手話実技：あいさつ，自己紹介，家族の表現
講義：聴覚障害の原因と二次・三次障害の表れ方 |
| | 第2回 | 手話実技：天気／季節，動作，好き／嫌いの表現
講義：聴覚障害者のコミュニケーションの方法 |
| | 第3回 | 手話実技：質問，数／年齢，時間の表現
講義：手話の種類，構造，特徴 |
| | 第4回 | 手話実技：月日／曜日，時制，形容の表現
講義：聴覚補償の実際 |

- 第5回 手話実技：可能／必要，する／される，交通機関の表現
講義：文字や視覚情報の活用
- 第6回 手話実技：比較，違う／同じ，医療の表現
講義：聴覚障害者の社会生活
- 第7回 手話実技：強い／弱い，目的／目標，食事の表現
講義：聾重複障害者，盲聾者の支援
- 第8回 手話実技：復習とまとめ
講義：聴覚障害者の生活の質の向上

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験，レポート，受講態度等により総合的に評価する。
	評価の方法	試験，レポート，受講態度等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	N H Kテレビテキスト「みんなの手話」
	著者名	
	出版社	N H K出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

コミュニケーション技術Ⅱ 点字 専攻科

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ 点字 専攻科

科目責任者 根本 匡文

担当教員 高橋 恵子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20001205

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

点字 (高橋 恵子)

授業のねらい・概要

基本的な点字を誰でも難しく考えることなく学ぶ。その他、手引き介助については、実践的に学んでいく。

学生の達成目標

1. 点字の基本的な学習を行い、視覚障害を持つがゆえの特性を考慮した介護技術、視覚障害者に関する諸問題、視覚障害リハビリテーションなど、視覚障害全般について学習する。理論だけでなく、実際に役立つ事項を多く学習する。

授業内容

- | | | |
|-----|-----|-----------------------|
| 第1回 | 第1回 | 視覚障害とは。発生原因・視覚判定の方法 |
| | 第2回 | 視覚障害者補助器具の種類と機能 |
| | 第3回 | 視覚障害とコミュニケーション。情報伝達方法 |
| | 第4回 | 視覚障害の歴史と視覚障害教育の歴史制度 |
| | 第5回 | 視覚障害者の暮らし |
| | 第6回 | 点字技術演習(1) |
| | 第7回 | 点字技術演習(2) |
| | 第8回 | 総括・討論 |

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	授業態度50点, 試験結果50点
	評価の方法	授業態度50点, 試験結果50点
教科書	書籍名	初めての点訳 第2版
	著者名	全国視覚障害者情報提供施設協会編
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	特になし
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術 I（参加・環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術 I（参加・環境）
科目責任者	井口 ひとみ
担当教員	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	高齢者・障害者の生活について理解し、その人らしい生活をすごすことができるよう、加えて環境整備について具体的に考えることができる。
-----------	--

学生の達成目標	1.	生活支援技術における生活支援について理解できる。人間としての尊厳を保持し、利用者が自らの生き方を主体的に実現できる生活支援の在り方が理解できる。
	2.	環境を整えて活用するとともに、利用者が自らの持てる力を生かした生き方をできる生活支援の在り方が理解できる。
	3.	生活支援における社会参加を理解する。

授業内容	第1回	第1回 オリエンテーション、生活形成のプロセスや生活行動について 第2回 生活支援するとは（対象者、生活支援の内容その他） 第3回 居住環境整備の整備に向けて（ベッドメイキングの演習1） 第4回 居住環境整備の整備に向けて（ベッドメイキングの演習2） 第5回 居住環境整備の整備に向けて（ベッドメイキングの演習3） 第6回 居住環境整備の整備に向けて（ベッドメイキングの演習4） 第7回 居住環境整備の整備に向けて（ベッドメイキングの演習5）
------	-----	---

- 第8回 I C Fと生活支援について（1）
- 第9回 I C Fと生活支援について（2）
- 第10回 居住環境に整備に向けて（1）
- 第11回 居住環境に整備に向けて（2）
- 第12回 居住環境に整備に向けて（3）
- 第13回 生活行為への支援
- 第14回 生活行為への支援
- 第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600 + 税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅱ（移動）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術Ⅱ（移動）

科目責任者 中西 正人

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

移動に関する課題を学生が主体的に調べ発表と批評をしながら理解を進められる機会を設ける。移動に関するプラス面と安全の大切さについてグループワークを通じて学ぶ機会を設ける。

学生の達成目標

1. 生活支援技術における移動について全人的に理解することができる。
2. 人間としての尊厳を保持し、利用者が自らの生き方を主体的に実現できるように支援することができる。
3. 環境を整えて活用すると共に、利用者が自らの持てる力を生かした生き方をしていける様に支援することができる。

授業内容

- 第1回 第1回 自立に向けた住環境
第2回 移動の介護の基本
第3回 移動に関するアセスメントと目標設定 ①本人の観点
第4回 移動に関するアセスメントと目標設定 ②「心身機能」「身体構造」からの観点
第5回 移動に関するアセスメントと目標設定 ③「活動」「参加」からの観点
第6回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護
第7回 安全で的確な移動介助の方法 ①基本的留意点・立ち上がり動作とボディメカニクス
第8回 安全で的確な移動介助の方法 ②コミュニケーション観察と環境整備
第9回 安全で的確な移動介助の方法 ③観察と環境整備、アセス

	メントに基づく介助 第10回 安全で的確な移動介助の方法 ④体位交換 I・II、歩行介助 第11回 安全で的確な移動介助の方法 ⑤車いす介助 第12回 他の職種の役割と協働 第13回 移動介護演習 ① 第14回 移動介護演習 ② 第15回 1 移動における介護演習を振り返って・まとめ	
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験 5 0 %、レポート 2 0 %、演習内容 2 0 %、出席率 1 0 %
	評価の方法	試験 5 0 %、レポート 2 0 %、演習内容 2 0 %、出席率 1 0 %
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 II
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術 Ⅲ（食事）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 生活支援技術 Ⅲ（食事）

科目責任者 中西 正人

担当教員 井口 ひとみ

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

食事に関する介護技術を事例で説明し、演習で介助者・利用者の体験をすることから、食事の意義を考えられるように図る。

学生の達成目標

1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた食事の介護技術について理解できる。

授業内容

第1回	第1回	ガイダンス、自立に向けた食事の介助：食事の意義と目的
	第2回～第3回	食事に関する利用者のアセスメント
	第4回～第5回	「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
	第6回	安全で的確な食事介助
	第7回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
	第8回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
	第9回	認知・知覚機能が低下している人の介助（事例検討）
	第10回	誤嚥・窒息の防止のための日常生活の留意点
	第11回	脱水予防
	第12回～第13回	食事介助（演習）
	第14回	他職種役割と協働（経管栄養を行っている人の介護の留意点）
	第15回	まとめ

予習・復習の内容

予習

	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験 70%、レポート 20%、出席率 10%
	評価の方法	試験 70%、レポート 20%、出席率 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第5巻・第6巻
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	適宜紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術 IV（清潔・入浴）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術 IV（清潔・入浴）
科目責任者	中西 正人
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

清潔に関して、特に入浴について講義および演習を行う。演習では一般的な家庭浴槽や寝台浴槽などに実際に入る。そのほか、寝たまま行う全身清拭や洗髪について演習を行う。

学生の達成目標

1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すことや見守ることも含めた入浴・清潔の介護技術について理解できる。

授業内容

第1回	第1回	オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方など）、清潔について（意義と目的）
	第2回	入浴、清潔に関して；支援を要する利用者の様子
	第3回	入浴、清潔にむけた利用者のアセスメントの視点
	第4回	爽快感・安楽を支える介護（入浴を楽しむ環境作りや安全で安楽な入浴）
	第5回	入浴に関して（効果とリスク）
	第6回	入浴に関して（浴槽の種類）
	第7回～第8回	感覚機能・運動機能・認知機能・知覚機能が低下している人の介助の留意点（事例検討）
	第9回～第10回	入浴・シャワー浴の介護（演習）
	第11回～第13回	洗髪、全身清拭、足浴（演習）
	第14回	他職種との役割と協働
	第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	

成績評価	評価の基準	参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。
	評価の方法	参加状況（態度や意欲など）、課題レポート、試験などを総合的に評価する。

教科書	書籍名	生活支援技術 I 基本編
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	新しい介護
	著者名	大田仁史・三好春樹
	出版社	講談社
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL	
-------	--

備考	
----	--

生活支援技術 V（身じたく）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術 V（身じたく）
科目責任者	中西 正人
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 身じたく・整容に関する介護技術の内容である。

学生の達成目標 1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた身じたく・整容の介護技術について理解できる。

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、自立に向けた身支度の介護：身じたくの意義と目的
		第2回～第3回	身じたくに関する利用者のアセスメント
		第4回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護
		第5回	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメント
		第6回	整容行動、衣生活の介助の技法（洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等）
		第7回	整容行動、衣生活の介助の技法（口腔の清潔、衣服着脱）
		第8回	口腔の清潔、爪切り（演習）
		第9回	衣服着脱（演習）パジャマ
		第10回	洗面、整髪、化粧（演習）
		第11回	感覚機能が低下している人の介助（事例検討）
		第12回	運動機能が低下している人の介助（事例検討）
		第13回	認知機能が低下している人の介助（事例検討）
		第14回	他職種の役割と協働
		第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験 50%、レポート 20%、演習態度20%、出席率 10%
	評価の方法	試験 50%、レポート 20%、演習態度20%、出席率 10%
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 6 生活支援技術 II
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

生活支援技術 VI（排泄）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術 VI（排泄）
科目責任者	井口 ひとみ
担当教員	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	前期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 利用者に行われている排泄介護の状況が適切かどうか考えることができ、日常生活の機能拡大が図れるような具体的な工夫ができる。

- 学生の達成目標**
1. 学生自身の体験を取り入れながら排泄について考えることができる。
 2. 利用者がその人らしい生活を過ごすことができるような排泄の介護が考えられるようにする。

授業内容	第1回	第1回～第2回 ガイダンス、排泄の意義、目的、排泄の解剖・生理的機序 第3回 おむつ着用による排泄と生活体験（課題）のグループワークと発表、正常な排泄とできる条件について（課題）（講義、演習） 第4回～第6回 気持ちよい排泄をささえる介護、（課題）男性の下着と排泄について、を含む、排泄障害を支える介護（講義、演習） 第7回 安全的確な排泄の介助の技法（トイレ・ポータブルトイレ、採尿器・差し込み便器、おむつ）（講義） 第8回 排泄ケア用品の理解と排泄に関する公的制度の活用（講義） 第9回～第10回 数種類のおむつの吸水実験と排泄の介護の技法（演習） 第11回～第12回 その人らしい生活のためのよりよい排泄のケアになっているか。（成功事例を使用して）（講義、演習）
-------------	-----	--

第13回～第14回 他職種の役割と協働（坐薬、浣腸、留置カテーテル含む）（講義、演習）
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	テスト（ 70%） 課題レポート（ 3 0 %）
	評価の方法	テスト及び課題発表により評価する。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	川井太加子
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3600+税
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅶ（睡眠・終末期）
科目責任者	中西 正人
担当教員	井口 ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	睡眠に関する安楽な技法を理解するために自己の体験発表やグループワークを取り入れる。緊急時の対応を理解すると共に、在宅ターミナルケアや介護施設での見取りについて考えられるようになる。
-----------	--

学生の達成目標	1. 尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重する。睡眠に関するアセスメントができ、安楽な支援ができる。 2. 緊急時や終末期の援助技術、またグリーフケアが理解できる。
---------	--

授業内容	第1回	第1回 ガイダンス、自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義、目的 第2回 睡眠に関するアセスメント 第3回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法、安眠に関する環境 第4回 利用者の状況による介助の留意点 第5回 安眠のための介護、安眠を促す介護の技法 電法、マッサージ（演習） 第6回 緊急時のアセスメント 第7回 緊急事故時の状況観察と応急手当（演習） 第8回 終末期における介護の意義と目的（事前意思確認） 第9回 利用者のアセスメントと医療との連携（ICFに基づく看取りのための制度） 第10回 終末期における介護、緩和ケア 第11回 臨終時の対応、在宅ターミナルケア、死後の処置 第12回 死後の処置（演習）
------	-----	--

第 13回 グリーフケア
第 14回 事例検討
第 15回 事例を通してのまとめ

予習・復習の内容	予習
	復習
	展開

成績評価	評価の基準	試験 70%、レポート 30%
	評価の方法	試験 70%、レポート 30%

教科書	書籍名	最新介護福祉全書 5 生活支援技術 I 基本編
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	

推薦図書等	書籍名	適宜紹介する。
	著者名	
	出版社	
	価格	
	ISBN・ISSN	

参考URL

備考

生活支援技術Ⅷ（障害別）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	生活支援技術Ⅷ（障害別）
科目責任者	井口 ひとみ
担当教員	中西 正人
授業形態	演習
開講時期	後期
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

心身の障害とその障害を持つ人々の状況を理解し、生活支援が理解できる。課題学習をしたことをプレゼンテーションできる。

学生の達成目標

1. 運動機能障害を持つ人の状況を理解し、それらの人への生活支援が理解できる
2. 感覚機能障害を持つ人の状況を理解し、それらの人への生活支援が理解できる
3. 内部障害を持つ人の状況を理解し、それらの人への生活支援が理解できる。
4. 課題学習をしたことをプレゼンテーションできる。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス （各回内容の組立ての決定については初回ガイダンス時お知らせする） 第2回 片麻痺のある人の生活支援（例：脳血管障害の人） 第3回 運動および知覚機能に障害がある人の生活支援（例：脊髄損傷の人） 第4回 関節痛や関節可動域制限のある人の生活支援（例：慢性関節リウマチの人）
-----	---

- 第5回 振戦や姿勢反射障害のある人の生活支援（例：パーキンソン病の人）
第6回 失語症や構音障害のある人の生活支援
第7回 視覚機能障害のある人の生活支援、聴覚機能障害のある人の生活支援
第8回 難病で在宅療養している人の生活支援（例：ALSまたは筋ジストロフィーの人）
第9回 重度心身障害のある人の生活支援
第10回 心臓機能障害のある人の生活支援
第11回 呼吸機能障害のある人の生活支援
第12回 腎臓機能障害のある人の生活支援
第13回 排泄機能障害のある人の生活支援
第14回 学習作業、中間のまとめ等適宜
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 6 生活支援技術 II 障害編
	著者名	谷口敏代他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	3100+税
	ISBN・ISSN	978-4-8392-3146-0
推薦図書等		
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅰ 専介

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅰ 専介

科目責任者 廣橋 比刀美

授業形態 演習

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20002001

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家事の意義や目的，洗濯，掃除，裁縫，家庭経営等に関する知識と介助を学ぶ。

学生の達成目標 1. 自立に向けた家事の介助に関する知識と技術を身につける。

授業内容	第1回	第1回 授業オリエンテーション，注意事項，自己紹介
	第1回	家事の意義と目的・家事に関する利用者のアセスメント
	第2回	被服・繊維について…繊維の講義，繊維の実験の準備
	第3回	被服・繊維について…繊維の実験（燃焼性・吸水性）
	第4回	被服・繊維について…繊維の実験・しみ抜き準備
	第5回	しみ抜きの実習
	第6回	洗濯の実習（セーターの洗濯）
	第7回	しみ抜き・洗濯のまとめ
	第8回	被服実習…基本の縫い方・繕いについて
	第9回～第13回	被服実習…おむつ・袋を縫う（ボタン付けの練習など）
	第14回	感覚・運動機能，認知・知覚機能が低下している人の家事援助の留意点
	第14回	まとめ…家事援助に求められる事
	第15回	全体のまとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	試験70%, レポート他20%, 授業態度10%
	評価の方法	試験70%, レポート他20%, 授業態度10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
推薦図書等	書籍名	生活支援技術 I
	著者名	
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

家事生活支援技術Ⅱ 専介

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 家事生活支援技術Ⅱ 専介

科目責任者 三幣 周子

授業形態 演習

開講時期 後期

登録コード・曜日・時限 20002105

教室

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 日常生活の支援方法が確実に自己の学習内容として実践できる。

学生の達成目標

1. 高齢者,障害者の心身の健康の保持増進をはかるために食生活の重要性を認識させる。
2. 食生活の中での栄養学,食品学,調理学等の知識を養い,実践的な技術を学び,支援が個々の生活に対応できる能力を養う。

授業内容	第1回	第1回 食生活の意義（健康と栄養，状態別の栄養（年齢と栄養）
	第2回	第2回 高齢者の心身の特性を知った上での形態別の配慮と対応のあり方（生活習慣病の予防も含む）
	第3回	第3回 献立と調理（摂食者の状況にあった献立作成と調理法）
	第4回～第5回	第4回～第5回 調理実習(1)…日常食から介護職への展開
	第6回～第7回	第6回～第7回 調理実習(2)…高齢者の食事（身体活動の保持と疾病の予防をふまえて）
	第8回～第9回	第8回～第9回 調理実習(3)…障害者の食事（障害の程度に応じた食事）
	第10回～第11回	第10回～第11回 調理実習(4)…生活習慣病の食事（予防と維持回復をふまえて）
	第12回～第13回	第12回～第13回 調理実習(5)…郷土食
	第14回	第14回 調理実習(6)…支援したい食事をグループで作る。
	第15回	第15回 まとめ
予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	期末テスト80%，欠席レポート10%，授業態度10%
	評価の方法	期末テスト80%，欠席レポート10%，授業態度10%
教科書	書籍名	生活支援技術Ⅳ
	著者名	
	出版社	建帛社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等	書籍名	これからの調理
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	食品成分表
	著者名	
	出版社	教育図書
	価格	
	ISBN・ISSN	

書籍名	その他必要に応じてプリントを配布
著者名	
出版社	
価格	
ISBN・ISSN	

参考URL

備考	※実習衣（割烹着・三角巾）を着用。第1回の授業で説明します。
-----------	--------------------------------

介護過程 I（総論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
科目区分	専門科目
授業科目名	介護過程 I（総論）
科目責任者	川村 博子
担当教員	清宮 宏臣 根本 曜子
授業形態	講義
開講時期	前期
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 介護過程の意義や目的、介護過程の各段階の内容を理解する。

- 学生の達成目標
1. 他科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う。
 2. 介護過程の意義、目的、内容、展開方法について学ぶ。

授業内容	第1回	第1回 第2回 第3回 第4回～第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回～第13回	介護過程とは、意義と目的 介護過程の必要性、視点（VTR、ICFの視点、新しい介護） 介護課程の全体像（ケアマネジメントと介護課程、介護課程のプロセス説明） ケアマネジメント展開する際の諸サービスと関係法 アセスメントとは（ICFの視点を踏まえて） アセスメントとは（情報収集、記録、ジェノグラム、エコグラム） 計画の立案とは、目標の設定 計画の立案の実践 実施とは、準備と留意点 評価とは 事例に基づく介護課程の展開の実際
------	-----	---	--

第14回
第15回

介護課程の展開の実際（2年生の発表会出席）
まとめ

予習・復習の内容

予習
復習
展開

成績評価

評価の基準 レポート80%、授業態度20%
評価の方法 レポート、授業態度により評価する。

教科書

書籍名 「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」
著者名
出版社 中央法規
価格 2200円
ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅱ（演習）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2013年度
------	--------

科目区分	専門科目
------	------

授業科目名	介護過程Ⅱ（演習）
-------	-----------

科目責任者	川村 博子
-------	-------

担当教員	清宮 宏臣 根本 曜子
------	----------------

授業形態	演習
------	----

開講時期	前期
------	----

単位数	2
-----	---

配当年次・対象学生	1年次
-----------	-----

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要	身体障害および精神障害、施設および在宅介護等の事例の介護を展開する。
-----------	------------------------------------

学生の達成目標	1. 様々な事例における介護過程の展開を行い、利用者に適した介護を考える。
---------	---------------------------------------

授業内容	第1回	グループワークを基本とする。4教員が各グループを6～8コマ担当し、諸事例によって介護過程の展開を行う。	
	第1回～第2回	オリエンテーション、実習事例のプロセスレコード作成	
	第3回～第4回	ガイダンス、事例Aの説明	
	第5回～第6回	アセスメント	
	第7回～第8回	計画・実施・評価	
	第9回～第10回	ガイダンス、事例Bの説明	
	第11回～第12回	アセスメント	
	第13回～第14回	計画・実施・評価	
	第15回～第16回	ガイダンス、事例Cの説明	
	第17回～第18回	アセスメント	
	第19回～第20回	計画・実施・評価	
	第21回～第22回	ガイダンス、事例Dの説明	
	第23回～第24回	アセスメント	
	第25回～第26回	計画・実施・評価	
	第27回～第28回	発表準備	
	第29回～第30回	発表	
予習・復習の内容	予習		
	復習		
	展開		
成績評価	評価の基準	レポート80%、授業態度20%	
	評価の方法	レポート、授業態度により評価する。	
教科書	書籍名	「介護過程」	
	著者名		
	出版社	中央法規	
	価格	2200円	
	ISBN・ISSN		
推薦図書等	書籍名	「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」	
	著者名		
	出版社	日総研	
	価格		
	ISBN・ISSN		
参考URL			
備考			

介護過程 Ⅲ（チームアプローチ）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程 Ⅲ（チームアプローチ）

科目責任者 川村 博子

担当教員 清宮 宏臣
根本 曜子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 事例展開を通して、チームアプローチの方法や必要性を考える。

学生の達成目標 1. 他職種の役割や機能を踏まえ、介護場面でのチームアプローチを学ぶ。

授業内容	第1回	第1回	ガイダンス、グループ分け
		第2回	介護に関連する各職種と連携について
		第3回	施設内でのチームアプローチを考えて展開する事例A（ケースカンファレンス）
		第4回～第8回	事例Aの介護展開のグループワーク
		第9回	地域でのチームアプローチを考えて展開する事例B（サービス担当者会議・介護サービス計画）
		第10回～第14回	事例Bの介護展開のグループワーク
		第15回	まとめ

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価 評価の基準 レポート80%、授業態度20%

評価の方法 レポート、授業態度により評価する。

教科書	書籍名	「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」
	著者名	
	出版社	中央法規
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	

推薦図書等

参考URL

備考

介護過程Ⅳ（事例研究）

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護過程Ⅳ（事例研究）

科目責任者 川村 博子

担当教員
井口 ひとみ
布施 千草
今井 訓子
清宮 宏臣
岩本 義浩

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 Ⅲ・Ⅳ段階の実習で展開した事例のまとめとクラス全体での発表。

学生の達成目標 1. 実習での事例を振り返り、介護過程展開の意義や方法の理解を深める。

授業内容
第1回 第1回 ガイダンス（全体）
第2回～第5回 実習で受け持った利用者の介護過程の展開の振り返り（実習担当教員のグループで行う）
第6回～第10回 実習で受け持った利用者の事例報告書作成および発表に向けての準備（実習担当教員のグループで行う）
第11回 発表準備・印刷（全体）
第12回 発表準備・製本（全体）
第13回～第14回 発表（全体）
第15回 まとめ、感想文（実習担当教員のグループで行う）

予習・復習の内容
予習
復習

展開

成績評価

評価の基準 レポート80%、授業態度20%

評価の方法 レポート、授業態度により評価する。

教科書

書籍名 「新・介護福祉士養成講座9 介護過程」

著者名

出版社 中央法規

価格 2 2 0 0 円

ISBN・ISSN

推薦図書等

書籍名 「ICFの視点に基づく施設・居宅ケアプラン事例展開集」

著者名

出版社 日総研

価格

ISBN・ISSN

参考URL

備考

介護総合演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習 I

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 介護実習（実習区分 I）に向けて、心構え、予備知識、動機づけなどの準備をおこない自己の実習目標を明確にする。
2. 巡回指導教員並びに実習指導者の助言を受け入れて学びに生かすとともに、指示に従って行動することができる。
3. 実習中に生活支援の実際の学びに向けて主体的に実習目標を掲げ、それを達成していくために、その具体的な方法を考案し、実習指導者に願い出て積極的に実習機会を得つつ、利用者と実際に係わることのできる実践力を身につける。

学生の達成目標

1. 介護実習(実習区分 I・II)における学び方を理解するために自らの考えを表明したり、体験を語ったり、意見を述べ合ったりすることができる。
2. 介護実習先について各自で調べることができ、理解したうえで発表することができる。

授業内容

- 第1回 第1回 オリエンテーション（科目の概要、授業の進め方、実習の時期や概要）
介護福祉士の実習について（意義、目的、心得など）
- 第2回 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（1）（意義、目的、心得など）
- 第3回 認知症高齢者グループホーム実習に向けて（2）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
- 第4回 児童福祉施設実習に向けて（1）（意義、目的、心得など）
- 第5回 児童福祉施設実習に向けて（2）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）

第6回 入居生活施設実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）
第7回 入居生活施設実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
第8回 実習Ⅰおよび実習Ⅱへの準備（学生個人票、実習目標など提出書類の作成）
第9回 居宅介護実習に向けて（１）（意義、目的、心得など）
第10回 居宅介護実習に向けて（２）（施設や利用者について；法的根拠、位置づけ、留意点など）
第11回 記録の書き方（記録の意義や目的、基本的な書き方や文体など）
第12回 実習において予測される諸問題（身だしなみ、指導者や利用者との関わり、実習課題への取り組み方、カンファレンスへの臨み方など）
第13回 実習先別学内オリエンテーション（介護実習Ⅰ・Ⅱ）
第14回 まとめ
第15回 実習Ⅰの実習直前学内オリエンテーション

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。
	評価の方法	提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護総合演習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護総合演習 II

科目責任者 中西 正人

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 介護実習における学び方を理解するために自らの考えを表明したり、体験を語ったり、意見を述べ合ったりする。
2. 実習において体験学習してきた事例の発表を通して学びを深め合う。

学生の達成目標

1. 介護実習(実習区分 II)に向けて、心構え、予備知識、動機づけなどの準備をおこない自己の実習目標を明確にする。
2. 実習中に介護過程の展開の学びに向けて主体的に実習目標を達成していくためにご協力いただく利用者の理解を深め、ご本人にとっての主目標の達成を支援するためにより良い係わりのできる実践力を身につける。
3. 介護実習後は、十分な振り返りをおこなうことで学びを深め自己の介護観の涵養に役立てる。

授業内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 第1回 実習 II の実習直前学内オリエンテーション |
| | 第2回 実習 I の振り返り(1) (児童福祉施設実習) |
| | 第3回 実習 I の振り返り(2) (認知症高齢者グループホーム実習) |
| | 第4回 実習 II の振り返り(3) (居宅介護実習) |
| | 第5回 実習 II の振り返り(4) (入居生活施設実習) |
| | 第6回 実習課題「介護過程の展開」の振り返り(学びと課題)(1) |
| | 第7回 実習課題「介護過程の展開」の振り返り(学びと課題)(2) |
| | 第8回 実習で実際に体験した事例・出来事について(疑問点、問題意識や課題提起など)(1) |
| | 第9回 実習で実際に体験した事例・出来事について(疑問点、問 |

題意識や課題提起など）（２）
第10回 介護福祉における研究の視点（上記の問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（１）
第11回 介護福祉における研究の視点（上記の問題意識や課題提起に関連した先行研究、事例研究について）（２）
第12回 実習で課題となった生活支援技術について（振り返りと学びなおし）（１）
第13回 実習で課題となった生活支援技術について（振り返りと学びなおし）（２）
第14回 介護実習（実習区分Ⅱ）のまとめ反省会
第15回 実習全体を通しての学び（「介護観」について）・まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。
	評価の方法	提出レポートと発表の内容・授業への参加度などを総合的に評価する。
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

介護実習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習 I

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
清宮 宏臣
布施 千草
今井 訓子
岩本 義浩
川村 博子
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 前期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。
2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。
3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。

学生の達成目標

1. 福祉施設において利用者はどのような介護ニーズをもって生活しているか理解する。
2. 福祉施設において職員は利用者の介護ニーズに応えるためにどのような支援をしているか理解する。
3. 心身に関して介護を要する児童の利用者が福祉施設においてどのように日中を過ごしているか理解する。

授業内容

- 第1回 * 実習時期
- ・ 児童福祉施設：8月～9月
 - ・ 認知症高齢者グループホーム：8月～9月

- * 実習日数
 - ・ 児童福祉施設において1日の実習をおこなう。
 - ・ 認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）において5日の介護実習をおこなう。
- * 実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する）
 - ・ 児童福祉施設における実習：肢体不自由や知的障害のある児童が通ったり居住したりする福祉施設における日勤時間帯の実習
 - ・ 認知症高齢者グループホーム：1ユニット9人以下で利用者が共同生活するグループホームにおける日勤時間帯の実習

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪内孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

介護実習 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 介護実習 II

科目責任者 中西 正人

担当教員
井口 ひとみ
清宮 宏臣
布施 千草
今井 訓子
岩本 義浩
川村 博子
石原 富子

授業形態 実習

開講時期 後期

単位数 4

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

1. 実習の手引きと教員からの指示に基づきつつ、実習先の指導方針と実習方法に従って実習する。
2. 学校の巡回指導担当教員と実習先の実習指導者に実習状況について報告・連絡・相談し指導と支援を得られるようにする。
3. 利用者のプライバシーにかかわり学んでいくことから、敬意と感謝の念を常に忘れず責任ある態度をもって保秘は厳守する。

学生の達成目標

1. 介護過程の展開実習を通して利用者を全人間的に支援するかわりの重要性を理解する。
2. 実際に真のニーズを理解しそれに応えていくために生活支援技術をいかに生かしていったらよいのかを理解する。
3. ホームヘルプ、デイサービス、ショートステイなどの居宅生活支援事業の重要性を理解する。

授業内容

第1回 *実習時期：10月（定められた実習期間が終了し次第後期授業開始となる）
*実習日数：合計20日

- ・入居生活する福祉施設において30日の期間中に18日の介護過程の展開実習をおこなう。
 - ・ホームヘルパーと同行するなどして介護過程の展開実習と同じ30日の期間中に2日の居宅介護実習をおこなう。
- * 実習先と実習形態（学校で指定した実習先に学生を配属する）
- ・介護過程の展開実習：入居生活する福祉施設における、早番、遅番、夜勤などの勤務時間の違う実習
 - ・居宅介護実習：訪問介護または訪問入浴介護事業所からの同行訪問、支援センターでの支援業務のいずれかの実習

※なお、上記と同じ期間において、実習先の状況や学生の学習状況によって、デイサービスやデイケアなどの通所事業所の実習を実施する場合もある。

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
	評価の方法	実習記録、及び学びへの姿勢と達成状況についての実習指導者と教員の評価に基づき決定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。	
	介護実習の手引き	
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 第8巻 介護総合演習
	著者名	坪田孝・能田茂代編
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

発達と老化の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 発達と老化の理解 II

科目責任者 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。学生は、課題学習をしながら、主体的な学びができるようにする。

学生の達成目標

1. 老化による身体的変化について理解できる。
2. 高齢者に起こりやすい疾病の特徴および日常生活での留意点などが理解できる。

授業内容

第1回	第1回	ガイダンス、加齢（老化）とは
	第2回	“老い”に対する捉え方・価値
	第3回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（感覚器系、脳神経系）
	第4回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（消化器系、循環器系）
	第5回	老化に伴う身体の変化と生活への影響（泌尿器系、内分泌系ほか）
	第6回	高齢者の病気の特徴
	第7回～第10回	生活不活発病とその予防（寝たきり予防に向けて）
	第11回～第13回	高齢者がかかりやすい病気とその予防、生活上の留意点
	第14回	介護保険における特定疾病
	第15回	まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座11発達と老化の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	2200＋税
	ISBN・ISSN	978-8058－3422
推薦図書等	書籍名	最新介護福祉全書 9
	著者名	林泰史他
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2200＋税
	ISBN・ISSN	9 7 8－4－8 3 9 2－3 1 4 9－1
参考URL		
備考		

認知症の理解 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 I

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症のある人を取り巻く社会環境を知るとともに、医学的視点に基く認知症の症状理解を行う。

- 学生の達成目標
1. 認知症ケアの歴史を理解する。
 2. 医学的視点に基づく認知症の症状を理解する
 3. 認知症のある人と家族への支援について学ぶ。

授業内容

第1回 第1回 認知症ケアの歴史の変遷（認知症の疫学、施策も含む）その I
第2回 医学的側面からの認知症についての基礎的理解（原因となる疾患と特徴）
第3回 認知症の検査や治療法を理解
第4回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 その I 記憶障害・見当識障害・失語・失行・失認・その他
第5回 中核症状と周辺症状の特徴的理解 その II 徘徊・妄想・食行動異常・その他
第6回 認知症進行に伴う症状変化の理解（ステージアプローチの必要性）
第7回 コミュニケーション障害としての認知症
第8回 認知症のある人が抱える心理的な問題（不快、不安、混乱、被害感等）
第9回 認知症のある人にみられるさまざまな行動（BPSDについて、その出現原因、介護者との関係）
第10回 認知症のある人の内的世界の理解
第11回 認知症のある人の家族の心理と障害受容

第12回 認知症のある人を介護する家族への支援
第13回 若年性認知症のある人と家族の支援 そのⅠ
第14回 若年性認知症のある人と家族の支援 そのⅡ
第15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	レポート提出、期末テスト
教科書	書籍名	新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解
	著者名	介護福祉士養成講座編集委員会
	出版社	中央法規
	価格	
	ISBN・ISSN	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

認知症の理解 II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 認知症の理解 II

科目責任者 布施 千草

授業形態 講義

開講時期 後期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 認知症ケアの実際と今後の課題について学習する。

- 学生の達成目標
1. 認知症ケアに関する基礎的知識を習得する
 2. 認知症の心理療法について理解する
 3. 認知症ケアの今後の展望について理解する

授業内容

- 第1回
- 第1回 認知症ケアの理念について
 - 第2回 パーソンセンタードケアについて その I
 - 第3回 パーソンセンタードケアについて その II
 - 第4回 認知症の心理療法 その I
 - 第5回 認知症の心理療法 その II
 - 第6回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 その I
 - 第7回 認知症のある人のケアマネジメント 竹内式 その II
 - 第8回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 その I
 - 第9回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 その II
 - 第10回 認知症のある人のケアマネジメント センター方式 その III
 - 第11回 認知症の予防
 - 第12回 認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 その I
 - 第13回 認知症のある人の地方包括ケア（連携と協働）－尾道市の取り組みの紹介 その II

第14回 認知症ケアの今後の課題

第15回 まとめ

予習・復習の内容

予習

復習

展開

成績評価

評価の基準

DVDやさまざまな資料の社会事象を通して自分の考えを持ち、
自分の考えを相手に伝えることができる。
自分の考えを明確に示した小論文にまとめることができる。

評価の方法

テスト及び小論文、授業態度により評価する。

教科書

書籍名

新・介護福祉士講座12 認知症の理解

著者名

介護福祉士養成講座委員会

出版社

中央法規

価格

ISBN・ISSN

推薦図書等

参考URL

備考

こころとからだのしくみ I

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみ I

科目責任者 大野 孝則

授業形態 講義

開講時期 前期

登録コード・曜日・時限 20004005

教室

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次・2年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 こころとからだのしくみの基礎と代表的疾患について講義。

学生の達成目標 1. こころとからだのしくみの基本と代表的障害を学び、care workerとして必要な知識を習得する。

授業内容

第1回	第1回 欲求, 自己概念, 尊厳, 自己決定
	第2回 細胞, 生体膜, 核, DNA, ATP
	第3回 組織 (上皮, 支持, 筋, 神経)
	第4回 血液, ホメオスタシス
	第5回 皮膚, 骨格, 筋系の解剖と生理
	第6回 循環器系, 呼吸器系の解剖と生理
	第7回 消化器系の解剖と生理
	第8回 腎・泌尿器系, 内分泌系の解剖と生理
	第9回～第11回 脳神経系の解剖と生理
	第12回 感覚器系の解剖と生理
	第13回～第15回 疾病 (障害) と介護 (悪性腫瘍, 虚血系心疾患, 脳血管障害, 高血圧, 糖尿病, 感染症, 免疫異常, など)

予習・復習の内容

予習

復習

	展開	
成績評価	評価の基準	試験
	評価の方法	試験
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。 使用せず。	
推薦図書等	書籍名	シンプル解剖生理学
	著者名	
	出版社	南江堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	金芳堂
	価格	
	ISBN・ISSN	
	書籍名	医学一般
	著者名	
	出版社	へるす出版
	価格	
	ISBN・ISSN	
参考URL		
備考		

こころとからだのしくみ II

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 こころとからだのしくみ II

科目責任者 井口 ひとみ

授業形態 講義

開講時期 前期

単位数 2

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる。

学生の達成目標

1. 人体各部の名称と、日常生活に関連した身体の仕組みと心について理解できる。
2. 将来的に介護技術を行う際に身体の仕組みやこころについて関連付けて考えることができる。

授業内容

- 第1回
- 第1回 人体部位の名称、生命の維持のしくみ
 - 第2回 人体部位の名称、生命の維持のしくみ
 - 第3回 移動に関連した解剖整理
 - 第4回 移動に関連したこころのしくみ・ボディメカニクス
 - 第5回 食事に関連した解剖整理 機能低下が食事に及ぼす影響
 - 第6回 栄養摂取の意義・安全な食事のための留意点
 - 第7回 入浴、清潔保持に関連した解剖整理 皮膚のしくみ・頭髮のしくみ・機能低下が入浴に及ぼす影響
 - 第8回 入浴、清潔保持の実際
 - 第9回 身じたくの関連した解剖整理 機能低下が身じたくに及ぼす影響
 - 第10回 身じたくの関連したこころのしくみ
 - 第11回 排泄に関連した解剖整理 機能低下が排泄に及ぼす影響
 - 第12回 排泄に関連したこころのしくみ
 - 第13回 睡眠の構造と睡眠障害 睡眠に関連したこころの

しくみ
第 14回 終末期の心身の状況・死後の変化 死に対するこ
ころの理解
第 15回 まとめ

予習・復習の内容	予習	
	復習	
	展開	
成績評価	評価の基準	
	評価の方法	
教科書	書籍名	最新介護福祉全書 第 12巻こころとからだのしくみ
	著者名	小板橋喜久代
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2940
	ISBN・ISSN	978－4－8392－3162－0
推薦図書等	書籍名	カラー人体解剖学
	著者名	F．H．マティーニ他
	出版社	西村書店
	価格	7800+税
	ISBN・ISSN	978－4－8913－305－5
参考URL		
備考		

在宅における医療処置

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度 2013年度

科目区分 専門科目

授業科目名 在宅における医療処置

科目責任者 布施 千草

担当教員 井口 ひとみ
今井 訓子

授業形態 演習

開講時期 後期

単位数 1

配当年次・対象学生 1年次

授業内容・授業計画

授業のねらい・概要 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

学生の達成目標 1. 家族介護者が行う医療処置を支援するために看護技術の基礎知識を養う。

授業内容

第1回	第1回 ガイダンス：（家庭生活の基本機能・地域概念）家族介護者と医療処置の現状
第2回～第3回	感染予防（清潔・不潔を含む）、手指消毒、ガウンテクニック
第4回～第5回	創や褥創の処置、自己導尿、膀胱洗浄
第6回～第7回	経管栄養、中心静脈栄養法
第8回～第9回	酸素吸入、人工呼吸療法
第10回～第11回	緊急時の対応、吸引
第12回～第13回	注射法（インシュリン投与、点滴の固定と抜針）
第14回～第15回	補習とまとめ

予習

予習・復習の内容 復習

展開

成績評価	評価の基準	課題レポート及び授業への参加態度などを総合的に評価する。	
	評価の方法	毎回の課題レポート（80％）	授業への参加態度（20％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
	資料を配付する。		
推薦図書等			
参考URL			
備考			